

# 官報

號外 昭和六年三月五日

## 第五十九回 貴族院議事速記録第二十五號

昭和六年三月四日(水曜日)午前十時二十一分開議

### 議事日程 第二十五號

昭和六年三月四日

午前十時開議

第一 國務大臣ノ演說ニ關スル件(第二十三日)

第二 地租法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第三 營業收益稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第四 砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第五 織物消費稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第六 明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第七 大正十五年法律第二十四號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第八 都市計畫法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第九 議長(公爵德川家達君) 是ヨリ書記官ヲシテ諸般ノ報告ヲ致サセマス

第十 議長(公爵德川家達君) 是ヨリ書記官ヲシテ諸般ノ報告ヲ致サセマス

第十一 議長(公爵德川家達君) 是ヨリ書記官ヲシテ諸般ノ報告ヲ致サセマス

第十二 議長(公爵德川家達君) 是ヨリ書記官ヲシテ諸般ノ報告ヲ致サセマス

第十三 議長(公爵德川家達君) 是ヨリ書記官ヲシテ諸般ノ報告ヲ致サセマス

第十四 議長(公爵德川家達君) 是ヨリ書記官ヲシテ諸般ノ報告ヲ致サセマス

第十五 議長(公爵德川家達君) 是ヨリ書記官ヲシテ諸般ノ報告ヲ致サセマス

### 取引所稅法中改正法律案特別委員會

委員長 侯爵松平 康昌君  
副委員長 子爵松平 直平君

同日可決シタル議員藤安辰次郎君ニ對スル弔辭ハ即日之ヲ贈レリ

同日政府ヨリ左ノ通政府委員仰付テラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

第五十九回帝國議會農林省所管事務政府委員

農林書記官 村上龍太郎君  
同 村見 安君  
同 舟野 碩哉君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

震災被害者ニ對スル租稅ノ減免猶豫等ニ關スル法律案可決報告書

國際決済銀行ニ租稅等ヲ課セザルコトニ關スル法律案可決報告書

同日委員長ヨリ豫算委員第四分科擔當委員男爵鍋島直明君ヲ第五分科擔當委員ニ選定シタル旨ノ報告書ヲ提出セリ

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

地租法案

營業收益稅法中改正法律案

砂糖消費稅法中改正法律案

織物消費稅法中改正法律案

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案

大正十五年法律第二十四號中改正法律案

都市計畫法中改正法律案

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、藤安辰次郎君死亡ニ依リ請願委員ニ缺員ヲ生ジマシタ、就キマシテハ第四部ニ於テ其補選選舉ヲ行ハレムコトヲ望ミマス

○議長(公爵德川家達君) 本日板谷宮吉君、業務上ノ都合ニ依リ船舶積量測定法中改正法律案特別委員ヲ辭任シ度キ旨申出ガゴザイマシタ、許可ヲ致シテ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、右補缺トシテ西本健次郎君ヲ指名イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程變更ニ付御諮リヲ致シマス、議事日程第一ヲ第八ノ終リニ廻ハシタイト考ヘマス、御異存ハゴザイマセヌカ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第二ヨリ第八マデ、一括シテ議題ト致シマス、井上大藏大臣

地租法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月三日

衆議院議長 藤澤農之輔

貴族院議長 公爵德川家達殿

地租法案

第一章 總則

第一條 本法施行地ニ在ル土地ニハ本法ニ依リ地租ヲ課ス

第二條 左ニ掲グル土地ニハ地租ヲ課セズ但シ有料借地ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 國、府縣、市町村其ノ他勸令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地

二 府縣、市町村其ノ他勸令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スルモノト決定シタル其ノ所有地但シ其ノ決定ヲ爲シタル日ヨリ一年內ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セザルモノヲ除ク

三 府縣社地、鄉村社地、昭魂社地

四 墳墓地

五 公衆用道路、鐵道用地、軌道用地、運河用地

六 用惡水路、溜池、堤塘、井溝  
七 保安林  
第三條 土地ニハ一筆毎ニ地番ヲ附シ其ノ地目、地積及賃貸價格(無租地及免租年期地ニ付テハ賃貸價格ヲ除ク)ヲ定ム  
第四條 稅務署ニ土地臺帳ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登錄ス  
一 土地ノ所在  
二 地番  
三 地目  
四 地積  
五 賃貸價格  
六 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱  
七 質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ其ノ質權者又ハ地上權者ノ住所及氏名又ハ名稱  
本法ニ定ムルモノノ外土地臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第五條 地番ハ市町村、大字、字又ハ之ニ準ズベキ地域ヲ以テ地番區域トシ其ノ區域毎ニ起番シテ之ヲ定ム  
第六條 有租地ノ地目ハ土地ノ種類ニ從ヒ左ノ如ク區別シテ之ヲ定ム

第一類地 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地

第二類地 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

無租地ノ地目ハ第二條第三號乃至第七號ノ土地ニ在リテハ各其ノ區別ニ依リ、其ノ他ノ土地ニ在リテハ其ノ現況ニ依リ適當ニ區別シテ之ヲ定ム

第七條 地積ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

一 宅地及鑛泉地ノ地積ハ平方メートルヲ單位トシテ之ヲ定ム一平方メートルノ百分ノ一未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

二 宅地及鑛泉地以外ノ土地ノ地積ハ一アルヲ單位トシテ之ヲ定ム一アルノ百分ノ一未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但シ一筆ノ地積一アルノ百分ノ一未滿ナルモノニ付テハ一アルノ一萬分ノ一未滿ノ端數ヲ切捨ツ

第八條 地租ノ課稅標準ハ土地臺帳ニ登錄シタル賃賃價格トス

賃賃價格ハ貸主ガ公課、修繕費其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃賃スル場合ニ於テ貸主ノ取得スベキ一年分ノ金額ニ依リ之ヲ定ム

第九條 賃賃價格ハ十年毎ニ一般ニ之ヲ改訂ス第一回ノ改訂ハ昭和十三年ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ改訂ニ關スル事項ハ其ノ都度別ニ之ヲ定ム

土地ノ異動ニ因リ賃賃價格ヲ設定シ又ハ修正スル必要アルトキハ類地ノ賃賃價格ニ比準シ其ノ土地ノ品位及情況ニ應ジ之ヲ定ム

第十條 地租ノ稅率ハ百分ノ三・八トス第十一條 地租ハ毎年左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

一 宅地租 第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限 年額ノ二分ノ一

第二期 翌年一月一日ヨリ三十一日限 年額ノ二分ノ一

二 田租 第一期 翌年一月一日ヨリ三十一日限 年額ノ四分ノ一

第二期 翌年二月一日ヨリ末日限 年額ノ四分ノ一

第三期 翌年三月一日ヨリ三十一日限 年額ノ四分ノ一

第四期 翌年五月一日ヨリ三十一日限 年額ノ四分ノ一

三 其ノ他 第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限 年額ノ二分ノ一

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十一日限 年額ノ二分ノ一

特別ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ納期ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 地租ハ納期開始ノ時ニ於テ土地臺帳ニ所有者トシテ登錄セラレタル者ヨリ之ヲ徵收ス

但シ質權ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ土地臺帳ニ質權者又ハ地上權者トシテ登錄セラレタル者ヨリ之ヲ徵收ス

第十三條 土地ノ異動アリタル場合ニ於テハ地番、地目、地積及賃賃價格ハ土地所有者ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ若ハ申告ヲ相當ト認ムルトキ又ハ申告ヲ要セザルトキハ稅務署長ノ調査ニ依リ稅務署長之ヲ定ム

第十四條 本法ニ於テ無租地ト稱スルハ地租ヲ課セザル土地(免租年期地、災害免租地及自作農免租地ヲ含ム)ヲ謂ヒ有租地ト稱スルハ其ノ他ノ土地ヲ謂フ

第十五條 無租地ガ有租地ト爲リタルトキ又ハ有租地ガ無租地ト爲リタルトキハ土地所有者ハ三十日內ニ之ヲ稅務署長ニ申告スベシ但シ有租地ガ無租地ト爲リタル場合ニ於テ之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ若ハ申告ヲ爲シタルモノ又ハ官公署ニ於テ公示シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 新ニ土地臺帳ニ登錄スベキ土地ヲ生ジタルトキハ當該地番區域內ニ於ケル最終ノ地番ヲ追ヒ順次其ノ地番ヲ定ム但シ特別ノ事情アルトキハ適宜ノ地番ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 新ニ土地臺帳ニ登錄スベキ土地ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ地目ヲ設定ス

第十八條 新ニ土地臺帳ニ登錄スベキ土地臺帳ニ登錄セラレタル無租地ガ有租地ト爲リ又ハ有租地ガ無租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第十九條 國有財產法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ開拓ノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開拓減租年期ヲ許可シ年期中ハ其ノ原地(開拓前ノ土地)相當ノ賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第二十條 國有財產法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ埋立(干拓ヲ含ム)ノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノ又ハ公有水面埋立法第二十四條若ハ第五十條ノ規定ニ依リ埋立地ノ所有權ヲ取得シ有租地ト爲リタル土地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ埋立免租年期ヲ許可ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザル土地ニ付テハ更二十年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

第二十一條 前二條ノ規定ニ依リ開拓減租年期又ハ埋立免租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ六十日內ニ、開拓減租年期又ハ埋立免租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スベシ

第二十二條 開拓減租年期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキハ開拓減租年期ハ消滅ス

開拓減租年期中ニ於テ地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃賃價格ハ之ヲ修正セズ

埋立免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ナキモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第二十三條 開拓減租年期地又ハ埋立免租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スベシ

第二十四條 無租地ガ有租地ト爲リタル

トキハ直ニ其ノ賃貸價格ヲ設定ス  
開拓減租年期地ニ付テハ有租地ト爲リ  
タルトキ直ニ原地相當ノ賃貸價格ヲ設  
定シ開拓減租年期ノ滿了スル年ニ於テ  
其ノ賃貸價格ヲ修正ス

埋立免租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿  
了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ設定ス  
第二十五條 開拓減租年期又ハ埋立免租  
年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ設定シ又  
ハ修正スル場合ニ於テ必要アリト認ム  
ルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第二十六條 無租地ガ有租地ト爲リタル  
トキハ賃貸價格ヲ設定(第二十四條第  
三項ノ設定ヲ含ム)シタル年ノ翌年分  
ヨリ地租ヲ徵收ス

開拓減租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ  
修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲  
シタル年ノ翌年分ヨリ修正賃貸價格ニ  
依リ地租ヲ徵收ス

第二十七條 有租地ガ無租地ト爲リタル  
トキハ其ノ申告ヲ要スルモノニ付テハ  
申告アリタル後ニ開始スル納期ヨリ、  
其ノ申告ヲ要セザルモノニ付テハ稅務  
署長ガ其ノ事實ヲ認メタル後ニ開始ス  
ル納期ヨリ地租ヲ徵收セズ

第二十八條 本法ニ於テ分筆ト稱スルハ  
一筆ノ土地ヲ數筆ノ土地ト爲スヲ謂ヒ  
合筆ト稱スルハ數筆ノ土地ヲ一筆ノ土  
地ト爲スヲ謂フ

第二十九條 分筆又ハ合筆ヲ爲サントス  
ルトキハ土地所有者ハ之ヲ稅務署長ニ  
申告スベシ

第三十條 一筆ノ土地ノ一部ガ左ノ各號  
ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ前條  
ノ申告ナキ場合ニ於テモ稅務署長ハ其  
ノ土地ヲ分筆ス

一 別地目ト爲ルトキ  
二 無租地ガ有租地ト爲リ又ハ有租地  
ガ無租地ト爲ルトキ

三 所有者ヲ異ニスルトキ  
四 質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ  
定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ  
五 地番區域ヲ異ニスルトキ

第三十一條 分筆シタル土地ニ付テハ分  
筆前ノ地番ニ符號ヲ附シテ各筆ノ地番  
ヲ定ム

合筆シタル土地ニ付テハ合筆前ノ地番  
中ノ首位ノモノヲ以テ其ノ地番トス  
特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ  
拘ラズ適宜ノ地番ヲ定ムルコトヲ得

第三十二條 分筆ヲ爲シタルトキハ測量  
シテ各筆ノ地積ヲ定ム

合筆ヲ爲シタルトキハ合筆前ノ各筆ノ  
地積ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ地積ト  
ス

第三十三條 分筆ヲ爲シタルトキハ各筆  
ノ品位及情況ニ應ジ分筆前ノ賃貸價格  
ヲ配分シテ其ノ賃貸價格ヲ定ム

合筆ヲ爲シタルトキハ合筆前ノ各筆ノ  
賃貸價格ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ  
賃貸價格トス

第三節 開墾  
第三十四條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ  
第三十五條 開墾成功シタルトキハ土地  
所有者ハ三十日內ニ之ヲ稅務署長ニ申  
告スベシ

第三十六條 開墾ニ著手シタル土地ニ付  
テハ土地所有者ノ申請ニ依リ開墾著手  
ノ年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開墾減租  
年期ヲ許可シ年期中ハ原地(開墾前ノ  
土地)相當ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵  
收ス但シ地類變換ヲ爲シタル後五年內  
ニ開墾ニ著手シタル土地ニ付テハ之ヲ  
許可セズ

二十年内ニ成功シ能ハザル開墾地ニ付  
テハ前項ノ年期ハ開墾著手ノ年及其ノ  
翌年ヨリ四十年トス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザ  
ル土地ニ付テハ更ニ十年內ノ年期延長  
ヲ許可スルコトヲ得

宅地又ハ鑛泉地ト爲ス開墾地ニ付テハ  
其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ開墾減租年  
期ヲ短縮スルコトヲ得

第三十七條 前條ノ規定ニ依リ開墾減租  
年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ開墾著  
手ノ日ヨリ三十日內ニ、開墾減租年期  
延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ  
滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長  
ニ申請スベシ

第三十八條 開墾減租年期中ニ於テ開墾  
成功シタルトキ又ハ其ノ成功地ニ付地  
目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修  
正スルモ其ノ賃貸價格ハ之ヲ修正セ  
ズ

開墾減租年期中ニ於テ其ノ原地ニ付地  
目變換ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ成功地  
ニ付地類變換ヲ爲シタルトキハ開墾減  
租年期ハ消滅ス

第三十九條 開墾減租年期地ニ付テハ土  
地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十  
日迄ニ年期滿了ノ申告書ヲ稅務署長ニ提  
出スベシ

第四十條 開墾成功シタルトキハ(開墾  
減租年期中ナルト否トヲ問ハズ)直ニ  
其ノ地目ヲ修正ス

第四十一條 開墾成功シタルトキハ開墾  
減租年期地ヲ除クノ外直ニ其ノ賃貸價  
格ヲ修正ス

開墾減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿  
了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ修正ス  
但シ年期滿了スルモ尙開墾成功セザル  
土地ニ付テハ開墾成功シタルトキ直ニ  
其ノ賃貸價格ヲ修正ス

第四十二條 開墾ニ因リ賃貸價格ヲ修正  
スル場合ニ於テハ其ノ地積ヲ改測ス但  
シ其ノ地積ニ異動ナシト認ムルトキハ  
之ヲ省略スルコトヲ得

第四十三條 開墾ニ因リ地目又ハ賃貸價  
格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正  
ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正地目又  
ハ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第四節 地目變換及地類變換  
第四十四條 本法ニ於テ地目變換ト稱ス  
ルハ第一類地中又ハ第二類地中ノ各地  
目ヲ變更スルヲ謂ヒ地類變換ト稱スル  
ハ第一類地ヲ第二類地ト爲スヲ謂フ

第四十五條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲  
シタルトキハ土地所有者ハ三十日內ニ  
之ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第四十六條 二十年内ニ成功シ能ハザル  
地目變換地ニ付テハ土地所有者ノ申請  
ニ依リ地目變換著手ノ年及其ノ翌年ヨ  
リ四十年ノ地目變換減租年期ヲ許可シ  
年期中ハ原地(變換前ノ土地)相當ノ賃  
貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セザ  
ル土地ニ付テハ更ニ十年內ノ年期延長  
ヲ許可スルコトヲ得

宅地又ハ鑛泉地ニ變換スル土地ニ付テ  
ハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ地目變換  
減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第四十七條 前條ノ規定ニ依リ地目變換  
減租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ地  
目變換著手ノ日ヨリ三十日內ニ、地目  
變換減租年期延長ノ許可ヲ受ケントス  
ル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日  
迄ニ稅務署長ニ申請スベシ

第四十八條 地目變換減租年期中ニ於テ  
其ノ原地又ハ變換地ニ付地目變換ヲ爲  
シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其  
ノ賃貸價格ハ之ヲ修正セズ

地目變換減租年期中ニ於テ地類變換ヲ  
爲シタルトキハ地目變換減租年期ハ消  
滅ス

第四十九條 地目變換減租年期地ニ付テ  
ハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六  
月三十日迄ニ年期滿了ノ申告書ヲ稅務署

長ニ提出スベシ

第五十條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ(地目變換減租年期中ナルト香トヲ問ハズ)直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第五十一條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期中ヲ除ク外直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

地目變換減租年期中ニ付テハ其ノ年期中滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ修正ス但シ年期中滿了スルモ尙地目變換セザル土地ニ付テハ地目變換シタルトキ直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

第五十二條 地目變換又ハ地類變換ニ因リ賃賃價格ヲ修正スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第五十三條 地目變換又ハ地類變換ニ因リ地目又ハ賃賃價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正地目又ハ修正賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第五十四條 本法ニ於テ荒地ト稱スルハ災害ニ因リ地形ヲ變シ又ハ作土ヲ損傷シタル土地ヲ謂フ

第五十五條 荒地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ荒地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ十五年内ノ荒地免租年期中許可ス

第五十六條 前項ノ年期中滿了スルモ尙荒地ノ形狀ヲ存スルモノニ付テハ更ニ十五年内ノ年期中延長ヲ許可スルコトヲ得

海、湖又ハ河川ノ狀況ト爲リタル荒地ニ付テハ前項ノ延長年期中二十年内トス其ノ年期中滿了スルモ尙海、湖又ハ河川ノ狀況ニ在ルモノハ本法ノ適用ニ付テハ海、湖又ハ河川ト爲リタルモノト看做ス

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ荒地免租年期中許可ヲ受ケントスル者ハ稅務署

長ニ申請スベシ

荒地免租年期中延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期中滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スベシ

第五十七條 荒地免租年期中ニ付テハ免租年期中許可ノ申請アリタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セズ

第五十八條 荒地免租年期中ノ土地ガ再ビ荒地ト爲リ免租年期中ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ノ年期中消滅ス

第五十九條 開墾減租年期中、埋立免租年期中、開墾減租年期中又ハ地目變換減租年期中ノ土地ニ付荒地免租年期中許可シタルトキハ其ノ許可ヲ爲シタル年ヨリ荒地免租年期中滿了ニ至ル迄ハ開墾減租年期中、埋立免租年期中、開墾減租年期中又ハ地目變換減租年期中ハ地目變換減租年期中ハ其ノ進行ヲ止ム

前項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ノ全部又ハ一部ヲ免除シタル土地ニ付荒地免租年期中許可シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十條 荒地免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ナキモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期中滿了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第六十一條 荒地免租年期中ニ付テハ納稅義務者ハ年期中滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期中滿了ノ申告書ヲ稅務署長ニ提出スベシ

第六十二條 荒地免租年期中ニ付テハ其ノ年期中滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ設定ス

第六十三條 荒地免租年期中滿了ニ因リ賃賃價格ヲ設定スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第六十四條 荒地免租年期中滿了ニ因リ賃賃價格ヲ設定シタル土地ニ付テハ其

ノ設定ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第三章 災害地免租

第六十五條 北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ互ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ年分地租ハ之ヲ免除ス

第六十六條 地目變換若ハ開墾成功ノ申告アリタル土地又ハ耕地整理工完了シ賃賃價格配賦ノ申出アリタル土地ニシテ未ダ土地臺帳ヲ更正セザルモノニ付テハ其ノ成功地目ガ田畑ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十七條 前二條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ明ニシテ稅務署長ニ申請スベシ

第六十八條 前條ノ申請アリタルトキハ被害ノ調査中其ノ年分地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第六十九條 第六十五條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ之ヲ控除セズ

第四章 自作農地免租

第七十條 田畑地租ノ納期開始ノ時ニ於テ納稅義務者(法人ヲ除ク)ノ住所都市町村及隣接市町村内ニ於ケル田畑賃賃價格ノ合計金額ガ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ田畑ノ當該納期分地租ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除ス但シ小作ニ付シタル田畑ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

民法施行前ヨリ引續キ存スル永小作權ニ付其ノ設定ノ當時舊來ノ慣行ニ依リテ小作料支拂ノ外當該田畑ノ地租ノ全額ヲ永小作權者ニ於テ負擔スルコトヲ約シタル田畑ニ關シテハ命令ノ定ムル

所ニ依リ永小作權者ヲ所有者ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十一條 前條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ毎年三月中ニ住所都市町村ヲ經由シ稅務署長ニ申請スベシ

前項ノ申請期間經過後新ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第五章 地租徵收

第七十二條 稅務署長ハ土地ノ異動其ノ他地租徵收ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ市町村ニ通知スベシ

第七十三條 地租ハ各納稅義務者ニ付同一市町村内ニ於ケル同一地目ノ賃賃價格ノ合計金額ニ依リ算出シ之ヲ徵收ス但シ賃賃價格ノ合計金額ガ一圓ニ滿タザルトキハ地租ヲ徵收セズ

田、畑、宅地以外ノ土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十四條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ納期開始前十五日迄ニ賃賃價格及地租ノ總額並ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ稅務署長ニ報告スベシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ報告後納期開始迄ニ報告事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ異動額ヲ稅務署長ニ報告スベシ

第七十五條 市町村ハ第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑ノ賃賃價格ノ總額ヲ前條ノ例ニ準ジ稅務署長ニ報告スベシ

第七十六條 大藏大臣ハ稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ隨時市町村ニ於ケル國稅徵收ニ關スル事務ヲ監督セシムベシ

第六章 雜則

第七十七條 他ノ法律ニ依リ一定ノ期間

地租ヲ免除シタル土地ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外第五十七條及第六十條乃至第六十四條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 稅務署長土地ノ異動ニ因リ地番、地目、地積又ハ貸賃價格ヲ土地臺帳ニ登錄シタルトキ又ハ登錄ヲ變更シタルトキハ土地所有者及納稅義務者ニ通知スベシ

第七十九條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市町村内ニ現住セザルトキハ地租ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ市町村内ニ現住スル者ニ就キ納稅管理人ヲ定メ當該市町村長ニ申告スベシ

第八十條 土地所有者ニ變更アリタル場合ニ於テハ舊所有者ガ爲スベカリシ申告ハ所有者ノ變更アリタル日ヨリ三十日内ニ新所有者ヨリ之ヲ爲スベシ

第八十一條 本法ニ依リ土地所有者ヨリ爲スベキ申告又ハ申請ハ質權ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ土地臺帳ニ登錄セラレタル質權者又ハ地上權者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

第八十三條 詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ地租ヲ逋脱シタル者ハ其ノ逋脱シタル税金ノ五倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ地租ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ

用ヒズ

第八十四條 本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サズ仍テ地租ニ不足額アルトキハ直ニ之ヲ徵收ス

第八十五條 前二條ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收スル場合ニ於テハ第七十三條ノ規定ニ拘ラズ當該土地一筆毎ニ其ノ地租ヲ算出ス

第八十六條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ土地ノ檢査ヲ爲シ又ハ土地ノ所有者、質權者、地上權者其ノ他利害關係人ニ對シ必要ナル事項ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地ノ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ゲタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第八十八條 本法ハ國有地ニ之ヲ適用セズ

第八十九條 府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セザル土地ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セルコトヲ得ズ但シ所有者以外ノ者同條第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其ノ土地ニ付使用者ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルハ此ノ限ニ在ラズ

附則

第九十條 本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年分地租ニ限リ第十條ノ規定中百分ノ三・八トアルハ百分ノ四、第十一條ノ規定中宅地租第一期其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年十一月一日ヨリ三十一日限、其ノ他第一期其ノ年九月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、其ノ他第二期其ノ年十一月一日ヨリ三十一日限トアルハ翌年三月一日ヨリ三十一日限、第七十一條第一項ノ規定中三月中トアルハ十二月中トス

第九十一條 左ノ法律ハ之ヲ廢止ス但シ昭和五年分以前ノ地租ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

地租條例  
災害地租免除法  
宅地地價修正法  
明治七年第二百十號布告地所名稱區別  
明治三十四年法律第三十號  
明治三十七年法律第三十一號  
明治三十七年法律第十二號  
明治三十七年法律第十六號  
大正十五年法律第四十七號

第九十二條 土地貸賃價格調査法ニ依リ貸賃價格ノ調査ヲ爲シタル土地ニ付テハ同法ニ依リ調査シタル貸賃價格ヲ以テ本法施行ノ際ニ於ケル貸賃價格トス但シ其ノ貸賃價格ニ依リ算出シタル本法ノ地租額ガ從前ノ地價ニ依リ算出シタル舊法ノ地租額ノ三倍ハ割ヲ超ユル土地ニ在リテハ舊法ノ地租額ノ三倍ハ割ニ相當スル金額ヲ百分ノ三・八ヲ以テ除シタル金額ヲ以テ其ノ貸賃價格トス

第九十三條 大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ地價ヲ設定シ又ハ修正シタル土地(免租年期又ハ低價年期ノ滿了ニ因リ原地價ニ復シタルモノヲ含ム)ニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準ジ其ノ貸賃價格ヲ定ム

第九十四條 舊法ニ依リ低價年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ二十年ヲ經過セザルモノハ第三十六條第一項ノ規定ニ依リ開墾減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス但シ地類變換ヲ爲シタル後五年内ニ開墾ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十五條 舊法ニ依リ免租年期、減租年期又ハ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ其ノ年期ノ滿了セザルモノハ左ノ區分ニ從ヒ本法ニ依リ免租年期又ハ減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス

一 地租條例第十六條第三項ノ減租年期ハ第三十六條第二項ノ開墾減租年期トス  
二 地租條例第十六條第四項ノ減租年期ハ第十九條第一項ノ開墾減租年期トス

第九十六條 本法施行前ニ於ケル土地ノ異動中本法施行ノ際未ダ舊法ニ依リ地價ノ設定又ハ修正其ノ他ノ處分ヲ爲サザルモノニシテ本法中之ニ相當スル規定アルモノニ關シテハ本法ヲ適用ス但シ第九十一條但書ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第九十七條 舊法ニ依ル届出又ハ申請ニシテ本法中之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ申告又ハ申請ト看做ス

第九十八條 舊法ニ依リ開墾ノ届出アリタル土地ニシテ本法施行ノ際開墾著手後未ダ二十年ヲ經過セザルモノハ第三十六條第一項ノ規定ニ依リ開墾減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス但シ地類變換ヲ爲シタル後五年内ニ開墾ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十九條 舊法ニ依リ免租年期、減租年期又ハ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未ダ其ノ年期ノ滿了セザルモノハ左ノ區分ニ從ヒ本法ニ依リ免租年期又ハ減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス

一 地租條例第十六條第三項ノ減租年期ハ第三十六條第二項ノ開墾減租年期トス  
二 地租條例第十六條第四項ノ減租年期ハ第十九條第一項ノ開墾減租年期トス

三〇九



三 地租條例第十六條第五項ノ新開免租年期ハ第二十條第一項ノ埋立免租年期トス

四 地租條例第十六條第六項ノ地價据置年期ハ第四十六條第一項ノ地目變換減租年期トス

五 明治三十四年法律第三十號ノ年期延長ハ前各號ノ例ニ準ジ第十九條第二項、第二十條第二項、第三十六條第三項又ハ第四十六條第二項ノ年期延長トス

六 地租條例第二十條ノ荒地免租年期ハ第五十五條第一項ノ荒地免租年期トス

七 地租條例第二十三條又ハ第二十四條ノ免租繼年期ハ荒地ノ種類ニ從ヒ第五十五條第二項又ハ第三項ノ年期延長トス

前項ノ年期ハ舊法ニ依リ許可セラレタル年期ノ殘年期間ノ經過スル年ノ翌年ニ於テ滿了ス

第一百條 地積ハ第七條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ定ム  
一 宅地及鑛泉地ノ地積ハ六尺平方フ坪、坪ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ勾トシテ之ヲ定メ勾未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

二 宅地及鑛泉地以外ノ土地ノ地積ハ六尺平方フ歩、三十歩ヲ畝、十畝ヲ段、十段ヲ町トシテ之ヲ定メ歩未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但シ一筆ノ地積一步未滿ナルモノニ付テハ歩ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ勾トシテ之ヲ定メ勾未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第一百一條 舊法ノ土地臺帳ハ之ヲ本法ノ土地臺帳ト看做ス

第一百二條 小笠原島及伊豆七島ノ地租ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

營業收益稅法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和六年三月三日  
衆議院議長 藤澤幾之輔  
貴族院議長 公爵徳川家達殿

營業收益稅法中改正法律案  
營業收益稅法中左ノ通改正ス  
第十條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
營業收益稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

法人 百分ノ三・四  
個人 百分ノ二・二

純益金額千圓以下ナルトキ 百分ノ二・二  
千圓以下ノ金額 百分ノ二・二  
千圓ヲ超ユル金額 百分ノ二・六  
千圓ヲ超ユルトキ 百分ノ二・六

附則

本法ハ個人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和六年分ヨリ、法人ノ營業收益稅ニ付テハ昭和七年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ昭和六年分ノ個人ノ營業收益稅ニ限り改正規定中百分ノ二・二トアルハ百分ノ二・五、百分ノ二・六トアルハ百分ノ二・八トス  
昭和七年三月三十一日以前ニ終了スル事業年度分ノ法人ノ營業收益稅及昭和五年分以前ノ個人ノ營業收益稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

砂糖消費稅法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和六年三月三日  
衆議院議長 藤澤幾之輔  
貴族院議長 公爵徳川家達殿

砂糖消費稅法中改正法律案  
砂糖消費稅法中左ノ通改正ス  
第三條 消費稅ノ割合左ノ如シ

一 砂糖  
第一種 砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖  
甲 樽入黑糖 百斤ニ付 九十錢

乙 樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ、白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク 百斤ニ付 一圓八十錢

丙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 二圓二十五錢

第二種 砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖 百斤ニ付 四圓五十五錢

第三種 砂糖色相和蘭標本第二十二號未滿ノ砂糖 百斤ニ付 六圓七十五錢

第四種 砂糖色相和蘭標本第二十二號以上ノ砂糖 百斤ニ付 七圓七十五錢

第五種 氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ 百斤ニ付 九圓五十錢

二 糖蜜  
第一種 氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜 百斤ニ付 二圓七十錢

甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エサルモノ 百斤ニ付 二圓七十錢

乙 其ノ他ノモノ 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付 七圓七十五錢ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

第二種 其ノ他ノ糖蜜  
甲 糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エサルモノ 百斤ニ付 九十錢

乙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 二圓二十五錢  
三 糖水 百斤ニ付 六圓七十五錢

附則  
本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス左ニ掲クル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル  
一 本法施行前消費稅ヲ課スヘカリシモノ  
二 本法施行前製造場若ハ保税地域ヨリ引取り又ハ製造場外ニ移出シタルモノニシテ第五條第三項、第七條第三項又ハ第十一條ノ第一第三項ノ規定ニ依リ消費稅ヲ徵收スヘキモノ  
三 本法施行前消費稅ノ徵收ヲ猶豫シタルモノ

織物消費稅法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和六年三月三日  
衆議院議長 藤澤幾之輔  
貴族院議長 公爵徳川家達殿

織物消費稅法中改正法律案  
織物消費稅法中左ノ通改正ス  
第一條但書ヲ左ノ如ク改ム  
但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル織物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 綿織物  
二 麻又ハ麻ト綿トヲ以テ組成シ其ノ麻ノ單絲方英式番手四十二番ヲ超エサル織物  
三 經絲ニ綿絲ノミヲ用キ緯絲ニ左ニ掲クル絲ノミヲ用キタル織物但シ「パイル」組織ノ織物ヲ除ク



改正租賦率ニ依リ賦課スルコトヲ得ベキ  
轉讓地租額又ハ其ノ附加額ト地租附加  
稅額トノ合算額ヲ從前ノ地價又ハ地租  
標準トシテ從前ノ租賦率ニ依リ賦課スル  
トヲ得ベキ特別地租額又ハ其ノ附加稅額  
ト地租附加稅額トノ合算額ヲ超ユル場合  
ニ關シテハ昭和十二年度分迄ニ限り勅令  
ヲ以テ第三條乃至第五條ノ制限内ニ於テ  
之ニ代ルベキ課稅ノ制限ヲ定ムルコトヲ  
得

前二項ニ據ル特別地租額、其ノ附加稅  
額及地租附加稅額ノ算定ニ關シテハ內務  
大臣及大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ、  
北海道縣以外ノ公共團體ニ對スル第三  
項ノ課稅ノ職權ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ  
之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

參照  
大正十五年法律第二十四號ハ地方稅ニ  
關スル法律ナリ

都市計畫法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議  
院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
昭和六年三月三日

衆議院議長 藤澤淺之輔  
貴族院議長 公爵徳川家達殿

都市計畫法中改正法律案  
都市計畫法中左ノ通改正ス

第八條第一項第一號中「百分ノ十二半」ヲ  
「百分ノ九」ニ、同項第四號中「北海道及  
其ノ市町村」ニ在リテハ地價千分ノ四以  
内ノ市町村及其ノ市町村ニ在リテハ地價千分  
ノ五」ヲ「賃賃價格千分ノ三・四」ニ、同條  
第三項中「地價」ヲ「賃賃價格」ニ改ム  
第十五條中「地價」ヲ「賃賃價格」ニ改ム

附則

本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
但シ第八條ノ改正規定ハ昭和六年度分ヨ  
リ之ヲ適用ス  
昭和六年度分ニ付テハ第八條ノ改正規定

中百分ノ九トアルハ百分ノ八、千分ノ三  
四トアルハ千分ノ三・二トス

昭和六年度分ニ限り勅令ノ定ムル所ニ依  
リ從前ノ地租ノ標準トシテ從前ノ規定ニ依  
リ地租割賦課スルコトヲ得此ノ場合ニ  
於テ特別地稅ヲ賦課スルトキハ勅令ノ定  
ムル所ニ依リ從前ノ地價ノ標準トシテ從前  
ノ規定ニ依リ之ヲ賦課スベシ

國務大臣(井上準之助君) 茲ニ議題トナ

リマシタ地租法案、營業收益稅法、砂糖消  
費稅法及總物消費稅法中改正法律案ニ付キ  
マシテ大體ノ說明ヲ致シタイト考ヘマス、  
倫敦海軍條約ノ成立ニ依リマシテ生シタル  
餘剩財源ハ、同條約ノ趣旨ニ從ヒ之ヲ國民  
負擔ノ輕減ニ充當スルヲ適當ナリト認メマ  
シテ、今回地租、營業收益稅、砂糖消費稅及  
織物消費稅ニ付テ、ソレ々々法律ヲ改正ス  
ベシ、國民負擔ノ輕減シ、併セテ其公正ヲ  
期スルコトニ致シマシタ、尙ホ地租ニ付キ  
マシテハ、其課稅標準タル地價ノ賃賃價格  
ニ改メルト共ニ、地租制度ノ全般ニ互リ、  
相當廣汎ナル改正ヲ加フルノ必要ヲ認メマ  
シタノデ、地租條例ヲ廢止シ、新ニ地租法  
ヲ制定スルコトニ致シタノデアリマス、是  
ヨリ各法律案ニ付キマシテ、順次説明ヲ致  
シマス、先ツ地租法ノ改正ニ付テ述ベマス  
レバ、我國現行地租ノ課稅標準タル地價ハ  
明治初年地租改正ノ際ニ於ケル調査ニ係リ  
マス、即チ明治六年七月地租改正法ヲ公布  
セラレ、同八年地租改正事務局ヲ設置セラ  
レ、同十五年ニ至リ完成シタルモノデアリ  
マス、其後田畑ノ地價ニ付テハ、數次部分  
的修正ヲ加ヘ、宅地ノ地價ニ付テハ明治四  
十三年其修正ヲ行ヒマシタガ、既ニ長年月  
ヲ經過シテ居リマス、其間ニ時勢ノ進展、  
經濟事情ノ變遷、交通機關ノ發達其他諸般  
ノ事情ニ因リマシテ、土地ノ利用狀況ガ著  
シク變動シテ居ルニ拘ラズ、全國各地目  
ニ互リ一般的ニ地價ノ修正ヲ行フコトナク

シテ今日ニ及ンデ居リマス結果ハ、我國地  
租ノ負擔ガ甚ダ公平ヲ失スルニ至リマシ  
テ、之ヲ根本的ニ改正スル必要ノアルコト  
ハ申ス迄モナイコトデアリマス、之ヲ以テ  
マシテ大正十五年ノ稅制整理ヲ行フニ際  
シ、政府ハ地租ノ課稅標準タル地價ノ賃賃  
價格ニ改メ、以テ現行制度ノ缺點ヲ除キ、  
土地ノ負擔ノ公平ヲ得セシムル計畫ノ下  
ニ、土地賃賃價格調査法案ヲ第五十一回帝  
國議會ニ提出イタシ、御協贊ヲ得マシタノ  
デ、大正十五年四月ヨリ全國稅務機關ノ全  
力ヲ擧ゲテ賃賃價格ノ調査ニ當リ、昭和二  
年度末迄ニ全國各地ニ於テ土地賃賃價格ノ  
決定ヲ見ルコトヲ得マシテ、豫定ノ如ク調  
査ノ完了ヲ告ゲタノデアリマス、而シテ當  
初ノ計畫ニ從ヘバ、昭和三年ニ於テ此賃賃  
價格ノ課稅標準トシテ、地租ノ改正ヲ爲ス  
ベキ筈デアリマシタガ、内閣ノ更迭等ノ事  
情ニ依リテ其實現ヲ見ズシテ今日ニ及ンデ  
居リマス、併ナガラ我國土地負擔ノ甚シク  
不公平ナル現況ニ鑑ミ、地租改正ノ急務ナ  
ルヲ信ジ、政府ハ當初計畫ノ如ク地租ノ課  
稅標準ヲ賃賃價格ニ改正スルコトニ致シ、  
尙ホ地租制度ノ全般ニ互リ適當ナル改正ヲ  
加フルノ必要アルヲ認メ、地租條例ヲ廢止  
シ、新ニ地租法ヲ制定シテ昭和六年度ヨリ  
之ヲ實施スルコトニ致シタガ、次第デアリマ  
ス、今其主要ナル點ヲ舉ゲマスレバ、第一  
地租ノ課稅標準タル地價ノ賃賃價格ニ改ム  
ルト共ニ、之ヲ十年毎ニ改訂スルコトニ致  
シマシタ、地租ノ課稅標準トシテハ土地ノ  
賃賃價格ガ最も適當ナルモノデアルト信ジ  
マスガ、將來久シキニ互リ之ガ修正ヲ行ハ  
ザレバ、現行地租ノ如ク負擔ノ不公平ナル結  
果ヲ來スコトナリマスノデ、相當ノ期間  
毎ニ一般的ニ賃賃價格ヲ修正シ、時勢ノ變  
遷ニ適應セシムルノ必要ガアリマスノデ、  
十年毎ニ之ヲ改訂スルコトニ致シマシタ、  
而シテ第一回ノ改訂ハ昭和十三年ニ之ヲ行  
フノデアリマス、第二、稅率ハ各地目共之

ヲ百分ノ三・八ト致シマシタ、現行ノ稅率ハ  
數回改正ノ沿革ニ依リマシテ、宅地百分ノ  
二・五、田畑百分ノ四・五、其他百分ノ五・五ト  
區別シ、尙ホ北海道ニ於ケル宅地以外ノ土  
地ニ付テハ特別ノ稅率ヲ設ケテ居リマス  
ガ、一般的ニ課稅標準ヲ改正シ、全國ニ互  
リ各地目共同ノ方法ニ依リ調査シタル新  
課稅標準ヲ採用スルコトニナリマスレバ、  
地目ヲ異ニスルガ爲ニ、又地域ヲ異ニスル  
ガ爲ニ、其稅率ヲ異ニスベキ理由ハナイト  
認メマシテ、總テ同一稅率ニ致シマシタ、  
而シテ今回調査シタル賃賃價格ヲ基礎トシ  
テ、現在地租總額ノ限度ニ於テ其稅率ヲ算  
定シマスレバ百分ノ四・五トナルノデアリマ  
スガ、倫敦海軍條約ノ成立ノ結果生シタル  
財源ノ一部ヲ以テ其負擔ノ輕減スルコトニ  
致シ、稅率ヲ百分ノ三・八ト定メ、約一割五分  
ノ引下ゲヲ行ハタガデアリマス、第三、自作  
農地ノ免稅點ハ賃賃價格二百圓ト致シマシ  
タ、現在ニ於ケル免稅點ハ住所地、市町村  
及隣接市町村ニ於ケル田畑合計賃賃價格二百  
圓ニ改メマシタ、之ヲ田畑合計賃賃價格二百  
圓ニ改メマシタ、而シテ田畑賃賃價格ハ大  
體ニ於テ現在ノ地價ニ比シテ相當減ジテ居  
リマスノデ、此改正ノ結果免稅ヲ受クベキ  
納稅者ノ數及土地ノ面積ハ相當増加スルコ  
トナルノデアリマス、第四、地租改正ニ  
依リ負擔ノ激増ヲ緩和スルガ爲メ適當ナル方  
法ヲ講ジマシタ、地租ノ課稅標準及稅率ヲ  
改正スルガ爲ニ、地租ノ負擔ニ増減アルベ  
キハ固ヨリ當然ノコトデアリマスガ、負擔  
激増ヲ緩和スルコトヲ適當ト認メマシ  
テ、新地租額ガ現在地租額ノ三倍八割ヲ超  
ユル土地ニ付テハ、三倍八割ヲ超過セザル  
ヤウ賃賃價格ヲ制限イタスノデアリマス、  
第五、土地ノ異動ニ因リ課稅標準ノ設定又  
ハ修正ヲ爲ス場合、必要ト認ムル外土地ノ  
測量ヲ省略スルコトヲ致シマシタ、現行法  
ニ於キマシテハ、土地ノ異動スル毎ニ必ズ  
之ヲ測量スル制度デアリマスガ、實際上其



必要ナキ場合モアリマスシ、又之方爲ニ土地異動ノ處理ヲ遲延セシムル虞モアリマスノデ、土地ノ測量ヲ省略シ得ル場合ヲ認ムルコトニ改正シマシテ、官民相互ノ手數ヲ省クコトニ致シタノデアリマス、第六、土地ノ異動ニ因ル課稅標準ノ設定又ハ修正ノ方法、各種年租地ノ取扱納期及徵收方法ニ付キマシテハ、大體現行ノ制度ニ則リマシタガ、多少ノ修正ヲ加ヘタノデアリマス、以上ノ改正ニ依リ平年度ニ於テ千八十餘方圓ノ減稅トナルノデアリマス、次ニ營業收益稅ニ付テハ法人個人ヲ通ジ、其稅率ヲ引下グルコトト致シマシタ、即チ法人ノ稅率百分ノ三・六ヲ百分ノ三・四ニ、個人ノ稅率百分ノ二・八ヲ百分ノ二・六ニ引下グルト共ニ、更ニ個人ノ純益千圓以下ノ金額ニ對シテ其負擔ヲ輕減スル必要ヲ認メ、低キ稅率ヲ適用スルコトニ改正イタシマシテ、其稅率百分ノ二・二ト致シマシタ、從テ純益千圓以下ノ個人ノ營業收益稅納稅者ハ從來ニ比シテ割餘ノ負擔ヲ輕減ヲ受ケルコトニナルノデアリマス、營業所得ハ資産、勤勞ノ共働所得デアリマスガ、小營業者ニアリマシテハ、大營業者ニ比シテ勤勞ノ部分概シテ多キモノアルヲ認メマシタノデ、個人ノ營業收益稅ノ稅率ヲ單一ナル比例稅ノ儘之ヲ引下グルコトハ適當ナラズト信ジマシテ、特ニ小營業者ノ負擔ヲ一層輕減シタ次第デアリマス、此改正ニ依リ平年度ニ於テ四百六十餘方圓ノ減稅トナリマス、次ニ砂糖消費稅ニ付キマシテハ、各種別ヲ通ジテ稅率ノ引下ガヲ行フコトト致シマシタ、而シテ稅率ノ引下ガヲ行フニ當リマシテ、下級糖ニ對シテハ輕減割合ヲ多クシ、上級糖ニハ輕減割合ヲ少クスルヤウニ案排シタノデアリマス、即チ第一種糖ハ甲乙丙ヲ通ジテ稅率一割ヲ引下ガ、第二種糖ハ九分、第三種糖ハ八分、第四種糖ハ七分ヲ引下ガ、第五種糖ニ對シテハ、其輕減率ヲ五分ニ止メタノデアリマス、糖蜜ニ付キマシテハ砂糖

ノ稅率改正ニ伴ヒソレト適當ナル改正ヲ加ヘタ次第デアリマス、此改正ニ依リマシテ、平年度ニ於テ六百餘方圓ノ減稅トナルノデアリマス、次ニ織物消費稅ニ付テハ、其稅率百分ノ十ヲ百分ノ九ニ引下ガ、總テ課稅織物ニ對シテ一割ノ減稅ヲ行フ外、免稅織物ノ範圍ヲ擴張スルコトニ致シタノデアリマス、大正十五年ノ改正ニ當リマシテ、綿織物ヲ免稅ト致シマシタガ、絹、人造絹等ノ混織シタルモノハ、其分量ガ僅少デアリマシテモ總テ課稅スルコトニナテ居リマス、今回之ヲ改正イタシマシテ、少量ノ絹、人造絹等ヲ混織シタルモノヲ免稅織物トスルコトニ改メ、更ニ麻織物及毛織物中ノ下級品ハ之ヲ免稅スルコトニ致シマシタ、此改正ニ依リマシテ、平年度ニ於テ四百餘方圓ノ減稅トナリマス、右ハ今回ノ減稅計畫ノ大要デアリマスガ、昭和六年度ニ於テキマシテハ財源ノ關係上、地租ノ稅率ハ賃貸價格百分ノ四トシ、營業收益稅ハ個人ノ純益千圓以下ノ金額ニ限リ稅率百分ノ二・五ヲ適用スルコトトシ、砂糖消費稅ノ改正ハ昭和七年一月一日ヨリ、織物消費稅ノ改正ハ昭和六年十二月一日ヨリ之ヲ施行スルコトニ致シマシタ、此結果ハ、昭和六年度ニ於テハ地租六百七十餘方圓、營業收益稅百二十餘方圓、砂糖消費稅二十餘方圓、織物消費稅九十餘方圓ノ減稅トナリマス、以上申述ベタル減稅金額ヲ合計イタシマス、平年度ニ於テキマシテハ一千五百六十餘方圓、昭和六年度ニ於テハ九百九十餘方圓トナルノデアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協贊アラムコトヲ希望イタシマス

○國務大臣(安達謙吉) 茲ニ議題トナシテ居リマスル明治四十一年法律第三十七號中改正法律案外二件ノ法律案ニ付キ一括シテ其大要ノ說明ヲ致シマス、今回倫敦海軍條約ノ成立ニ依リ生ジマシタ財源ヲ以テ、國稅地租及營業收益稅ノ輕減ヲ行ヒ、且ツ地租ニ

關スル制度ヲ改正シテ地租法ヲ制定スルコトトナリタルニ付キマシテ、之ニ關聯アル地方稅ニ付キ、地方總體ニ於ケル從前ノ收入ヲ維持スルト共ニ、之ガ負擔ノ公正ヲ期スル目的ヲ以テマシテ、之ニ必要ナル法律ヲ改正ヲ行フコトト致シタ次第デアリマス、即チ國稅ニ於テ地租ノ課稅標準ヲ賃貸價格ニ改メ、且ツ其稅率ヲ輕減スルニ伴ヒマシテ、地方稅タル特別地稅ノ課稅標準ヲ賃貸價格ニ改メ、又地租附加稅、特別地稅及其附加稅ノ制限率ヲ地方總體ニ付キ從前ト増減ナキ收入ヲ得ベキ限度ニ整理スルコトト致シマシタ、唯地租及特別地稅ノ課稅標準ヲ改正イタシマス結果、制限率ヲ斯様ニ定メマシテモ、地租附加稅、特別地稅又ハ其附加稅ノ收入ハ、之ヲ地方團體各個ニ付テ見マスルトキハ、從前ニ比較シテ少カラズ増減ヲ來ス場合ヲ生ズルコトハ免レナイノデアリマスガ、斯カル場合ニ付キマシテハ地租及特別地稅ノ課稅標準タル賃貸價格ノ次ノ改訂期、即チ昭和十二年度マデ經過的便宜ヲ設ケマシテ、以テ一面ニハ地方團體ノ財政ニ不時ノ缺陷ヲ生ズルコトナカラシムルト共ニ、一面ニハ都市ニ對スル地方負擔ノ增加ヲ避ケ、地方財政ノ安リナル膨脹ヲ抑制スルコトト致シマシタ、次ニ國稅營業收益稅ノ減稅ニ伴ヒマシテ、地方稅ニ於テ其附加稅ノ制限率ヲ改正スルコトト致シマシタ、又是ト同時ニ府縣稅營業稅ニ付テ、營業收益稅ト同一程度ノ減稅ヲ行フコトト致シマシタ、其輕減割合ハ昭和六年度ニ於テ約一割、昭和七年度以降ニ於テ二割餘デアリマシテ、其減稅額ハ平年度ニ於テキマシテ約百八十餘方圓トナル見込デアリマス、蓋シ府縣稅營業稅ハ、主トシテ國稅ノ營業收益稅免稅點以下ノ小營業者ニ對シテ課稅スルモノデアリマスガ故ニ、營業收益稅ニ付テ減稅ヲ爲ス以上ハ、負擔ノ權衡上營業稅ニ付テモ又減稅ヲ致シマスルコトヲ相當ト認メタルガ爲デアリマス、尙ホ都市計畫

特別稅ニ付キマシテモ、地租ノ改正ニ伴ヒマシテ、地租割及特別地稅ニ付キ必要ナル改正ヲ加フルコトト致シマシタ、以上ハ改正法律案ノ概要デアリマス、何卒十分御審議ノ上速ニ協贊ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公野德川家達君) 是ヨリ通告願ニ依リマシテ、本案ニ對スル質疑ノ發言ヲ許シマス、長岡隆一郎君ノ登壇ヲ望ミマス

〔長岡隆一郎君演壇ニ登ル〕  
○長岡隆一郎君 本員ハ只今議題トナシテ居リマスル所ノ世ニ所謂減稅案、即チ地租法案外六件ノ法律案ニ對シテ幾多ノ疑問ヲ有テ居ル一人デゴザイマス、本案ハ當期議會ニ提出サレマシタル法律案ノ中最モ重大ナルモノノ一ニ屬スルト考ヘテ居リマスガ故ニ、出來得ベクシバ幣原首相代理ヨリ御答辯ヲ願ヒタイト考ヘテ居リマスルケレドモ、率直ニ申上ガマシテ此問題ハ首相代理ラシテ、本員ハ強ヒテ首相代理ノ御答辯ヲ要求イタシマセヌ、併ナガラ是ト同時ニ政府委員ヨリ御答辯ヲ願ヒマスルヤウナ事務上ノ問題ニ付キマシテハ、他日若シ機會ヲ得マスルナラバ詳細ニ質問ヲ申上ゲタイト考ヘマスルガ故ニ、本日本員ノ質問イタシマスル所ノ重モナル問題、即チ數點ニ付キマシテハソレト、主管國務大臣ヨリ御答辯ヲ願ヒタイト考ヘテ居リマス、本員ノ質問セント欲スル所ノ第一ノ問題ハ、政府ハ其財政政策ノ破綻ヲ地方財政ニ轉嫁シ、其當然自カラ負擔スベキ費用ヲ地方ニ負擔センメ、爲ニ疲弊困憊ノ極ニ達シテ居ル所ノ地方財政ヲ、苦シムル傾向ガ甚ダ著シト信ジテ居リマス、本減稅案モ亦其例ニ漏レズ、政府ハ將來斯カル方針ヲ改ムル意思アリヤ否ヤト云フコトガ本員ノ第一ノ質問デゴザイマス、元來國ノ財政ト地方財政ト比較イタシテ見マスルト、之ヲ爲ノ變遷デアルトカ、或ハ車ノ兩輪デアルトカ云フヤウナコ

ト申シマスルガ、寧ろ適切ニ申シマスルナラバ、親子ノ關係ト云フモ宜シカラウト思フノゴザイマス、國家ノ財政ガ如何ニ堅實ニ行ハレマシテモ、地方財政ニ甚シキ無理ガアリマスル時ニハ、國ノ財政ト云フモノハ決シテ健全ニ發達イタシマセヌ、獨リ現内閣ノミナラズ歴代ノ政府ハ、口ニ地方財政ノ緊縮ヲ説キナガラ、事實ハ中央ノ財政ニ於テ當然支辨スベキ費用ヲ地方ニ負擔セシメ、濫リニ地方財政ヲ壓迫イタシ、之ヲ不自然ニ膨脹セシメル弊害ガ甚ク多ク、タト本員ハ信ジテ居リマス、現内閣成立以來此傾向ハ特ニ著シク、地方ハ擧ゲテ之ニ對シテ怨嗟ノ聲ヲ擧ゲツツゴザイマス、其事例數フルニ違モゴザイマス、少クトモ現内閣ハ地方財政ノ指導ト監督トニ對シテ甚シク深切ト誠意ヲ缺クモノアリト申シテモ決シテ過言デハナイト信ジマス、今回ノ減稅案ニ付キマシテモ亦其例ニ漏レズ、本案ガ地方財政ニ對シテ果シテ如何ナル具體的ノ影響ヲ與フルヤ否ヤニ對シテ、深切ニ考慮研究シタル跡ヲ見ルコトガ出來マセヌ、政府ハ將來斯ノ如キ地方財政ヲ苦シメ、之ヲ壓迫スル方針ヲ改ムル意思アリヤ否ヤ、是レ本員ノ第一質疑デゴザイマス、第二ノ質疑ハ、今回ノ地租法改正ニ依リマシテ、六大都市ノ如キ市街地ノ地租ハ著シク増稅セラレル結果ト相成リマス、政府ハ今日ヲ以テ國民ノ一部ニ對シテ増稅ヲ課スルニ適當ナル時期ト思量セラレルヤ否ヤ、是レ第二ノ質問デゴザイマス、地租ノ課稅標準ハ法定地價ヲ以テ適當トスルヤ、或ハ貸賃價格ヲ以テ適當トスルヤ、或ハ純益主義ニ依ルヲ適當トスルヤ、是等ノ根本的ノ問題ニ付キマシテハ、今日私ハ之ヲ論ズル考ヘモゴザイマセヌ、又之ニ付テ質問スル考ヘモゴザイマセヌ、併ナガラ政府ノ考ヘテ居ラレルガ如ク、貸賃價格ニ依テ地租ヲ課稅スルコトヲ以テ最モ適當デアルト致シマシテモ、今日之ヲ課スルニ適當ナル時期デ

アリヤ否ヤト云フニ付テ、如何ナル御考ヲ持テ居ラレルカ、即チ國民ノ一部ニ租稅ヲ課スルニハ、宜シク適當ナル時期ヲ選バニヤナラヌト本員ハ考ヘテ居リマス、政府ノ發表サレタ數字ヲ見マスルト云フト、東京市内ニアリマシテハ、今回ノ地租法改正ニ依リマシテ、地租ノ増稅セラレルコト約百八十八萬圓、之ヲ東京市ノ世帯數四十一萬三千戸ヲ以テ除シマスレバ、一戸平均約四圓三十錢ノ増稅ト相成リマス、更ニ地租附加稅ヲ加算イタシマスレバ、東京市ノ増稅額ハ六百四十四萬圓ト相成リマシテ、只今申上ゲマシタ東京市ノ世帯數四十一萬三千戸ヲ以テ除シマスレバ、東京市ノ一戸平均ノ増稅額ハ十四圓六十錢ト云フヤウナコトニ相成リマス、之ヲ他ノ五大都市ニ見マスルト、大阪ノ地租ノ増稅額ガ百五十萬圓、地租附加稅ヲ合シテ五百十八萬圓、京都市ノ地租増稅額三十四萬圓、地租附加稅ヲ合シマシテ百二十四萬圓、神戸市ノ地租增加額ガ二十九萬圓、地租附加稅ヲ合シテ百二十二萬圓、名古屋市ハ地租增加額ガ四十九萬圓、地租附加稅ヲ合シテ百六十二萬圓、横濱市地租增加額十七萬圓、地租附加稅ヲ合シテ八十一萬圓、即チ六大都市ノ地租及地租附加稅ノ増稅額ハ、平年度ノ計算ニ於キマシテ實ニ千六百五十二萬圓ト云フコトニ相成テ居ルノデゴザイマス、之ニ付キマシテハ、政府ハ附加稅ニ付テハ將來七年間ニ累進増進セシムルト云フ過渡の規定ヲ勅令ニ依テ設クト云フコトヲ説明セラレテ居リマスガ、結局右ノ如キ増稅ノ結果ヲ見ルト云フコトハ、私後ニ述ベル所ノ理山ニ依テ明カデゴザイマス、即チ六大都市其他ノ市街地ニ於キマシテハ、營業收益稅ニ於キマシテ僅カバカリノ輕減ヲセラレマシテモ、六大都市ノ市民ハ差引非常ナ増額ヲ見ルト云フヤウナ結果ト相成ルノデゴザイマス、前ニ申上ゲマシタ如ク、地租ノ課稅標準ヲ貸賃價格

ニ改メルコトガ、良イトカ惡イトカ云フコトノ理論上ノ議論ハ今日イタシマセヌガ、假ニ理論上地租ノ課稅標準ヲ貸賃價格ニ改メルト云フコトガ適當ナリト致シマシテモ、今日果シテ斯ノ如ク六大都市若クハ市街地ノ住民ニ對シテ、増稅ヲ致スト云フコトガ適當ナル時期デアリヤ否ヤ、是レ本員ノ政府ニ質問スル要點デゴザイマス、本員ノ承知イタシテ居ル所ノ限リニ於キマシテハ、鐵道省ニ於キマシテハ、鐵道ノ收入ガ、運賃收入ガ非常ニ減少イタシマシタ爲ニ、ソレヲ補填スル意味デアルカドウカハ存ジマセヌガ、各停車場ニ於キマスル所ノ賣店、食堂、「ホテル」、理髮店等ノ賃賃料ヲ昨年以來非常ニ引上ゲテ居ラレル、之ヲ係ノ方ニ聞イテ見マスルト云フト、今マデノ賃賃料ガ安イカラ引上ゲタト云フコトヲ仰シヤテ居ラレマスガ、今マデ賃賃料ガ假令安クアリマシテモ、之ヲ引上ゲルト云フコトニ付テハ、私ハ今日時期宜シキヲ得タモノト考ヘテハ居リマセヌ、今回ノ減稅案ノ蔭ニ潛シテ居リマス所ノ市街地ノ地租増稅案モ、時期ガ果シテ適當デアルカドウカト云フコトヲ、政府ガ御考ヘニナツカドウデアルカ、即チ今日ハ不景氣ノ爲ニ家賃デアリマストカ、地代デアリマスルトカ云フモノガ夥シク下テ居リマス、下テ居ルコトハ是ハ宜シイ、下テ居ルコトハ宜シイノデアリマスルガ、家賃、地代ノ不納同盟デアルトカ云フヤウナ、穩ヤカナラナイ所ノ運動ガ起リマシテ、都會ニ於キマスル所ノ地主ト云フモノモ決シテ左リ團扇デ暮シテ居ル譯デハゴザイマセヌ、此際ニ議會ニ減稅案ガ提出サレマシテ、地租法改正ノ結果、國民ノ多クハ地租ノ總テガ都市農村ヲ通ジテ輕減セラレルコトトモテ居リマシタ所ガ、圖ラザリキ此減稅案ガ議會ニ於テ協賛ヲ得テ通過イタシマシタ結果ハ、此減稅案ガ通過イタシマシタ結果、東京外五大都市ニ於ケル所ノ市街地ニ於テ、配付セラレル

徵稅令書ト云フモノヲ見マスルト、減稅トコロデハゴザイマセヌ、増稅セラレテ居リマシテ、例ヘバ東京市ニ於キマシテハ、平年度一戸平均十四圓六十錢ノ増稅ト相成ルト云フコトニナテ居リマス、茲ニ於キマシテ六大都市ノ住民ト云フモノハ初メテ此減稅案ノ蔭ニ、怖ロシイ増稅ト云フ所ノ棘ガ潛シテ居リテ、所謂「パン」ヲ求メテ石ヲ得タリ、魚ヲ求メテ蛇ヲ得タリ、此増稅ト云フトコロノ徵稅令書ガ來ルト云フコトニ氣付クノデゴザイマス、地主ノ負擔ノ增加ハ尙ホ忍ブベシ、地租ノ増稅ノ結果ハ地代ノ値上ト相成リ、地代ノ値上ハ家賃ノ値上ト相成ル、結局此増稅ト云フモノハ中産以下ノ勤勞階級ニ轉嫁セラレルコトガナイト云フコトガ、誰ガ保證出來マセウカ、政府ハ衆議院ノ特別委員會ニ於キマシテ地租ノ轉嫁ト云フモノハ政府ハ豫想シテ居ラナイ、今日ノ如キ不景氣ノ時代ニ於キマシテハ地代ヤ家賃ヲ値上ラ致シマスルナラバ、借手ガ付カナイカラシテ、此地租ノ増稅ノ結果、轉嫁スルト云フコトハ決シテナイト云フヤウナコトヲ御答辯ニナツテ居リマスルガ、經濟上ノ現象ト云フモノハ政府ノ各位ガ机上ニ御考ヘニナツタヤウナ譯ニ參リマセヌ、例ヘバ人ノ土地ヲ借りテ家ヲ建テテ居リマス者ガ、地代ヲ値上ゲサレタ場合ニ於キマシテ、蝸牛ノ如ク自分ノ家ヲ背負テ移轉スルト云フ譯ニハ參ラナイノデアリマス、私ハ地租ノ増稅ノ全部ガ轉嫁サレルト云フコトハ考ヘテ居リマセヌケレドモ、政府ノ想像セラレテ居ルガ如ク、其全部ガ轉嫁セラレズト云フコトヲ考ヘテ居ラレルト云フコトモ、亦實際ニ迂遠ナ議論ト考ヘナケレバナラヌト信ジテ居リマス、茲ニ於キマシテ無居地ノ地目ノ變換ニ伴フ所ノ、所謂移動地整理ニ依ル百六十六萬圓ノ増稅ト云フモノハ本員モ是ハ認メマス、之ニ付テハ異議ハゴザイマセヌ、其他ノ市街地ニ於ケル所ノ

今回ノ地租法案が伴フ所ノ増税ト云フモノハ、景氣が回復スルマデ之ヲ御延期ニナリマシテ、即チ貸賃價格ニ依ル所ノ課税標準ノ變更ト云フモノハ、ドウモ今日マデ延ビテ居ルノデゴザリマスルガ故ニ、モウ一二年景氣ノ直ルマデ御見合セニナルト云フ御考ヘハゴザイマセヌカ、而モ此犧牲ニ依リマシテ農村が救済サレルト云フコトデアリマスレバ、是ハ致方ガナイノデゴザイマスルガ、農林省ノ昭和四年二月ヨリ昭和五年一月マデ全國四十二府縣ニ互リマシテ調査サレマシタ所ノ農村ノ公租公課ノ負擔額ヲ見マスト云フト、此地租ノ減税ト云フコトニ依テ農村ハ決シテ救ハレマセヌ、農林省ノ調査ニ依リマスルト、最モ農村ニ於テ負擔ニ苦シク居ル者ハ地方税ト云フ公租公課ノ負擔ニテ居リマスルガ、内、最モ重キモノハ町村稅ノ二萬八千圓、次ニ重キモノハ府縣稅ノ二萬餘圓デアリマシテ、最モ輕イモノハ國稅ノ一萬一千圓デアリ、内、地租ハ僅ニ八千七百餘圓デゴザイマシテ、農村ノ總負擔カラ申シマスレバ僅ニ一割二分デゴザイマス、今回地租額ノ一割五分ヲ減税サレタト云フコトヲ申シマスケレドモ、一村ノ公課、即チ七萬九百餘圓ニ對シマスルト云フト、僅ニ一千三百餘圓、割合ニ申シマスルナラバ、僅カ一分八厘、千分ノ十八ニ過ギナイノデゴザイマシテ、今回ノ地租ノ輕減ト云フモノガ農村ノ救済ニ對シテ如何ニ無價値デアルト云フコトガ分ルノデゴザイマス、即チ本員ノ第二ノ質問ハ政府ハ地租法ノ改正ニ依テ六大都市ノ如キ市街地ニ對シテ増税スルト云フコトハ、今日果シテ適當ナ時期デアルヤ否ヤト云フコトヲ御考ヘニナリテ居ルカドウカト云フコトデアリマス、本員ノ第三ノ質問ハ今回ノ減税案ノ結果ハ地方財政ヲ甚キ混亂ニ陥ラシムル虞レガアルト云フコトデアリマシマス、之ニ對シテ政府ノ所見如何、本員ノ計

算ニ依リマスレバ、今回ノ地租法ノ改正ニ依リマシテ、地租附加稅ノ増加スル府縣ハ十府縣デゴザイマシテ、其金額ハ約千二百萬圓デゴザイマス、之ヲ内譯ヲ申シマスルト云フト、府縣約七百萬圓、市町村約五百六十七萬圓ト云フコトニ相成テ居ル、又地租附加稅ノ減少スル府縣ハ三十七府縣デゴザイマシテ、其金額ハ約千九百萬圓デゴザイマス、其内譯ヲ申シマスルト云フト、府縣約六百六十五萬圓デゴザイマシテ、市町村約五百九萬圓デゴザイマス、本員ノ計算ト云フモノハ、私自身ガ致シタモノデゴザイマスカラ、或ハ多少ノ計算ノ間違ヒト云フモノハアルカモ存ジマセヌ、井上大藏大臣ハ昨年ノ特別議會ニ於テ、昭和五年度ノ地方當初豫算ト云フモノハ、昭和四年度ノ地方當初豫算ニ比シテ二億五千餘萬圓ヲ緊縮セシメタト云フコトヲ堂下御演說ニ相成リマシタガ、過日ノ此議場ニ於テ御精明ニナリテ、御趣旨ヲ伺ヒマスルト云フト、二億五千餘萬圓ノ緊縮ト云フモノハ御間違ヒデアラテ、實ハ一億八千餘萬圓ノ緊縮デアリ、即チ約六千萬圓ト云フモノハ、掛値ト申上ゲテハ甚ダ失禮デアリマスルガ、井上大藏大臣ハ御間違ヒニナリタト云フコトデアリマス、是ハ間違ヒト云フモノハ人間ハドウモ致方ガナイノデアリ、弘法ニ毛筆ノ誤リ、博學多才ノ井上大藏大臣ノ千慮ノ一失ト云フコトハ、是ハ已ムヲ得ナイノデゴザイマスルガ、併ナガラ私ハ帝國議會始マリマシテ何人ノ大藏大臣ガ御更ニナリマシタカ存ジマセヌガ、苟モ帝國議會ニ於ケル施政ノ方針ノ演說ニ於キマシテ六千萬圓ト云フ間違ヒノ數字ノ御演說ヲナスタ大藏大臣ト云フモノハ、本員寡聞ニシテ承ラコトガゴザイマセヌ、只今申上ゲマシタ地租附加稅ノ私ノ計算ト云フモノモ多少ノ間違ヒガアルカ、是ハ請合ヒマセヌガ、併ナガラ私ノ申上ゲマシタ數字ガ井上

大藏大臣ガ施政ノ方針ノ御演說ニ於テ御述ベニナリマシタヤウナ、桁外レノ間違ヒナイコトダケハ保證イタシテ置キマス、扱テ此千二百萬圓ヲ増稅徵收シ得ル府縣市町村ハ如何相成ルカ、地方團體ニ於キマシテハ今日ニ於テモナスベキ事業ハ山ノ如ク積リテ居リマス、而モ此財源ガナイノ苦シク居ルト云フ狀況デゴザイマス、一タビ此財源ヲ與ヘマスルナラバ、如何ニ當局ガ監督ヲ御嚴重ニナサレマシテモ、恰モ空氣ガ眞空管ノ中ニ膨脹スルガ如ク、七年ノ間ニハ此地租附加稅ト云フモノハ制限一杯ニ増徴セラレマシテ、結局千二百萬圓ノ増稅ノ結果ヲ見ルコトハ過去ノ實績ニ徵シテ火ヲ賭ルヨリモ明カナリト私ハ信ジテ居リマス、他方ニ於キマシテ千二百萬圓ノ地租附加稅ヲ減少スル、府縣市町村ニ於キマシテハ如何相成ルカ、是等ノ地方團體ハ大體ニ於キマシテ財源ノ貧弱ナル團體デゴザイマス、當局ノ説明ヲ伺ヒマスルト云フト、地租附加稅ノ減收トナルベキ地方ニ於テハ、勅令ノ規定ニ依リマシテ七年間ニ之ヲ漸次低減セシメルト云フ御方針ダト云フコトヲ述ベテ居ラレマスガ、果シテ此期間ニ地方團體ノ藏出ヲ整理シ得ルカ否ヤト云フコトガ餘程問題デゴザイマス、此例ヲ町村ニ取テ申上ゲマスルナラバ、是等ノ農村地方ノ町村ニ於キマシテ、其藏出ノ主ナルモノハ私ガ申上ゲル迄モナク、小學校ノ義務教育費、デゴザイマス、小學校ノ義務教育費ハ學齡兒童ノ増加、學級數ノ増加ニ依リマシテ、將來ノ七年間ニ於キマシテ増加スルコトガアリマシテモ決シテ減少スルコトハゴザイマセヌ、藏出ノ整理ニ依リマシテ、此地租ノ附加稅ヲ減額スルト云フコトガ出來ナケレバ、結局地租ノ收入ニ依テ補填シナケレバ、本員ハ明瞭ニ今日カラ豫言ヲ致シマス、結局地租附加稅ニ於テ減額セラレマシタ分ハ、市町村ニ於キマシテハ、七年間ノ中ニ

漸次戶數割ノ増額ニ依テ辻褄ヲ合ハスヨリ外ハナイコトニ相成ルノデアリマス、是ハ大地ヲ打ツ槌ガ外レマシテモ、本員ノ豫告ハ決シテ外レナイト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、地租ノ附加稅ノ減少、誠ニ喜ブベキニ似タリト雖モ、所要ノアツタ際ニハ其減少額ヲ戶數割ニ轉嫁サレ、所謂新稅偏重ノ傾向ヲ生ムノミナラズ、一部地主ノ負擔ヲ町村民大衆ノ負擔ニ移スコトト相成リ、地方財政上、又社會政策上憂慮スベキ現象ト相成ルト云フコトハ、今日カラ考ヘラルルコトデアリマス、即チ今日ノ地租法及ビ其關係法規ノ改正ニ依リマシテ、一方ニ於キマシテハ比較的財源ニ富シク居ル所ノ地方團體ニ對シマシテハ、地方費膨脹ノ端ヲ開カルル、他方ニ於テ資力薄弱ナル所ノ地方團體ニ對シテハ、下級階級ニ對シマシテ、七年間ニ對シテハ、階級階級ニ對シマシテ相成リ、兩者合シテ地方稅ノ増稅ト相成ル結果トナルノデゴザイマス、即チ政府ハ國稅減稅ノ羊頭ヲ懸ゲテ地方稅増稅ノ狗肉ヲ賣ルモノナリト申上ゲテモ、是ハ決シテ過ギタル言葉デアリナイト考ヘマスガ、之ニ對シテ政府ノ所見ハ如何デアラカ、第四ノ本員ノ質問ハ、今回ノ減稅案ニ依リマスレバ、國稅營業收益稅ト、府縣稅營業稅トノ間ニ、減稅ノ比率甚シク其權衡ヲ失シ、非社會政策的ノ結果ヲ生ズル虞アリ、政府ノ所見如何、斯ウ云フコトデアリマス、政府ハ今回ノ減稅ハ軍縮ニ據ル所ノ剩餘財源ニ依ルモノアルガ故ニ、主トシテ國稅ノ輕減ニ充テルモノデアラテ、地方稅ノコトハ考ヘテ居ラヌト云フコトヲ、屢々答辯セラレテ居リマスルガ、是ハ徵稅ノ技術アルヲ知テ、財政ノ全般ヲ知ラザル、所謂官僚的俗論デアルト考ヘルノデゴザイマス、國稅ト申シマシテモ、地方稅ト申シマシテモ、納メルモノノ上カラ言ヘバ、其苦痛ニ何等アリマシナラバ、國稅ト云ハズ、地方稅ト

云ハズ、其最モ納税ニ苦シテ居ル所ノ課税ト云フモノカラシテ、之ヲ輕減シナケレバナラズト考ヘテ居リマス、殊ニ營業稅ノ系統ニ付テ申シマスニテハ、私方申上ゲルマデモナク、原則ト致シマシテ、一年四百圓以上ノ純益ナル所ノ個人營業者ハ、國稅營業收益稅ヲ賦課セラレ、ソレ以下ノ收入ノアル所ノ同種ノ個人營業者ハ、府縣稅營業稅ヲ賦課セラレト云フコトニ相成テ居ルノゴザイマス、併ナガラ納税者ノミニ取テ見マスレバ、其國稅タルト、府縣稅タルトト問ハズ、納税ノ苦痛ト云フモノニ付キマシテハ、何等ノ差別モゴザイマセズ、ソレ故ニ若シ財源ニ餘裕ガアリマスナラバ、小營業者即チ此四百圓以下ノ收入ノアル所ノ府縣稅營業稅ヲ納メテ居ル所ノ營業者ニ對シマシテ、最先ニ輕減ヲシナケレバナラズト云フコトハ、誠ニ見易キノ道理ト考ヘテ居リマス、國稅營業收益稅ノ輕減ニ付キマシテハ、所謂軍縮ニ依リ留保財源ナルモノガゴザイマシテ、其正體ト云フモノハ所謂勘定合テ錢足ラズ、頗ル怪シイモノデアルト云フコトハ後ニ申述ベマスガ、兎ニ角執ノ上、帳簿ノ上ニ於キマシテハ、此軍縮ニ依リ所ノ留保財源ナルモノガゴザイマシテ、營業收益稅ノ輕減ノ爲ニ昭和六年度ニ於テ百二十方圓、平年度ニ於テ四百三十方圓ト云フモノノ留保財源ガ政府ニ於テ留保シテアルノゴザイマス、然ルニ府縣稅ノ營業稅ノ輕減ニ付キマシテハ、地方ニ殆ド對源ト云フモノガゴザイマセズ、府縣稅營業稅モ國稅ニ關スル規定改正ノ結果、自然ニ之ヲ減少セシメル御趣旨ト承ハツテ居ラスケレドモ、其府縣稅營業稅ノ輕減ノ財源ト云フモノハ、果シテ何レニ之ヲ御求メニナル積リデアルカ、當局ニ於テ御印刷ニナリマシタ所ノ、地方稅改正後ノ各稅増減調ト云フモノヲ拜見イタシマスルニ、府縣稅營業稅ノ平年度ノ減額ト云フモノハ百八十五方圓ト云フモノニ相成テ居ル、是

ハ初メノ御印刷ハ二百二十方圓ト云フコトニ書イテアリマシタガ、ドウ云フ御駁引カ存ジマセヌガ、二百二十方圓ガ百八十五方圓ト云フヤウニ御減シニナテ居ルガ、ドウ云フモ宜シイ、此百八十五方圓ノ中、既ニ輕減セル府縣ノ分三十四方圓ヲ除キ、國稅營業收益稅附加稅ノ増額五十八方圓ヲ差引キ、結局九十三方圓ト云フモノヲ將來輕減スルト云フコトヲ發表サレテ居ルガ、又市町村ノ營業稅附加稅ノ減收ト云フモノハ、平年度ニ於テ六十五方圓ト云フモノヲ御發表ニナテ居ル、初メハ八十三方圓ト云フ數字ヲ御發表ニナテ居リマシタガ、ドウ云フ御間達カ、或ハ御駁引カ知レマセヌガ、後ニハ六十五方圓ト云フヤウニ御變更ニナテ居リマスガ、ソレハ下チラデモ宜シイ、此府縣ニ於キマスル所ノ九十三方圓、市町村ニ於キマスル所ノ六十五方圓ノ財源ト云フモノハ、何處ニ御求メニナル積リデアルカ、只今申上ゲマシタ地方稅改正後ノ各稅増減調ト云フモノノ備考欄ヲ見マスルト、市町村ノ減收ハ財政ノ整理按排ニ依リノ外、已ムヲ得ザル場合ニ於テハ營業稅ノ制限外課稅ニ依リ、之ヲ一時補填セシムル見込ナリト云フコトガ書イテアル、即チ當局ノ御見込ハ、第一ニハ府縣地方費ノ節約デアアル、此節約ガ出來ナカク時ニハ、第二ニ制限外ノ課稅ニ依ル、斯ウ云フコトガ書イテアリマス、ソコデ本員ハ此地方ノ府縣費ノ節約ト云フモノガ、果シテ行ハレ得ルカト云フコトヲ研究イタシテ見タイト思フノデアリマス、私ハ昭和五年ノ八月十六日ノ内務次官ノ依命通牒ト云フモノヲ拜見イタシマシタ、是ハ六年度地方費算ノ編成ニ對スル方針ヲ御示シニナツタモノデアアル、歲出ハ出來得ル限リ整理節約ヲ行ヒ、其總額ハ少クトモ前年度當初ノ豫算總額ヲ超ユルベカラザルコト、斯ウ云フ通牒ヲ内務省カラ御發シニナテ居ル、地方長官ハ此六年度ノ豫算編成ノ方針ニ從ヒマシ

テ、苦心慘澹整理節約ヲ致シタモノト考ヘテ居リマス、然ルニ昭和六年度ノ道府縣當初豫算額調、是ハ一般會計昭和六年度議決豫算額ハ昭和五年度ノ當初豫算額ニ比シテ、皮肉ニモ二千七百三十三方圓ト云フモノヲ増加イタシテ居リマス、是ハ私ハ地方長官ガ内務大臣ノ御方針ニ背イテ、斯ノ如キ増額ヲ致シタモノトハ考ヘテ居リマセヌ、府縣ニ於キマシテモ、不景氣ノ影響ヲ受ケテ歲入ノ缺陷ト云フモノハ漸々増加イタシテ參ツテ居ル、然ルニ府縣ノ歲出ト云フモノハ、既ニ再三整理、緊縮ニ緊縮ヲ重ネテ、此上節約ノ餘地ハアリマセヌ、ソレ以外ニ地方費負擔ノ恩給支出額ト云フモノハ一年増加イタシ、公立學校職員加俸令ニ依ル所ノ中等教員ノ加俸ト云フモノハ自然ニ増加シ、地方長官ハ苦心ニ苦心ヲ重ネテモ、尙且ツ昭和五年度ニ比シテ昭和六年度ハ二千七百三十三方圓ト云フモノヲ當初豫算ニ於テ増シテ居ル、斯ノ如キ狀況ニ於キマシテ、何處ニ府縣稅營業稅ノ輕減ノ財源ヲ見出し得ルカ否カ、是レ本員ノ政府ニ質問イタシタイコトデゴザイマス、數日前ニ本員ガ福島縣ノ縣參事會ノ決議錄ヲ取寄セテ調査イタシテ見マシタ所ガ、昭和五年ノ十月ニ於キマシテ、福島縣ニ於テ官吏ノ俸給ノ支拂ニ窮シ四十方圓ノ短期借入ヲ決議イタシテ居リマス、同年即チ昭和五年ノ十二月ニハ俸給年末償與ノ支拂ニ窮シテ、又復四十方圓ノ借入ノ決議ヲ致シテ、辛ウジテ年末ヲ凌イデ居リマス、斯ノ如キハ唯福島縣ダケノ例デゴザイマスルガ、神奈川縣初メ斯ノ如キ例ハ非常ニ多イノデゴザイマス、本員長イ間地方官ヲ致シテ居リマシタケレドモ、斯ノ如キ例ト云フモノハ見タコトモ聞イタコトモゴザイマセヌ、地方財政ノ窮況ト云フモノハ、斯ノ如キ狀況ニ達シテ居ル、又當局ノ御發表ニナリマシタ數字ヲ見マシテモ、昭和六年度ニ於ケル所ノ地方ニ於ケル稅收入ト云フモノハ一千三百六方圓

ト云フモノヲ減ジテ居リマス、然ルニ拘ラズ稅外收入ト云フモノハ四千方圓増シテ居リマス、其稅外收入ノ中三千方圓ト云フモノハ公債收入ノ増デアリマス、地方財政ニ於キマシテ稅收入ハ段々ニ減ジ、公債收入ハ段々ニ増スト云フコトハ決シテ健全ナ狀態デハゴザイマセヌ、如何イタシマシテ六年度ニ於テ五十方圓、平年度ニ於テ九十三方圓ト云フ營業稅ノ輕減ノ財源ト云フモノヲ當局ハ御檢出ニナル積リデアルカ、金額ハ誠ニ少イヤウデゴザイマスルケレドモ、今日ノ地方財政カラ言ヒマスルナラバ、所謂重荷ニ小付ケデアツテ、是ハ餘程困難ナコトデアラウト本員ハ考ヘテ居リマス、本案通過ノ曉ニ、若シ地方長官ガ臨時府縣會若クハ急務參事會ヲ召集イタシテ六年度ノ豫算ヲ更正減額スル餘地ガアリトシマスルナラバ、内務大臣ノ整理緊縮ノ御命令ト云フモノハ過去ニ於テ守ラレナカクト見ナケレバナリマセヌ、若又内務大臣ノ昭和六年度ニ對スル所ノ緊縮ノ御命令ガ守ラレテ居ツテ、地方長官ガ能ク此内務大臣ノ命令ヲ遵奉イタシテ、一厘一毛モ懸値ノナイ所ノ緊縮豫算ヲ編成イタシタモノトスルナラバ、此上營業稅輕減ノ財源ト云フモノヲ檢出スル餘地ハナイ筈デゴザイマス、茲ニ於テ知ルベシ、所謂當局ノ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ營業稅ノ制限外課稅ニ依リ之ヲ補填セシメル見込ナリト云フ當局ノ與ノ手ガ出テ來ル譯デゴザイマス、即チ當局ニ於テハ原則トシテハ府縣稅營業稅ノ負擔額ヲ國稅營業收益稅ノ輕減率ニ比例シテ之ヲ引下グル如ク宣傳サレテ居リマスルガ、併ナガラ若シ府縣ニ於テ財源ヲ檢出シ得ザル場合ニ於テハ制限外課稅ヲ許シテ之ヲ賦課スルト云フ奧ノ手ガ出テ來ルト云フコトニ相成ツテ居ル、是デハ元ノ空阿彌デアツテ、府縣稅ヲ賦課セラルル所ノ小營業者ト云フモノハ何時マデ經テモ浮フ瀬ガナイト云フコトニ相成リマス、即チ四百圓以上ノ純益アル營業



ハ本減稅案ニ依リマシテ國稅營業收益稅ノ減稅ノ恩典ヲ受クルコトガアリマシテモ、國百圓以下ノ收益ノアル小營業者ハ依然トシテ昔稅ニ泣クコト云フヤウナ不公平ヲ結果ヲ生ズルコトト考ヘマス、元來今迄デモ兩者ノ間ニハ非常ナ不權衡ナコトガゴザイマス、國稅營業收益稅ヲ納メル所ノ大營業者ハ假令堂々タル店舖ヲ構ヘ、數万ノ資本ヲ運轉イタシテ居ル者モアリマシテモ、實際ノ純益ガゴザイマセヌ場合ニ於キマシテハ一文ノ納稅ノ義務モゴザイマセヌ、斯ウ云フ立前デゴザイマス、是ハ數日前ニ實際ハ然ラズト云フヤウナコトガ暴露サレマシタタレドモ、兎ニ角方針立前ト云フモノハ斯樣ニ相成テ居ル、然ルニ政府ノ發表シテ居マサル所ノ調査ニ依リマシレバ、地方稅營業稅ノ純益ニ依リテ課稅シテ居リマスル府縣ハ僅ニ十餘縣デアリマシテ、残り三十餘縣ト云フモノハ外形標準ニ依リテ課稅シテ居ルト云フコトデゴザイマスルガ故ニ、四百圓以下ノ收入ガアリマスル所ノ營業者ハ假令純益ガ一支モナクテモ府縣ノ營業稅ヲ賦課セラルト云フコトニ相成テ居ル、元來斯ノ如キ不公平アルニ加ヘマシテ今回ノ改正ニ依リマシテ兩者ノ不權衡ト云フモノハ益甚シク相成ル疑ガアルノデアリマス、政府ノ類ニ宣傳シテ居ラレル所ノ社會政策ト云フモノハ、抑、何處ニ行方不明ニ相成リマシタカ、若シ府縣稅營業稅ヲ輕減セラルル確信ヲ有シテ居ラレルナラバ、財政ノ按排ニ依リテ之ヲ輕減スルナドト云フ曖昧ナコトヲ仰シヤラズニ、其財源ヲ明示イタシテ戴キタイト思フノデゴザイマス、是レ本員ノ第四ノ質疑デゴザイマス、第五ノ質疑ハ今回ノ減稅案ニ依リテ減稅比率ハ立法技術ノ研究ノ結果ヲ生ズル處アリ、政府ノ所見如何、假ニ例ノ營業收益稅ニ取テ申上ガマスルナラバ、昭和六年一月八日當局ニ於テ印刷セラレマシタ平年度營業收益稅改正後

法人負擔調及ビ平年度純益百圓以上一萬圓マデノ營業者負擔輕減調、之ヲ見マスルト云フト、今回ノ法律改正ノ結果法人デアル所ノ營業者ハ、純益一萬圓ノモノハ國稅地方稅ヲ合シテ輕減額ハ十一錢デアル、純益一萬圓ノモノハ國稅地方稅ヲ合シテ輕減額モ一圓十錢デアル、此輕減割合ハ二者何レモ一厘、即チ千分ノ一ト云フコトニ相成テ居リマス、衆議院ニ御配付ニナリマシタ書類ニ依リマシテ千分ノ二ト書イテアリマスガ、是ハ御間違ヒ、之ニ反シマシテ個人ノ營業者ニアリマシテハ純益一萬圓ノモノガ國稅地方稅ヲ合シテ輕減額ガ九圓五十三錢、輕減割合ガ一分六分、同タ一萬圓ノモノハ輕減額ガ十八圓八十錢デアリマシテ、輕減割合ガ三分三厘ト云フコトニ相成テ居リマス、本員ハ敢テ法人ト個人ト同ジ割合ニ營業收益稅ヲ輕減スベシト云フヤウナ議論ハ申上ガマセヌ、併ナガラ個人ハ法人ニ比シテ其或ルモノハ金額ニ於テ約九十倍、輕減割合ニ於テ約六十倍モ減稅セラルルト云フコトハ、兩者ノ比率ガ餘リ權衡ヲ失シタモノト、政府ハ御考ヘニナリマセヌカ、加之法人ニシテ田畑ノ地租ヲ納ムルモノノ營業收益稅及附加稅ハ、營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リテ控除金額ガ減少イタシマスル結果、其者ノ納ムル營業收益稅ハ今回ノ改正ニ依リ、却テ増稅セラルル結果ト相成テ居リマス、例ヘバ從來十圓ノ田地租ヲ納メテ純益四百圓ヲ擧ゲテ居リマスル所ノ法人ガ、營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依リマシテ從來四圓四十錢ノ營業收益稅ヲ納メマシタモノガ、今回ノ改正ノ結果七圓イタシマスレバ、從來八圓八十四錢四厘ヲ納メタモノガ、今回ノ改正ノ結果十四圓八十七錢五厘ヲ納メルコトニ相成リマシテ、其營業ニ關スル限り、租稅ノ關係ニ於キマシテ、殆ド今回ノ改正ニ依リテ倍額増稅セラルルト云フ結果ニ相

成ルデアリマス、當局者ハ或ハ斯カル實例ハ澤山ハナイト仰シヤルカハ知レマセヌケレドモ、斯カル明白ナル論理上ノ矛盾ヲ生ズルト云フコトハ、立法技術ノ研究ノ足ラザル故ト申上ガテ宜シカラウト思フ、本員ハ此際ニ於テ實疑ヲ致シテ居ルノデゴザイマシテ、敢テ討論ヲ致シテ居ルノデアリマセヌカラ、自分ノ意見ヲ申上ガルコトハ絕對ニ避ケマス、併ナガラ若シ營業收益稅ニ關スル減稅額ヲ公平ニ按排セント欲スルカラバ、國稅營業收益稅ノ免稅點ヲ六百圓若クハ七百圓ニ引上ガシ、今マデ四百圓デアッタモノヲ即チ國稅營業收益稅ノ免稅點ヲ六百圓又ハ七百圓ニ引上ガシ、府縣稅營業稅ノ免稅點ヲ相當ノ額ニ制限サルルニ於テハ改正ノ手續簡易明瞭デゴザイマシテ、社會政策ノ減稅方針亦一貫セラルルト考ヘルノデゴザイマス、當局者ガ何ガ故ニ此方針ヲ取ラレザリシカト云フコトヲ研究シテ見マスルト、表面ニハ色モノ理由ヲ述ベテ居ラレマスルケレドモ、其真相ヲ承ルト、斯ノ如クスルニ於テハ、七十三萬人ノ營業收益稅ノ納稅者ノ中、假ニ免稅點ヲ七百圓ト致シマスレバ、三十五萬人、假ニ之ヲ六百圓ト致シマスレバ、三十五萬人ガ府縣稅營業收益稅ノ納稅者ニ落チマシテ、嘗テ團體諸公ガ御反對ニナリマシタ營業收益稅地方委員ト云フコトニ御方針ヲ接近シタリト云フコトヲ御嫌ヒニナシタ結果ト承テ居リマス、又坊間ニモ斯ノ如ク傳ヘテ居リマス、元來營業收益稅ハ地租及資本利子稅ト相並ンデ、所謂世間デハ、收益稅ト云フハ租稅ノ所得稅ノ補完稅トシテ相並立シテ居ルモノデゴザイマス、小川政務次官ノ衆議院特別委員會ニ於テ御說明ニ相成テコトヲ聽キマスルト、即チ地租ニ於テ果進課稅ヲ取ルベカラズ、斯ウ云フ御說明ノ中ニ十町歩ノ地主ハ必シモ一町歩ノ地主ヨリ富裕ナラズ、一町歩ノ地主ハ土地ノ收入ノ外他ニ大イナル財產若クハ大イナル收入ヲ有ス

ルコトアルベク、十町歩ノ地主ハ土地收入以外ニ何等ノ收入何等ノ財產ナキコトアルベシ、即チ稅ヲ負擔スル個人能力全體ヲ考慮シテ初メテ果進課稅ヲ課スベキモノデアール、今申シタヤウナ地租デアルトカ、資本利子稅デアルトカ、營業收益稅デアルトカ……云フヤウナモノニ對シテハ果進課稅ヲ課スベキモノデアイト云フヤウナ御說明ヲ爲スチ居ル、是ハ私ハ一應御尤デアール、此小川政務次官ノ御講義ニ對シテ敬服ヲ致シテ居ル、然ラバ同ジ理窟ハ營業收益稅ニ付テモ當嵌マルノデゴザイマス、地租ト資本利子稅ガ一本ノ率ニ依リテ比例稅率ニ依ル以上ハ、營業收益稅ノ階級稅率ニ依ルト云フコトハ私ハ解スルコトガ出來ナイ、是ハ甚ダ内部ノコトヲ申上ガテ恐多イノデアリマスガ、大藏省內ニ於キマシテモ、小川政務次官、又最モ稅制ニ通曉セラレテ居ル所ノ野津大藏書記官ノ如キハ營業收益稅ノミニ付テ階級稅率ヲ賦課スルト云フコトハ不公平ダト云フ說ヲ述ベラレテ居ルト云フコトヲ私ハ能ク承知シテ居ル、然ルニ井上大藏大臣ノ天降リ的ノ御命令ニ依リテ、營業收益稅ノミニ限リマシテ個人營業者ニ付テハ千圓以上ト以下トニ依リテ稅率ヲ區別シ、輕キ超過累進稅率ニ依ルコトト相成ラ居リマスガ爲ニ、種々立法技術上無理ガ生ジタコトト考ヘルノデアリマス、之ヲ要スルニ各法案ニ互リマシテ立法技術ノ不完全ナル點ヲ列擧イタシマスレバ、尙ホ澤山ゴザイマシテ、今日ハ申上ガマセヌ、併ナガラ大藏大臣ハ此不完全ナル缺點ノ多キ減稅案ニ對シテ更ニ事務官ノ意見ヲ御覽シニナリ、事務官ノ意見ヲ御覽シニナテ、之ヲ練リ直シ御考ヘガゴザイマセヌカ、ドウカ、是レ本員ノ第五質疑デゴザイマス、第六ノ質問ハ今回ノ減稅案ハ直接稅ト間接稅トノ關係ニ於テ、其按排宜シキヲ得タルモノト政府ハ御考ヘニナシテ居ルカ、如何ト云



フコトゴザイマス、元來國稅ノ體系ニ於キマシテハ、直接國稅ニ重點ヲ置キ、間接稅ヲ第三位ニ置クト云フコトハ世界各國ノ稅制ニ於テ其通ノ原則ゴザイマス、我國ニ於キマシテモ、日清戰爭ノ前ニ於キマシテハ、直接國稅方六割二分、間接國稅方三割八分ト云フヤウナ比例ニ相成テ居ル、然ルニ現在ニ於キマシテハ直接國稅方三割五分六厘、間接國稅方六割四分四厘ト云フコトニ相成テ居ル、斯ノ如ク割合ノ逆轉イタシマシテ最近ノ原因ハ、若槻内閣ニ於キマス所ノ酒ノ稅ノ値上及ビ煙草ノ値上ト云フモノガ最近ノ原因ヲナシテ居リマス、只今私ノ申上ゲマシタ比率ト云フモノハ必シモ是ハ正確ニ算出スルコトハ出來マセヌ、又間接稅ノ中ニハ、或ハ奢侈稅ノナモノモ偶ニハゴザイマスカラ、間接稅必シモ細民稅ト申上ゲルコトハ出來マセヌ、併ナガラ我國ノ稅收入ノ中ニ於キマシテ間接稅ノ割合ガ外國ニ比シテ多イト云フコトハ、一般ニ於テ唱ヘラレテ居ル所デアリマスノミナラス、消費稅輕減ト云フコトハ、一般勤勞階級ノ聲ゴザイマシテ、又現内閣ノ基礎トナシテ居リマス所ノ政黨ハ、過激ノ總選舉ニ際シテ、盛ニ消費稅輕減ノ宣傳ヲサレタノデゴザイマス、今回提出セラレマシタ減稅案ヲ見マス、直接稅ノ輕減ハ平年度ニ於キマシテ二千五百萬圓、然ルニ間接稅ノ輕減ハ平年度ニ於キマシテ一千万圓ニ過ギマセヌ、其理由トシテ井上大藏大臣ノ御說明ハ、今日物價ガ下落シタカラト云フコトダケヲ申シテ居ラレル、併ナガラ物價ノ下落シタ時ハ即チ失業ノ多イ時デアアル、失業ノ多イ時ハ即チ一般民衆ノ生活ガ困難ナル時ゴザイマス、之ヲ御忘レニナシテハイケマセヌ、ソコデ今回ノ減稅案ニ依リマシテ下層階級ノモノガ如何ナル恩典ヲ受ケルカト云フコトヲ本員ガ調べテ見マシタ、即チ織物消費稅法中改正法律案ニ依リマス、稅率ヲ一割引下ゲニナシタ外、絹人

絹織物、麻織物、毛織物ノ下級品ヲ新タニ免稅品ニ加ヘラレマシタガ、綿織物ハ從來ヨリモ無稅品デアリ、今日マデモ無稅品デアリ、綿織物ノミヲ使用シテ居ル所ノ下層階級、細民階級ノモノニ取リマシテハ、今日ノ改正ニ依リマシテ、果シテ如何ナル恩典ヲ政府ニ依テ受ケテ居リマスカ、強ヒテ言ヒマスナラバ、細民階級、下層階級ノ受ケマス所ノ恩典ト云フモノハ、砂糖消費稅ノ改正ダケデゴザイマス、大正十年十一月施行ノ細民家計調査統計ト云フモノヲ調べテ見マス、之ニ現ハレタ砂糖購入費調ト云フモノヲ本員ハ調べテ見マシタ、四谷區旭町、調査戶數百六十一世帯ニ於キマシテハ、一世帯平均砂糖消費量ハ三十二錢デゴザイマス、淺草區淺草町、調査戶數百五十九世帯ニ於キマシテハ、一世帯平均砂糖消費量ガ三十二錢デゴザイマス、深川區本村町及猿江裏町、調査戶數百七十七世帯ニ於キマシテハ、一世帯平均砂糖消費量ガ三十錢デゴザイマス、此調査ハ大正十年デゴザイマシテ、今日ヨリ稍、古イモノデゴザイマスガ、此以後ノ細民砂糖消費調ト云フモノガ見當リマセヌカラ已ムヲ得マセヌ、其後ノ大藏省ノ發表ニ依リマスト云フト、國民一人當リノ砂糖消費量ハ近年漸次減退シツツアリマスカラシテ、物價ノ下落ト相俟チマシテ、細民下層階級ノ砂糖消費量ハ大正十年ノ今ノ調査ニ比シマシテ、益々減少シテ居ルモノト見ナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、唯私ガ意外ニ減シテ居リマスノハ、此細民ノ砂糖消費ト云フ砂糖ノ種類ガ、案外高級品ヲ使テ居リマスカラ、私ハ假ニ三盆白ヲ例ニ取テ申上ゲマスガ、三盆白消費稅ガ百斤ニ付テ平均六十錢デゴザイマス、今回ノ減稅案ニ依リマシテ、一斤ノ減稅額ガ、一斤ニ付キマシテ約六厘ト相成ル、而シテ三盆白ノ一斤ノ時價ハ今日二十三錢ト云フコトヲ申シテ居リマスカラ其内ニ含マレテ居ル所ノ消費稅ト云フモノハ一斤ニ

付キマシテ八錢三厘五毛ト云フコトニ相成ル、今回ノ減稅案ニ依リマシテ、假ニ六厘引下ゲラレマシタトシマシテモ、又理窟通りニ此小賣價段ガ下ガリマシテモ、三盆白一斤二十三錢ト云フモノガ僅カニ二十二錢四厘ト云フコトニ相成ルノ外ハナイ、併シ果シテ理論通り消費稅ノ負擔ガ輕クナルカ、是ハ問題デゴザイマシテ、世間デハ今回ノ砂糖消費稅法中改正法律案ニ依テ利益ヲ受ケル者ハ砂糖會社ト卸賣業者、小賣業者ト精々砂糖原料トスル菓子屋位ノモノデアラウト云フテ居リマス、井上大藏大臣ハ衆議院ノ特別委員會ニ於キマシテ、減稅ニ依テ物價ヲ引下ゲルト云フコトハ餘程困難デ過去ノ歴史ニ徴シテ見マシテモ左様ニ行テ居リマセヌ、是ハ三月二十三日ノ速記録ノ三五頁、假ニ百歩ヲ譲リマシテ、今回ノ減稅ノ減額ガ小賣相場ニ影響イタシマシテ、ソレダケ下落スルト致シマシテモ、細民一世帯ノ受ケル恩典ト云フモノハ、僅ニ八厘何モデゴザイマシテ一錢ニモ足リマセヌ、雀ノ涙ト申シタイケレドモ、雀ノ涙ニモ足リナイ、先ツ蚊ノ涙ノモノデアリマス、即チ土地ヲ所有セズ、營業收益稅若クハ營業稅ヲ納メル資力ナク、絹織物、毛織物、麻織物ヲ買フコト能ハザル階級ノ者ニ對シマシテハ、今回ノ減稅ニ依リマシテ受ケル所ノ利益ハ、僅ニ一世帯八厘内外ニ過ギナイノデゴザイマス、只今マデハ細民ノコトヲ申上ゲマシタガ、假ニ細民ヲ除外イタシマシテ一般國民ヲ對象トシテ考ヘテ見マスルトキニハ、ドウデアアルカト申シマスルノ、昭和四年一年間ノ砂糖消費量ハ十三億六千五百三十一萬五千九百八十三斤、即チ國民一人當リハ二十一斤七デアリマスカラシテ、一年一人ノ減稅額ノ恩典ハ僅カ四錢二厘ニ過ギマセヌ、減稅案ノ正體ハ實ニ斯ノ如キモノデゴザイマス、此外織物消費稅ノコトヲ申上ゲテモ宜シイガ、長クナリマスカラ略シテ置キマスガ、簡單ニ申上ゲマス

ト、銘仙一反ノ減稅額ト云フモノハ僅ニ二錢ニ過ギマセヌ、農家ノ家計調査ニ依リマスト云フト、直接國稅ノ平均ト云フモノハ一斤一圓三十一錢デアル、酒及煙草ノ間接稅ノ負擔ト云フモノハ一斤平均七十七錢デゴザイマス、假ニ之ヲモット農家ノ平均ヨリ低イ階級ニ見マス、間接稅ノ平均ト云フモノハ高マテ參リマス、即チ六十圓未滿ノ所得ノ農家ノ間ニ於キマシテ見マス、間接稅ハ直接稅ニ比シマシテハ八十二パーセントト云フコトニ相成テ居リマス、即チ農家ノ負擔ヲ社會政策的ニ輕減セント欲スルナラバ、是等ノ消費稅ヲ輕減シナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、然ルニ政府ノ爲ス所ハ全ク之ニ反シテ居リマス、政府ハ一昨年ノ暮ニ肥料ノ下落ヲ口實ト致シテ葉煙草賠償價格ヲ引下ゲラレ、サラダダニ困窮ノ極ニ達シテ居リマシタ所ノ農民ノ收入ヲ一層引下ゲラレマシタ、又煙草製造ノ職工ノ初任級ヲ引下ゲラレマシテ、勞働賃銀ヲ三十九圓圓減セラレマシタ、又元賣捌人ノ廢止ニ依テ百五十萬圓ヲ御儲ケニナス、更ニ來年度ニ於キマシテハ煙草小賣商人ノ利益ヲ一分減ジマシテ三百萬圓ヲ國庫ニ取上ゲラレルト云フコトニナシテ居ル、誠ニ弱者ヲ誅求スルコトニ於キマシテハ至レリ盡セリ、併ナガラ政府ノ賣ル所ノ煙草ノ價值ト云フモノハ一斤一毛引下ゲルト云フコトノ御計畫ガ無イノデアリマス、特別議會ニ於ケル所ノ井上大藏大臣ノ御說明ニ依リマスレバ、農民ヨリ買上ゲラレタル葉煙草ト云フモノハ一年間倉庫ノ中ニ之ヲ貯藏シテ乾燥シタル後ニ製品ノ原料ニ用ヒルモノナルガ故ニ、葉煙草賠償價格ヲ昭和五年度ニ於テ引下ゲタルガ故ニ、直チニ製品ノ價值ヲ引下ゲル譯ニハイカヌ、斯様ニ御說明ニナシテ居ル、今ヤ其時ヨリ一年ヲ經過イタシマシテ、當時農民ヨリ値切り倒シテ御買上ニナシタ所ノ原料ニ依テ製造サレタ所ノ煙草ガ、昭和六年度ニ於テハ市場ニ

現ハレル時期ニテ居ル、而モ政府ニ於キマシテハ煙草ノ賣下代金ヲ一厘一毛モ引下ゲルト云フ御計畫モ無イ、衆議院ニ於ケル所ノ質問ニ對シテハ井上大臣ハ來年度出來ル所ノ行政財政稅制ニ關スル調査會ニ於テ之ヲ研究スルト云フコトノ御說明デア、私ハ消費稅輕減ニ對スル所ノ政府ノ誠意ニ是ラザルモノアリト申上ゲテモ過言デナイト信ジマス、殊ニ酒ノ稅ニ至リマシテハ大正九年七月ノ臨時議會ニ於キマシテ、海軍國防費ノ充實ノ爲ニ所得稅ト共ニ増稅サレタ歴史ヲ有スルモノデゴザイマス、今回海軍軍縮ニ依ル所ノ財源ニ餘剩ガアルニ於テハ、政府ハ第一ニ此酒ノ稅ト云フモノヲ御引下ニナル義務ガアルト申シテモ宜カラウト思フ、而モ政府ハ物價ガ下落シタガ故ニ、消費稅ノ直接稅ニ對スル所ノ割合ハ今日ノ減稅案ノ程度ヲ以テ適當ナリト信ジテ居ラレルヤ否ヤ、是レ本員ノ第六ノ質問デゴザイマス、本員ノ第七ノ質問ハ政府ハ今回ノ減稅案ニ依リテ生ズル所ノ都市計畫ノ財源ノ缺陷ヲ如何ニシテ補填セラレル御見込ナリヤ、尙ホ都市計畫ノ財源ニ關スル規定ヲ改正スベク、貴族院ニ對スル公約ヲ履行セザル理由如何、是方第七ノ質問デゴザイマス、政府ハ今回ノ減稅案ニ依リマシテ營業收益稅及營業稅ヲ輕減セラレル旨ヲ明言セラレ、尙ホ明治四十二年法律第三十七號ノ附加稅ノ稅率ヲ改正セラレタ第三十七號ノ都市計畫法第八條第一項第二號及第三號ノ規定ニ依リ營業收益稅割及營業稅ノ制限率ヲ緩和セラレザルヲ以テ、本稅ノ減少ニ伴フ都市計畫特別稅ノ稅額ニ減少ヲ生ズルコトハ當然デゴザイマス、之ニ依リテ生ズル府縣市町村ノ財源ノ缺陷ハ如何ニシテ之ヲ補填セラレル御見込デアリマスカ、現ニ東京府ニ於キマシテハ、其市部經濟ニ於キマシテモ、又其郡部經濟ニ於キマシテモ、都市計畫特別稅、營業收益稅割ハ本稅一圓ニ付二十二錢、即チ制限一杯マデ

徵收イタシテ居リマス、又東京府管内ノ町村ノ豫算決議書ヲ本員ハ取寄セテ一々調べテ見マシタガ、現ニ北豐島郡王子町ノ如キハ營業收益稅割ハ、本稅一圓ニ付二十二錢、營業稅ハ一圓ニ付四十錢、即チ何レモ制限一杯ニ徵收イタシテ居リマス、尙又政府ノ御發表ニナラシメテ居リマス、横濱市、濱松市、名古屋市、大崎市、堺市等ニ於キマシテモ、營業收益稅割ニ付キマシテハ制限一杯ニ課稅シテ居ルデアリマス、政府ハ今回ノ改正ニ伴フ此財源ノ缺陷ニ依リテ生ズル都市計畫事業ノ停頓ヲ其儘ニ放任セラレル御意思デアアルヤ否ヤ、然ラズシバ其財源ハ如何ニシテ之ヲ補填セラレル御見込デアアルカ、衆議院ノ特別委員會ニ於キマス所ノ政府委員ノ答辯ニ依ルト、政府ハ今マデ都市計畫ノ財源ノ缺陷ハ、他ノ地方稅ニ依リテ補填シテ居リタト、將來モ他ノ地方稅ノ補填ニ依リテ都市計畫ノ財源ヲ補フ積リデアアルト云フコトヲ仰シヤシテ居リマスガ、本員ガ地方ノ都市計畫ニ關係ノ當事者ヲ招集シテ聽イテ見マスト、是以上一般地方稅ヲ都市計畫ノ財源ニ流用スルト云フコトハ到底不可能デアアルト云フコトヲ異口同音ニ申シテ居リマス、尙ホ本員ガ今回ノ減稅案ヲ調査檢討スルニ當リマシテ、過去ノ稅制整理ニ關スル所ノ貴族院、衆議院ニ於ケル本會議、特別委員會等ノ速記録ハ一々之ヲ點檢イタシテ見マシタ、大正十五年ノ第五十二議會ニ於テ、所得稅法中改正法律案外二十一件ノ貴族院特別委員會ニ於テ、志村源太郎君ノ質問ニ對シテ政府ハ都市計畫法第八條、即チ都市計畫ノ財源ニ關スル規定ハ近ク根本的改正ヲ加フル旨ヲ答辯シ且ツ之ヲ御約束ニナラシメテ居リマス、即チ當時ノ政府委員ノ言葉ヲ借リテ申シマサルナラバ、元來東京ノ日本橋ノ真中ニ於ケル所ノ道路ヲ修繕スル費用ヲ三多摩郡ノ山中ノ田畑ニ賦課スルト云フコトハ、是ハ理窟ハ兎毛角トシテ、實際ニ於テハ非常識

デアアル、只今ノ議會ハ會期ガ既ニ切迫シテ居リマスルカラ、此際ハ局部的ノ一部改正ニ止マラスルケレドモ、此根本的改正ニ付テハ近ク御審議ヲ願フ積リデゴザイマスルカラ、此際ハ本案ニ贊成セラレタイト云フ意味ヲ述ベテ居ララルノデゴザイマス、爾來年ノ經路コト既ニ五年、今回都市計畫法中改正法律案ヲ御提案ニナルニ付キマシテハ、恰モ當時貴族院ニ對スル御公約ヲ實行セラルベキ絶好ノ機會デアアルト本員ハ信ジテ居リマスルガ、然ルニ政府ハ單ナル地租割ノ改正ヲ提出セラレルニ止メテ、當時ノ公約ヲ履行セザルハ如何ナル理由デアアルカ、是本員ノ第七ノ質問デゴザイマス、第八六今回ノ減稅ノ財源ハ果シテ確實ナリヤ否ヤ、若シ財源ニシテ確實ナラズトセバ、政府ハ本減稅案ヲ一時延期スル意思ナキヤ否ヤ、政府ノ歳入ノ見積ノ過大ナルコトハ既ニ本議場ニ於テ再三再四論議セラレタコトデゴザイマスルカラ、今日私ハ之ヲ繰返スコトヲ欲シマセヌ、過日ノ豫算總會ニ於テ配布セラレタ書類ヲ見マスト、五年度ノ實行豫算ニ於テ森林收入ノ減約五百萬圓、郵便電信電話ノ收入ノ減約五百萬圓、租稅及印紙收入ノ減約六千萬圓即チ合計約八千萬圓ノ歳入缺陷ノアル旨ヲ豫算總會ニ於テ政府ハ書類ヲ配布セラレテ居ル、其後ノ現計ヲ調査イタシマスト、八千萬圓ニ止マリマセヌガ、是ハ枝葉末節ニ涉リマシカカラ今日ハ申上ゲマセヌ、本員ハ敢テ先見ノ明ヲ誇ルガ如キ嫌味ナコトヲ申上ゲル積リハ一ツモナイ、併ナガラ、右ハ特別會議ニ於テ而モ豫算總會ニ於テ、本員ガ井上大藏大臣ニ質問イタシタ事實ト殆下一致スルノデゴザイマス、當時濱口總理大臣及ビ井上大藏大臣ハ何ト御答辯ニ相成テ居リマスルカ、ヨモヤ御忘レデハゴザイマス、私今日之ヲ想出シテモ憤慨ニ堪ヘマセヌ、井上大藏大臣ハ五年度ノ實行豫算ノ歳入ノ見積ハ自分ハ立派ナモノデアルト信

ジテ居ルト云フコトノ御答辯デアタ、濱口總理大臣ハ五年度ノ歳入見積ニ付テハ歳入ニ關係アル各省ノ官吏ニ命ジテ正確ナル材料ニ據リ慎重ニ調査セシメタルモノデアアルガ故ニ、全體ヲ通ジテ斷ジテ歳入減ノ虞ナシト、斯ウ言ハレテ居ル、然ルニ其舌根未ダ乾カザル内、即チ特別議會閉會後約二十日ニ歳入缺陷ノ事實ヲ御發表ニナリ、行政ノ經濟化ト稱シテ事業ノ繰延ヲ行ヒ、事實ニ於テ行政ノ不經濟化ヲ圖ラレタコトハ、我ノ記憶ニ新ナル所デゴザイマス、六年度ノ歳入ノ見積ノ過大ナルコトモ同ジク歴然タル事實デゴザイマス、本員ハ約三週間ニ亙リテ蒐集シタ材料ヲ持テ居リマスルカラ、政府ニ於テ若シ御希望トアルナラバ六年度ノ歳入ノ見積ノ過大ナル所以ヲ、歳入豫算ノ各款項ニ亙リテ或ル機會ニ於テ御質問申上ゲテ一向差支ゴザイマセヌ、併ナガラ本員ガ今日マデ未ダ之ヲ爲サザルハ、六年度ノ收入見積ニ付テハ十日ノ見積所十指ノ指所、其過大ナル事實ハ餘リニ歴然タルモノガアルカラデゴザイマス、何レ斯ウ申上ゲマスルト、井上大藏大臣ハ六年度ノ歳入ニ付テハ斷ジテ過大ノ見積ナシト斯ウ御答辯ニナリマセウガ、甚ダ失禮ノコトヲ申上ゲルヤウデゴザイマスルガ、事苟クモ歳入ニ關スル限り、井上大藏大臣ノ御言明ニ對シテ本員ハ多クノ信用ヲ置クコトハ出來マセヌ、何レ本議會ノ終了後何日カ經テマシタナラバ、何トカ豫期セザル世界ノ不景氣ニ依リ物價ノ著シキ變動アリタルガ爲ニ行政ノ經濟化ヲ圖リ、歳入ノ減補填スル必要ヲ生ジタリナドト仰シヤイマシテ、又復實行豫算ヲ御編成ニナルト云フコトヲ、サウ云フコトガ無イト云フコトヲ、何人ガ保證出來マセウカ、既ニ過日ノ本會議ノ議場ニ於キマシテ幣原首相代理ハ問フニ落チズ語ルニ落チル、歳入ノ減少ノ場合ニハ六年度ニ於キマシテハ歳入ノ整理ヲ爲ス外ナシトシテ、暗ニ來ルベキ實行豫算ノ

編成ニ付テ、其御計畫ノ一端ヲ御漏ラシニ  
 ナテ居ル、即チ來年度九百萬圓ノ所謂留保  
 財源トハ晝イタ餅ノ如キモノデハナイカ、  
 之ニ付テ政府ノ御所見ハ如何、而モ井上大  
 藏大臣ノ御言葉ノ時ニ變リマスコトハ、獨  
 リ歳入ノ問題ニ止マリマセズ、又施政ノ御  
 演説ノ中ニ……施政方針ノ御演説ノ中ノ六  
 千萬圓ノ御間違ニ止マラズ、時々又御間違  
 ガゴザイマス、昭和四年七月二十四日附ヲ  
 以テ貴族院ノ事務局ヨリ我々ニ配付セラレ  
 タ井上大藏大臣ノ御著書ガゴザイマス、國  
 民經濟ノ立直シト金解禁ノ決行ニ就テ國民  
 ニ訴フ、斯ウ云フ御著書ヲ頂キマシタ、謹  
 ンデ拜讀イタシマシタ、井上大藏大臣ノ御  
 著書ヲ拜讀イタシマシタ、一般會計ニ於  
 テハ、斷ジテ公債ヲ募集セズト、斯ウ仰シ  
 ヤテ居ル、ソレヲ引用イタシマシタ、昭和  
 和五年度以後、一般會計ニハ一切新規公債  
 ヲ發行シナイト、斯ウ書イテアル、失業公  
 債ハ例外ダナンテ云フコトハ書イテアリマ  
 セヌ、又獨逸賠償金ハ國債償還ノ基金ニ繰  
 入レルト云フコトガ書イテアル、堂々タル  
 御言葉ガ此御著書ニ書イテアリマシテ、而  
 モ此御著書ノ終リニ、是ハ豫算編成ノ方針  
 トシテ發表シタノデゴザリマシテ、此約束  
 ハ濱口内閣ノ續ク限リハ忠實ニ實行イタシ  
 マスト、斯ウ書イテアリマス、濱口總理大  
 臣ハマダ議會へ御登院ニハナリマセヌガ、  
 本員ハ濱口内閣方濱レタト云フコトハマダ  
 聞キマセヌ、濱口内閣ハマダ繼續シテ居リ  
 マスルガ、此御約束ハモウ潰レテ居リマス  
 獨逸ノ賠償金ハ國債償還基金ニ繰入レルト  
 云フコトハ御中止ニナリ、一般會計ニ於キ  
 マシテモ失業救済公債ト云フモノヲ募集サ  
 レルコトニ相成テ居ル、井上大藏大臣ノ御  
 答辯ヲ承リマスルト、失業救済ノ公債ハ一  
 年限リノモノナルガ故ニ、是ハ原則ノ例外  
 デアリマシテモ公債ハ公債、失業救済ノ目  
 的デアリマシテモ公債ハ公債、一年限リノ

公債ハ公債ニ非ズ、失業救済ノ目的ニスル  
 公債ハ公債ニ非ズ、即チ白馬ハ馬ニ非ズト  
 云フ御證明ガナイ以上ハ、現内閣ノ豫算編  
 成ノ方針ト云フモノハ見事ニ裏切ラレタモ  
 ノト、申上ゲテモ宜カラウト思ヒマス、加  
 之昭和六年一月十五日ニ御印刷ニナツタ昭  
 和五年度以降失業救済事業總括表ト云フ印  
 刷物ヲ拜見イタシマシタ、政府ハ昭和八  
 年度マデ失業救済事業ノ計畫ヲ御立テニ  
 ナテ居ル、失業救済ノ御計畫ガ六年度限リ  
 デナイト云フコトハ、政府自ラ御認メニナ  
 テ居ル、我國ノ財界ノ某有力者ガ申シマス  
 ルノニ、今回ノ減稅ハ蝸配當的ノ減稅デア  
 ルト云フコトハ、其意味ヲ本員ガ村度スルニ  
 民間ノ會社ニ於キマシテ、一方ニ於テハ借  
 金ヲ殖ヤス、借金ヲ返ス金ハ減少イタス、  
 收益ハ少シモ無イノニ資本ヲ食テ配當ス  
 ルノヲ之ヲ蝸配當ト申シマス、政府ハ獨逸  
 ノ賠償金ノ減債基金繰入ヲ御中止ニナツタ  
 御チ借金ヲ返ス金ハ少ナクナツタ、公約ニ  
 反シテ、一般會計ニ於テハ公債ヲ募集ニナ  
 リ、借金ハ増加スルコトニナツタ、歳入ハ  
 益、減少イタシテ之ヲ補ハシメテ益、苛斂  
 誅求ト云フコトヲ御始メニナツテ居ル、而シ  
 テ一方ニ於テ減稅ヲ爲サレルト云フコト  
 ハ、民間ノ會社ヲ蝸配當デアアル、即チ  
 今回ノ減稅案ハ蝸配當的減稅案ナリト、斯ウ  
 云フ意味デアラウト思フ、其言ハ稍、奇矯  
 ナルガ如シト雖モ、又穿チ得テ妙ナリトモ  
 申サレル、モウ暫クデアリマス、附加ヘテ  
 申シマスルガ、今回ノ海軍ノ補充計畫ト云  
 フモノハ私ニハ能ク分リマセヌ、第一次ノ  
 補充計畫ニ依テ國防ノ不安ナシ、若クハ國  
 防ノ不安ガ緩和セラレタト云フコトヲ何人  
 カ答辯サレテ居リマシタガ、何時ノ間ニカ  
 第一次補充計畫デハ足ラナイ、一箇月バカ  
 リ前カラシテ第二次補充計畫ト云フモノガ  
 空ノ中ノ登龍ノヤウニテラ、ト片鱗ガ現  
 ハレテ參リマシタ、第二次補充計畫ト云フ  
 モノハ列國ノ形勢ヲ見、又其造艦技術ノ進

歩ヲ見テ徐ロニ之ヲ定メルト云フ、斯ウ云  
 フ御答辯ヲセラレタト思フト、昭和九年度  
 カ遅クトモ昭和十年度ニハ、第二次補充計  
 畫ニ著手セザレバ政府ハ民間ノ造艦能力ハ  
 到底維持シナイト云フ御答辯マアツタヤウ  
 ニ記憶スル、六年度ノ豫算各自明細書ヲ見  
 ルト、第一次補充計畫中ノ驅逐艦ノ建造計畫  
 ハ四隻デアルト思フト、衆議院ノ特別委員  
 會ニ於ケル海軍大臣ノ艦艇建造豫定表ニ基  
 ヲク御答辯ニ依ルト、是ハ三隻ニ相成ツテ  
 居ル、同ジク六年度ノ潜水艦ノ建造計畫ハ  
 間ニカ一隻ニナツテ居ル、端倪スベカラザ  
 ル補充計畫デアアル、又今回ノ補充計畫ニ艦  
 艇維持費ヲ含マズト云フコトデアリマス  
 カラ、補充計畫ニ依テ出來タ軍艦ハ動  
 カサズニ其儘港ニ繋イデ置クノカト思ヒマ  
 スト、又廢艦ニ依テ出來タ金ヲ以テ軍艦  
 ノ維持費ニ充テル、斯ウ云フヤウナ説明モ  
 アル、今マデ海軍デハ隨分廢艦ノコトヲナ  
 サイマシタケレドモ、維持費ヲ大藏省ニ御  
 返シニナツタ例ハ餘リ聞カナイ、誠ニ今回ハ  
 御殊勝ノコトト思フト、六年度マデニ一萬  
 八千噸ノ造艦ニ相成ルガ、此六年度マデノ  
 一萬八千噸ニ對スル艦艇維持費ト云フモノ  
 ハ最低九百萬圓ヲ要スル、併シソレ迄ハ廢  
 艦ニナルモノハ一隻モナイ、斯ウ云フ御説  
 明デアアル、誠ニ此頭腦明晰ナ方カラ言ヘバ、  
 此間ノ一貫セル理窟ガアルノデゴザイマセ  
 ウケレドモ、本員ノ如キ平凡ナル頭腦ノ者  
 デハ殆ド何ガ何ヤラ分ラヌ、私ハ海軍大臣  
 ガ貴衆兩院ニ於ル所ノ質問ヲ誤解ニナツテ  
 居ヤセヌカト思フ、兩院ニ於ケル質問ヲ見  
 マスルト、海軍ニ對シテ敢テ之ヲ苦シメル  
 趣旨ハ毛頭モナイヤウニゴザイマス、四面  
 環海ノ我國ト政シマシテ、國防ヲ維持スル  
 ニ必要ナル海軍力ハ、他ノ何物ヲ節シマシ  
 テモ、之ヲ保持シナケレバナラヌト云フコ  
 トハ、心アル國民ノ一致スル考デゴザイマ  
 シテ、本員ノ如キ誠ニ微力デアゴザイマス

ケレドモ、海軍軍備ノ將來ヲ心配イタシテ、  
 出來得ルナラバ微力ヲ捧ゲテ其海軍軍備  
 充實ノ御後援ヲ申上ガタイ考ヲ有テ居ル、  
 海軍大臣ハ何カ大藏大臣ニ御氣兼ねガアル  
 ノカ存ジマセヌガ、常ニ霞ヲ隔テテ花ヲ見  
 ルガ如キ御答辯ヲナステ居ル、誠ニ軍人ヲ  
 シク要ルモノハ要ル、必要ノモノハ必要ト  
 率直ニ御答辯ニナレバ本員共ハ満足スルノ  
 デアリマスガ、尙ホ大藏省カラ御取リニナ  
 タ一札ト云フモノヲ發表セラレタラバ、此  
 豫算ノ内容ハ益、明カニナルモノト考ヘテ  
 居ル、ソコデ昭和六年以降ノ歳入歳出豫算  
 概計表ヲ拜見シマシタ、六年度ニ於ケル歳  
 出臨時費ト云フモノハ二億六千八百萬圓、  
 其中繼續費ガ一億四千六百萬圓、之ヲ除キ  
 マシタ即チ繼續費ニアラザル臨時費ト云フ  
 モノハ一億二千二百萬圓、六年度ニ於テハ  
 一億二千二百萬圓以上ゴザイマスルガ、七  
 年度ニ於テハ是ガ九千九百萬圓ニ減ジ、八  
 年度ニ於テハ是ガ九千九百萬圓ニ減ジ、九  
 年度ニ於テハ是ガ九千九百萬圓ニ減ジ、十  
 年度ニ於テハ是ガ九千九百萬圓ニ減ジ、十  
 一年度ニ於テハ是ガ九千九百萬圓ニ減ジ、  
 十二年度ニ於テハ是ガ九千九百萬圓ニ減  
 ジ、十三年度ニ於テハ是ガ九千九百萬圓  
 ニ減ズルト云フ、斯ウ云フ概計表ニ相成ツ  
 テ居ル、富士山ハ白扇ヲ倒シマシタト云フ  
 トヲ聞イテ居リマスガ、此白扇ヲ倒シマシ  
 タ富士山ヲ又倒シマシタヤウデ、末ニ行ク  
 程益、繼續費外ノ臨時費ト云フモノガ少ク  
 ナル形ニ相成テ居ル、是ハ餘程ノ大決心ヲ  
 以テ大行政整理ヲナサレナケレバ、概計表  
 ト云フモノハ御實行出來ナイ、ノミナラズ  
 常識ヲ以テ想像セラレマス所ノ臨時費ノ増  
 加ガアル、第一ハ恩給ノ増額ト云フモノモ  
 ノガ毎年三百萬圓デアリマスガ、豫算ノ此  
 概計表ノ中ニハ此遞増費ト云フモノガ入レ  
 テアリマシタガ、今回ハ御除キナツテ居ル、  
 海軍第二次計畫ト云フモノハ是ハ世間デハ  
 一億五千萬圓ト云フコトヲ申シテ居リマス  
 ガ、海軍大臣ガ御説明ニナリマセヌカラ幾  
 ラカハ八分リマセヌガ、是モ入テ居リマセ  
 ス、海軍艦艇維持費ト云フモノモ是モ入テ

居リマセヌ、米穀特別會計ノ缺損一億五六  
千万圓ト云フモノノ處分等モ、是ハ二三年  
ノ中ニ當然ナサナケレバナラヌト思フテ居  
リマセヌ、是モ入テ居リマセヌ、絲價補償  
公債ニ依ル三千万圓ト云フモノハ、是ハド  
ウセ交付公債ヲ御出シニナルノデゴザイマ  
セウガ、其利子及償還財源ト云フモノハ概  
計表中ニ入テ居リマセヌ、此頃我ニ配付  
ニナク昭和六年度以降ノ歳入歳出豫算概  
計表ト云フモノハ、アトハ野トナレ山トナ  
レノ概計表デアリマシテ、減稅ドコロゾナ  
イ増稅ノ危機ヲ孕ンデ居ル概計表デア  
ト、本員ハ考ヘテ居ル、ソコデ本員ハ政府  
ニ伺ヒタイコトハ、幸ヒ政府ニ於キマシテ、  
來年度ニ於キマシテ、行政財政及ビ稅制ニ  
關スル調査會ト云フモノヲ設置セラレ、朝  
野ノ有識者ヲ集メテ稅制ニ關スル根本的調  
査ヲ致サレ、國民負擔ノ均衡ヲ圖ラレ、  
斯ウ云フコトデゴザイマスル、而モ此調査  
會ニ於テハ今回改正セラレムトスル四ツノ  
稅法案ハ、是ハ一切觸レナイノカト云フト  
實ハサウデナイラシイ、衆議院ノ特別委員  
會ニ於ケル政府委員ノ御答辯ヲ見マスル  
ト、地租法ハ此調査會ニ於テハ根本的改正  
ニハ手ヲ著ケナイガ、稅率ダケハ改正スル  
カモ知レヌ、斯ウ云フコトヲ言フテ居ラ  
ル、他ノ營業收益稅法、織物消費稅法、砂  
糖消費稅法ハ之ニ關スル答辯ヲ留保シタ  
イ、斯ウ言フテ居ラレ、又井上大藏大臣ハ  
原則トシテハ此四ツノ法律ニハ手ヲ著ケヌ  
コト、斯ウ仰シヤテ居ルカラ、或ハ例外トシ  
テ手ヲ著ケニナルノカモ知レヌ、政府ハ  
如何ナル御考デアルカ、是ハ別ト致シマシ  
テ、本員ガ實問トシテ伺ヒタイコトハ、政府  
ハ何モ意イデ今期議會ニ缺陷ヲケケノ減稅  
案ヲ御提出ニナラズシテ、右ノ調査會ニ於  
テユクク稅制ノ御研究ヲナサレ、財源ノ缺  
陷ノ狀況モ能ク御調査ニナリ、昭和五年  
十年ノ初メノ海軍第二期補充計畫ノ他ノ財  
源モ、能ク海軍省ト御打合せニナリ、又概

計表ニ現ハレテ居ル所ノ將來必要デア  
ル臨  
時費ト云フコトノ御調査ニモナリ、又海軍  
ノ艦艇維持費ト云フコトニ必要ナ財源ト云  
フモノモ御調査ニナリ、尙且ツ減稅ノ餘地  
ガアル場合、即チソレ等ノモノヲ差引イテ  
モ尙且ツ減稅ノ餘地ノアルコトガ明カニ  
ナク場合ニハ、次ノ議會ニ於テ完全ナル減  
稅法案ヲ御提出ニナルコトニ御考ヘ直シハ  
出來マセヌカ、勿論減稅ト云フモノハ一日  
モ早イ方ガ宜シイノデアアル、サウ云フコト  
ヲ仰シヤルカモ知レマセヌガ、六年度ノ過  
渡的ノ減稅額ト云フモノハ、總額ハ僅ニ九  
百萬圓、是ハ八億ノ稅收入ニ較ベマスト僅  
ニ九十分ノ一、七千万ノ國民ノ數ニ割リ當  
テマスレバ、一人ノ減稅額ハ一人僅カ十二  
錢八厘、一月平均一人一錢ニ過ギマセヌ、  
早賊ノ時ニ飛行機カラ、「コッパ」ノ水ヲ一  
杯注グヤウナモノデアリマシテ、水ハ大地  
ヲ濕ス前ニ空中ニ於テ蒸發シテシマフコト  
ハ明カデアアル、帶ニモ短イシ、襪ニモ短イ  
減稅案デゴザイマス、以上ノ理由ニ依リマ  
シテ、政府ハ本案ヲ一旦撤回セラレ、若  
クハ此本案ヲ一年延期セラレト云フヤウ  
ナ意思ガナキヤ否ヤ、是レ本員ノ第八ノ質  
問デゴザイマス、是デ一ト先ツ質問ヲ終リ  
マスガ、特ニ井上大藏大臣ニ御願ヒ致シマ  
スノハ、甚ダ失禮ノコトデゴザイマスガ、  
井上大藏大臣ハ質問中ノ片言隻語ヲ捕ヘル  
コトナク、又同時ニ囚ヘラルルコトナク、  
各質問ノ趣旨ノ存スル所ニ對シ適切ナル御  
答辯ヲ戴カムコトヲ望ム、又安達内務大臣  
ハ衆議院ノ本會議ニ於キマシテ、答辯ハ委  
員會ニ讓ルト云フコトヲ再々申シテ居ラレ  
マスルガ、貴族院ニ於キマシテハ、願ハク  
ハ答辯ヲ委員會ニ讓ルト云フ答辯ヲ以テ、  
答辯ヲ回避セラルルコトナク、本會議ニ於  
ケル質問ニ對シテハ本會議ニ於テ御答辯ア  
ラムコトヲ希望イタシマス、デ若シ此國務  
大臣ノ答辯ニシテ誠意アリ、深切ニシテ要  
領ヲ得ルニ於テハ、本期議會ハ餘ス所僅ニ

三週開、本員ノ後ニマダ質問ノ通告者ガア  
ルコトヲ聞ケテ居リマスルカラ、此答辯ニ  
シテ要領ヲ得ルニ於テハ、再ビ再質問ヲ……  
再ビ登壇ヲ致シテ再質問ヲ致シマセヌ、併  
ナガラ國務大臣ノ答辯ニシテ深切ヲ缺キ、  
誠意ヲ缺キ、要領ヲ得ザルニ於テハ、甚ダ  
不本意デハゴザイマスルケレドモ、議長ノ  
許可ヲ得テ、再ビ質問ヲ繰返スカモ知レマ  
セヌ、此點ハ御許シテ願ヒマシテ明快ナル  
御答辯ヲ願ヒマス

午後零時十一分休憩  
午後一時五十一分開議  
○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ午後ノ會  
議ヲ開キマス、内務大臣安達謙藏君  
議ヲ開キマス、(國務大臣安達謙藏君演壇ニ登ル)  
○國務大臣(安達謙藏君) 私ハ長岡君ノ御  
問ニ對シマシテ、重モニ地方稅ニ關スルコ  
トヲ御答ヘ致シマスガ、御尋ノ中ノ第一ト、  
第三ト、第四ト、第七ニ付テ御答ヘスルコ  
トガ當然ト考ヘマス、此御答ヲ致ス前ニ當  
リマシテ、私ハ御話ノ中デ大體論トシテ簡  
單ニ御答ヲ致シテ置クコトガ必要ト考ヘマ  
スカラ、一言申上テ置キマス、ソレハ地  
方財政、特ニ町村財政ノ今日ノ狀態、今日  
ノ窮境ト云フモノハ、是ハ一朝一夕ニ起  
コトデアリマセヌ、是ハ長久間ニ諸般ノ  
施設經營其當ヲ得マセヌ爲ニ、今日ノヤウ  
ナ行詰リヲ生ジタモノト私ハ考ヘテ居リマ  
ス、長岡君ノ例トシテ御引キニナリマシタ  
福馬縣ノ俸給ノ拂ハレナイ爲ニ、年末ニ借  
入金ヲシタト云フコトデアリマシタガ、此  
例ヲ御引キナサテコトヲ以テ申上ゲルト  
云フト、福馬縣ニ於キマシテハ、一昨年七  
月縣知事ガ赴任イタシマシタ時ニ、既ニ數  
箇月間俸給ガ延滞シテ居リマシタ爲ニ、ソ  
レデ已ムヲ得ズ借入金ヲシタ、其後モ亦同  
様ノコトヲシテ居ル、斯ウ云フコトデアリ

マシテ、昨年トカ今年トガニ起テ狀態デハ  
ナイノデアリマスカラ、ソレデ私ハ此地  
方ノ財政ノ今日ノ行詰リ、此窮境ヲ打開スル  
ニ付キマシテハ、熱心、銳意、努力シテ居  
リマス、又私ガ各地方長官ニ對シテ財政ノ  
整理緊縮ノ方針ヲ訓示シタニ拘ラズ、其豫  
算ガ膨脹シテ居ル、二千七百何十万圓ト云  
フ御話デアリマシタガ、豫算ガ膨脹シテ居  
ル、一向緊縮整理ノ方針ガ徹底シテ居ラ  
ズト云フ御話デアリマシタ、成程若干豫算ハ  
殖エテ居リマスガ、此増加イタシマシタ數  
字ハ、是ハ至ク失業救済ノ爲ニ已ムヲ得ズ  
事業ヲ起シタカラ致シマシテ、此數字ガ  
増加イタシテ居ルノデアリマス、稅外ノ收  
入ガ増加シテ居ル、是モ失業ノ爲ニ起債ヲ  
シタモノガラウト考ヘマス、收入デハアリ  
マセヌ、支出デアリマス、ソレデ此支出ガ  
増加シテ居ル、起債ノ増加ト云フ爲ニ、是  
デ節約ノ方針ヲ變更シタトハ言ハレマセヌ、  
相變ラズ整理節約ノ方針ト云フモノハ變更  
セズニ、依然トシテソレヲ守ラシメテ居リ  
マスガ、已ムヲ得ザル場合ノ爲ニ失業救済  
ノ事業ヲ起シテ、其爲ニ此數字ガ増加シ  
タト云フコトニ御承知ヲ願ヒテ置キマス、ソ  
レカラ御問ノ、政府ハ中央ニ於テ支辨スベ  
キモノヲ地方ノ負擔ニ移シテシマフ、サウ  
シテ地方財政ヲ壓迫スルヤウナコトヲナシ  
ツツアルデハナイカ、將來ハ之ヲ改ムルノ  
意思ガアルカドウカト云フ御尋デアリマ  
ス、此中央ト地方トノ負擔ヲ適正ニ區分イ  
タシマシテ、サウシテ溢ニ地方財政ヲ壓迫  
スルヤウナコトノナイヤウニスルト云フコ  
トニ付キマシテハ、是ハ歴代ノ内閣ト共ニ  
現政府ニ於テモ常ニ之ヲ念トシツツアリマ  
ス、ソレデ將來ト雖モ各種ノ場合ニ此方針  
ヲ以テ臨ミマシテ、サウシテ中央ハ地方ト  
ノ費用ノ負擔ノ其區分ト云フモノヲ合理的  
ナラシメテ、之ガ爲ニ溢ニ地方財政ヲ壓迫  
スルコトノナイヤウニ努メルコトニ考ヘテ  
居リマス、ソレカラ第三ノ御問ノ今回ノ地

官報號外 昭和六年三月五日 貴族院議事速記第二十五號 地租法案外六件 第一議會

方稅制ノ改正ハ、地方團體ノ財政ニ對シテ十分深切ナル考慮ヲ拂ハザリシ嫌ヒガアル、其爲ニ財源ノ乏シキ地方團體ニアリテハ、將來財政ノ經理ニ困難ヲ來ス、或ハ其財政ヲ混亂セシムルガ如キコトガアルデハナイカ、斯ウ云フ意味ノ御尋デアッタト考ヘマスガ、此度ノ地方稅制ノ改正ニ當リマシテハ、一面地方負擔ノ公正ヲ期シマスルト共ニ、一面ニハ地方團體ノ財政ニ對シマシテ最モ慎重ナル考慮ヲ拂ヒタルモノト信ジマス、即チ地租附加稅等ノ増減ヲ生ジマス地方團體ニ對シテハ、經過ノ便法ヲ設ケマシテ、一面ニハ地方團體ノ財政ニ不時ノ缺陷ヲ生ズルコトナカラシムルト共ニ、一面ニハ土地ニ對スル地方負擔ノ増加ヲ以テ、地方財政ノ濫リナル膨脹ヲ抑制スルコトトナシマシタ、併シ之ヲ昭和十二年ニ至テ考ヘテ見マスルト、地租附加稅ノ收入ニ増減ノアルト云フコトハ御説ノ通りデアリマス、地租附加稅ノ増加スベキ地方團體ニ於キマシテハ、ソレダケ將來財政ノ餘裕ヲ生ジマスカラシメ、ソレニ依テ他ノ國稅附加稅又ハ戶數割、家屋稅及ビ其附加稅等ノ輕減ヲスルコトニナルデアリマス、ソレカラ此度ハ逆ニ地租附加稅ノ減收トナル市町村ニ對シマシテハ、第一ニ、其歲出ノ整理節約ニ依リマシテ此減收ヲ補填スルコトガ適當ト認メマス、歲出ノ整理節約ニ依リ之ヲ補填シ得ザル場合ハ、其市町村ニ對シテ既ニ許サレテ居ル他ノ各稅ノ増徴ニ待ツノ外ナシト認メマス、若シ地方稅制全般ニ互フテ改正ヲ加ヘマスルトセバ、一方ニ於テ失フ所ヲ他方ニ於テ得ルコトトナリ、地方團體ノ各個ニ付キマシテ見ル時ハ、損得償フ場合ヲ生ズルコトガアリマスモ、今回ノ地方稅制ノ改正ハ國稅ノ改正ト直接關係アル範圍ニ止メマシタカラシテ、自然此點マデ及ブコトノ出來ナカタハ、是ハ已ムヲ得ザルコトデアリマス、地方團體ノ財政狀態ハ種種様々デアリマス、財源ノ乏シキモノモア

リ又ラザルモノモアリマス、之ヲ規律スルニハ劃一的ナル法制ヲ以テスル結果、一方ニ財源ヲ失フモノアルト共ニ、他方ニ之ヲ失フモノヲ生ズルモノ、全國的ニ負擔ノ公正ヲ期スル上ニ於キマシテハ、是モ亦誠ニ已ムヲ得ザル所デアルト認メマス、今回ノ改正ニ依リマシテ、地租附加稅等ニ増減ヲ生ジタルハ、土地ニ對スル地方負擔ガ、之ニ依テ公正トナリタル結果ニ外ナラヌノデアリマス、故ニ從前ニ比較イタシマシテ、將來ハ各種負擔ノ均衡ヲ得タル狀態ノ下ニ、地方ノ必要ナル費用ヲ負擔スルコトトナリマスルカラシメ、從前ニ比較シテ之ヲ負擔スル苦痛ハ却テ緩和セラレマス、之ヲ以テ地方財政ヲ混亂ニ導クモノノヤウニ考ヘルノハ當ラザルコトト信ジマス、ソレカラ第四ノ御問ノ府縣稅營業稅及其附加稅ノ減稅財源ハ、是ハ何レニ求ムルカト、斯ウ云フ御尋デアリマス、府縣稅營業稅ハ御承知ノ如ク百八十餘萬圓デアリマス又營業稅附加稅ノ減稅額ハ六十餘萬圓ノ見込デアリマスガ、是ガ減稅財源ハ府縣ニ於テハ其一部ヲ營業收益稅附加稅ノ增收ニ求メ、又他ノ一部ヲ其財政ノ整理節約ニ求メマシテ、尙ホ足ラザル場合ニ於テハ先ニ御話ノ通り昭和八年度マデニ限り營業稅ノ制限外課稅ニ求メシムル見込デアリマス、又市町村ニ於キマシテハ、減稅財源ハ其一部ヲ財政ノ整理節約ニ求メ、其足ラザル場合ハ營業附加稅ノ制限外課稅ニ求メシムル見込デアリマ

都市計畫特別稅ニ對スル根本的改正ニ付キ茲ニ提案ヲセザルハ如何ナル理由カ、斯ウ云フ御尋ネノヤウデアリマスルガ、都市計畫特別稅ニ付キマシテハ、今回ノ改正ニ當リマシテ、地租割ノ如ク稅率ヲ變更シタルモノニ付テハ、地方團體ノ收入ノ増減ナキヲ期シタルモノデアリマシテ、特別減收トナラズ、團體ニ依リテハ却テ增收トナリマス、又營業收益稅割、營業稅割ノ如ク稅率ヲ改正セザルモノニ付キマシテハ御見込ノ如ク幾分減收トナルヲ免レマセヌモ、其程度ガ頗ル輕微デアリマスカラシテ、ソレデ都市計畫事業ノ執行ニハ支障ヲ來スガ如キ虞ナシト認メテ居リマス、大正十五年第五十一議會ニ於ケル志村委員ト政府委員トノ問答トナレル事項ニ付キマシテハ、其後考ヲ見ルニ至リマセヌ、是ハ明年度行ハレマスル行政稅制ノ調査ニ當リマシテ、本件モ地方稅制全般ニ互リ總括的ニ十分調査考究スル見込デアリマス

減稅ナシノ地租法ダケニ依リマス、斯ウ云フコトニナリマス、大體田畑ニ於キマシテ九百六十萬圓程減稅ニナリマシテ、サウシテ宅地ニ於キマシテ同額……殆ド同額ガ増稅ニナリマス、九百萬圓田畑ニ減稅ニナシ、ソレヲ今度ノ減稅ノ機會ニ、平年ニ於キマシテ、千八十万圓減稅ニ爲シ、丁度其割合ガ田畑ニ於キマシテ千八百萬圓ノ減稅ニナリマシテ、宅地ニ於キマシテ五百四十萬三千圓程増稅ノ形ニナルノデアリマス、即チ一方ニ減稅ト一方ニ殖エルト云フコトニナリマシテ、是ハ負擔ノ公正ヲ計ル點カラ出發イタシマシタノデ已ムヲ得ザル次第デアリマス、ソレデ宅地ノ稅源ノ表ヲ出シテ見マス、長岡君ノ擧ゲラレタヤウニ東京市ニ於キマシテ百八十八萬圓、大阪ニ於キマシテ百五十萬圓、京都市ニ於キマシテ神戶市ニ於テ二十九萬一千圓、名古屋市ニ於テ四十九萬一千圓、橫濱市ニ於テ十七萬九千圓、合計四百六十二萬圓ノ宅地租方殖エマス、其他ノ市部ニ於キマシテ百三十九萬圓殖エマシテ、郡部ニ於キマシテ五十五萬八千圓程減稅マス、其結果ガ五百四十五萬二千圓程宅地租ニ於テ殖エルトナルノデアリマス、併シ只今申シマシタヤウニ、此際下コノ部分ニ於キマシテ増稅ニナルト云フヤウナコトハ、他ノ意味カラ申シマシタナラバ、頗ル避ケナケレバナラヌ話デアリマスガ、此地租法ノ改正ハ只今申上グルヤウナ意味ニ於テ出發イタシマシタノデアリマシテ、是ハ已ムヲ得ザル事態ト考ヘテ居ル次第デアリマス、其次ノ私ニ御問ヒハ營業收益稅ニ於テ、今度ノ減稅案ハ不合理ノ結果、法人ノ減稅ト個人ノ減稅ノ割合ガ非常ニ不適合ガ、斯ウ云フ御話デアリマス、又免稅點ヲ引上げテ、此減稅ヲ計ルコトノ方ガ寧ロ公正デアラウト云フ御意見デアッタノデアリマスガ、今般ノ取扱デ、是マデモ法人ト個人ト區別取扱

〔副議長公府近衛文磨君議長席ニ著ク〕  
減稅財源ハ地方團體ニ於キマシテハ相當ノ金額トナリマスモ、之ヲバ各團體的別ニ見マスルトキハ、必シモ差シタル金額デハゴザイマセヌ、故ニ財政ノ整理節約ニ依リマシテ支辨シ得ルモノト信ジテ居リマス、ソレカラ第七ノ御尋ネノ都市計畫特別稅ハ今回ノ改正ニ依リ相當ノ收入減トナル、都市計畫事業ノ執行ニ故障ヲ生ジヤシナイカ、

〔國務大臣(井上準之助君) 長岡君ノ御質問ニ對シテ御答ヲ致シマスガ、第一ハ地租法ノ改正ニ依テ市街地ガ増稅ニナル、此經濟界ノ時代ニ増稅トナルコトハ非常ナ不都合デハナイカト、斯ウ云フコトデアリマシタガ、今日ノ經濟界ノ時代ニ如何ナル種類ノ事柄デアリマシテモ増稅ヲスルト云フコトハ、長岡君ノ御議論ノヤウニ出來ルダケ避ケニヤナラヌコトハ、是ハ當然デアリマス、併ナガラ此地租法ノ改正ハ日本全國ニ通ジマシテ負擔ノ公正ヲ圖ル、斯ウ云フコトノ爲ニ出發イタシマシタモノデアッテ、負擔ノ公正ハ成ルベク速カニ之ヲ是正シテ置クト云フコトガ當然ノ義デアラウ、斯ウ云フコトヲ考ヘマシテ出來ルダケ増稅ニナルト云フコトハ、負擔ノ公正ニ妨ゲナイ程度ニ致シマシテ努メテ之ヲ避ケテ積リデア

リマス、一應簡單ニ申上ゲテ置キマス、



シテ居リマス、是ハモウ根本ノ理窟ハ申上  
ゲルマデモナイ、能ク分テ居ル話デアリ  
マスガ、尙ホ法人ノ方ト個人トノ間ニ一層  
開キヲ多クシタノデアリマス、是ハ道理ハ  
申上ゲル必要モアリマセヌガ、段々徴稅ヲ  
取扱、タ經驗上、左様ニ致シマスコトノ方  
ガ、寧ロ一般ノ下層社會……下層社會ト云  
フ言葉ハ惡ルウゴザイマスガ、社會政策  
ノ意味カラ行ケバ、ソレノ方ガ適合スル、  
斯ウ云フ考ヘデアリマシテ、法人ノ方ハ平  
年度ニ於キマシテ百分ノ三・六ヲ百分ノ三  
四ニ致シマシテ、僅カ五分五厘ノ減稅ニホ  
カナテ居リマセヌ、併ナガラ個人ノ方ハ平  
年度ニ於キマシテハ一千圓ト云フ所限リ  
マシテ、是ハ免稅點ハ長岡君ハ引上ゲタ方  
ガ宜シイ、サウシテソコノ御意見ハ少シ聽  
落シマシタガ、地方ノ營業稅ノ上ニモ免稅  
點ヲ拵ヘタラドウカト云フ御意見ノヤウデ  
アリマシタガ、成程營業收益稅ニ免稅點ヲ  
拵ヘ、尙ホ營業稅ニ免稅點ヲ拵ヘマシタラ、  
ソレモ一案カト考ヘマス、併シ頗ル取扱ニ  
ハ面倒ナ手數ノ掛ルコト考ヘマスルガ、  
我々ハ一千圓ト云フ、個人ニハ限リテ置キ  
マシテ、其上ノ稅ト、其下ノ稅ヲ變ヘマシ  
タカラ、先刻、所得稅ノ累進稅ノヤウナ御  
話デアリマシタガ、別ニ是ハ累進ト云フ意  
味ハ寧ロ我々ハ考ヘテ居リマセヌ、千圓ト  
云フ分界ヲ置イテ、其上ト下トノ稅率ヲ變  
ヘテ見タダケノ話デアリマス、總テ平年度  
ニ於キマシテ、千圓以上ハ七分一厘減シテ  
居リマス、千圓以下ニナリマスト二割一分  
四厘程減ルコトニナテ居リマシテ、法人ト  
個人トノ間ノ區別ヲ一層甚ダシク、個人ノ  
中デモ千圓以下ノ者ニ對シテ稅率ヲ一層下  
ゲテ見タ、斯ウ云フコトニナリマシテ、大  
體ノ我々ノ趣意ハ長岡氏ノ言ハレル所ト大  
シク違ヒハナカラウト、斯ウ考ヘテ居リマ  
ス、ソレカラ其次ノ御問ヒハ、直接稅ト間  
接稅トノ權衡ヲ得テ居ナイ、斯ウ云フコト  
デアリマシタガ、是ハ私ハ一ツ御斷リ申シ

テ置キマス、若シ稅制ノ根本ニ溯テ調査イ  
タシマシテ、之ヲ改正イタシマスナラバ、  
別ニ種々ノ考ヘモアリマシタラウ、併ナガ  
ラ二千五百万圓ト云フ一定ノ金額ヲ以テ之  
ヲ減稅ヲ致シマスノデアリマスルカラ、ド  
コニ此減稅ヲ振向ケタラバ宜シイカ、斯ウ  
云フコトハ最初ニ起テ來ル考ヘ、デアリマ  
ス、稅制ノ整理、減稅ノ場合ニ、目前ノ經  
濟上ノ事情バカリヲ考ヘ、ソレニ囚ハレテ  
減稅案ヲ立テマスルト云フコトハ、勿論正  
シイコトト考ヘルノデアリマスガ、第一今  
日ノ農村ノ狀態ト云フコトヲ考ヘマスコト  
ハ非常ニ必要デハナイカ、サスレバソレ  
ニ對シテ、權衡比較ヲ取テ、數字的ニ申上  
ゲルコトモ出來兼ネマスルケレドモ、是マ  
デ地租ト營業收益稅ヲ相對立シテ居ルト云  
フヤウナ考ヘカランシテ、今日ノ商工業者、  
殊ニ中小商工業者ノ狀態ヲ考ヘマスルト、  
營業稅ニ相當ニ減稅ヲシテ見タイ、斯ウ云  
フ考ヘハ當然浮シデ來ル考ヘデアラウト思  
ヒマス、尙ホ消費稅……消費稅ニ二千五百  
萬圓ノ金ヲ全部振向ケテ見ヤウト云フコト  
モ一應考ヘモシ、又研究ヲ進メテ見タコト  
モゴザイマス、併ナガラ極ク平々タイ言葉  
言ヘバ、今日ノ織物ガ下タ、砂糖ノ値段モ  
下テ居ル、斯ウ云フ場合ニ、消費稅ヲ或  
一種ノ稅ヲ全部ナクスルダケノ茲ニ金ガア  
リマスナラバ、或ハソレモ一案カモ知レマ  
セヌ、併ナガラ消費稅ハ餘程努力イタシマ  
セスト、稅ヲ下ゲタダケ其モノノ値段下  
ゲルコトニハ、豫ネテ、何時デモ、困難ガ  
伴フヤウナコトヲ考ヘマス、國稅消費稅  
ト云フヤウナコトヲズツト割當テ考ヘテ、  
只今ノヤウナ結論ガ出テヤタ譯デアリマ  
ス、ソレナラ之ニ對スル四ツノ稅ノ間ニ斯  
様ナ稅ヲ下ゲタ數字上ノ根據ヲ示セト仰シ  
ヤルナラバ、左程正確ナ數字上ノ根據モナ  
イノデアリマス、ソレカラ先刻餘リニ消費  
稅ガ少ナイ爲ニ飛行機カラ水ヲ落シヤウナ  
モノダト云フ御叱リモアリマシタノデアリ

マスガ、只今申上ゲル如ク一定ノ金額ヲ、  
即チ海軍ノ補充計畫ノ餘剩財源ヲ持テ來  
タノデアリマスカラ、其點ニ付テハ御批評  
ガアリマシテモ、左様ナ風ニ御批評下サリ  
マシテ、或ハ已ムヲ得ヌ所モアリマス、併  
ナガラ是ハ限定サレタ財源ヲ以テ減稅ヲシ  
タト云フ所デ一ツ御了承願テ置キタイノ  
デアリマス、次ハ此減稅ノ財源ハ確實ナリ  
ヤト云フ御質問デアリマシテ、私ガ昭和五  
年ノ豫算ヲ、實行豫算ヲ拵ヘマシテ、特別  
議會ニ出シタ時ノ言葉ヲ引用サレテ、私ノ  
言フコトニ付テ信用ナシ、斯ウ云フ御斷定  
デアリマシタガ、本議會ニ於キマシテモ度  
度申上ゲマシタ如ク、斯様ニ經濟界ガ急激  
ニ變化シヤウト云フコトハ不明ノ至リ、我  
我ハ不敏ヲ詫ビルノデアリマスガ、全ク昭  
和五年ノ五六月カラ日本ノ經濟界ニ斯様ナ  
變化ガ來ヤウ……其原因ハ日本特殊ノ原因  
モアリマセウ、世界不景氣ノ現象モアリマ  
セウガ、左様ナ見込ガ付カナカッタ爲ニ、ア  
レ程ノ歲入缺陷ヲ生ジタト云フコトハ、明  
カナ、是ハ事實トシテ眼ノ前ニ出テ來テ居  
ルノデアリマス、其點ヲ本トシテ御責メ下  
サリマスレバ、事實ハ事實トシテ甘シジテ  
我々ノ不明ヲ謝スル次第デアリマス、併ナ  
ガラ一方ニ失業公債ヲ二千二百万圓募リナ  
ガラ減稅ヲスルト云フコトハ非常ナ矛盾デ  
ヤナイカ、是ハ蝸配當、俗ニ所謂蝸配當デ  
アルト云フ御非難デアリマシタガ、斯ウ云  
フコトト、我々ハ考ヘテ此處置ヲ執リ、今  
デモサウ考ヘテ居リマスガ、假ニ茲ニ二千  
二百万圓ノ借入金ナリ公債ヲ發行イタシマ  
シテ、其事柄ガ、永久ニ互ル事業ガ其起債  
ノ原因デアアル、即チ毎年一般會計ノ上ニ二  
千二百万圓ト云フ公債ヲ計上シテ置イテ、ソ  
レデ一方ニ二千二百万圓ノ減稅ヲ致シマス  
ナラバ、是ハモウ明カニ我々ハ矛盾シテ居  
ルト存ジマス、併ナガラ今日ノ經濟界ノ狀  
態カラ出テ來タ失業者、之ニ對スル救濟ガ  
何年、何十年續カウトモ我々ハ今日見テ居

ラスノデアリマス、即チ一時限リノ救濟方  
法トシテ昭和六年度限リノ財源トシテソレ  
ヲ見テ居ル、減稅ハ未來永劫ニ互ル減稅デ  
アル、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマスカラ、  
俗ニ所謂蝸配當ト云フ批評ハ少シ私ハ酷ニ  
過ギル批評ト考ヘテ、御返上申シタイ言  
葉ノヤウニ考ヘマス、ソレカラ維持費、  
臨時費ノ海軍ノ維持費ガ不十分、繼續  
費以外ノ普通ノ臨時費ノ部ガ少ナイ、恩  
給ノ増額ニ付テ用意ガ足リナイ、從テ  
今度ノ減稅ノ財源ハ不確定タ、ソレデア  
ルカラ、折角來年度行政、財政、稅制ノ整  
理ヲスルナラバ、昭和六年度一時限リノ減  
稅トシテ置イテ、ヤリ直シテハドウカ、之  
ヲ引込メテハドウカ、斯ウ云フ御話デアリ  
マスガ、我々ハ左様考ヘマセヌ、減稅ガ一  
年限リト云フヤウナ減稅ハ國民ニ向テ左  
様ナ事柄ハ出來得ナイ、斯ウ考ヘマス、又  
今般ノ減稅ハ普通ノ財源カラ出テ來タノデ  
ナイノデアリマシテ、海軍補充計畫ノ餘剩  
金ヲ以テ出テ來タノデアリマスカラ、減稅  
ヲ致シマシテ其減稅ノ出來タ後ニ日本ノ稅  
制ヲ根本的ニ整理スレバソレ宜イノデア  
リマシテ、長岡君ト遺憾ナガラ其點ニ付キ  
マシテハ我々ハ意見ヲ異ニシテ居ル次第デ  
アリマス

〔長岡隆一郎君演壇ニ登ル〕  
○長岡隆一郎君 本員ハ午前ニ申上ゲマシ  
タ通り國務大臣ノ答辯ニシテ要領ヲ得ルニ  
於テハ再質問ヲ致サナイト云フコトヲ御約  
束ヲ致シタノデゴザイマスルガ、不幸ニ致  
シテ兩國務大臣ノ御答辯ハ要領ヲ得ズ、誠  
意ヲ缺キ、深切ヲ缺キ、只本員ノ片言隻語  
ノ揚足取り又ハ小股擲ヒニ止テ居ルノデ  
ゴザイマシテ、只答ヘ易キニ答ヘテ、討論  
ニ答ヘ難キニ答ヘズ、若シ本員ニシテ討論  
ヲ許サルナラバ、只今ノ御答辯ノ中ニア  
ル御議論ハ粉碎スルコト易々タルモノデゴ  
ザイマスケレドモ、只今ハ討論ノ場合デゴ  
ザイマセヌカラ、ソレハ申上ゲマセヌ、只

國務大臣ノ答辯中ニ餘リニ事實ニ相違イタシタ點ニ付キマシテハ、多少本員ハ事實ト證據トヲ擧ゲテ再ビ御質問ヲ申上ケル外ハナイノデゴザイマス、是ハ問題ト御答辯ト紛糾イタシマスルカラシテ、順序ト秩序トヲ正サナケレバナリマセヌカラ、本員ノ第一ノ質問、之ニ對スル御答辯、之ニ局限ヲ致シテ質問應答ヲ重ネタイト思フノデゴザイマス、即チ本員ハ現内閣成立以來、此中央ノ財政ノ行詰リ若クハ破綻ト云フコトヲ地方財政ニ轉嫁スル、或ハ國家ガ當然支辨スベキ事業若クハ費用ヲ地方財政ニ轉嫁イタスト云フコトヲ質問イタシマシタガ、第一ノ質問ニ對シマシテ、只今安達内務大臣ハ地方財政ヲ壓迫セザル様、歴代ノ内閣ト共ニ努メテ居ルト、斯様ナ御答辯デアッタノデアリマス、先づ第一ニ之ニ付テ質問應答ヲ重ネタイト思ヒマス、果シテ現内閣ハ地方財政ヲ壓迫セザル様、努メテ居ラル、ヤ否ヤ、其第一ノ例ハ河川港灣等ノ土木工事ノ線延ベニ際シ、國費ノ不足ヲ補ヘンガ爲ニ地方費ノ分擔金ヲ線上納入セシメタル事實非常ニ多シ、本員ノ調査シタル所ニ依リマスレバ、昭和五年度ノ實行豫算ノ河川費及ビ砂防費ニ於キマシテ國庫ノ責任支出額ヨリ約七十七萬圓ヲ線延ベ、地方ヲ強制致シテ地方分擔金ヨリ二百三十六萬圓餘ヲ線上補充セシメタル事實ガゴザイマス、又昭和六年度ニ於キマシテハ、國庫ノ責任支出額ヨリ四百一十一萬圓餘ヲ線延ベマシテ、地方費ヨリ四百一十一萬圓餘ヲ線上納付セシメタ事實ガゴザイマス、港灣修築費ニ於キマシテモ同様ノ遺線リガ行ハレテ居ルノデゴザイマス、即チ昭和六年度ノ治水事業費ニ於キマシテ、地方費ノ分擔ヲ見マスルト、當該年度ニ於テ地方費ノ分擔計上ナカリシニ拘ラズ、新タニ納入ヲ命ジタルモノ荒川上流改修工事、神通川改修工事、富士川改修工事、緑川改修工事、千曲川改修工事、阿賀川及阿武隈川改修工事、天龍川改修工事、

紀ノ川改修工事、信濃川上流改修工事等デゴザイマシテ、當年度治水事業費ニ少々ノ地方費ノ分擔金ノ豫定ハアリマシタケレドモ、新タニ巨額ノ増額支出ヲ命ジタルモノ、筑後川改修工事、蘆田川改修工事、鬼怒川改修工事、及ビ手取川砂防工事等デゴザイマス、又港灣修築費ニ於キマシテハ、五年度ニ於テ地方費ノ線上納入ヲ内務大臣ガ御命ジナリマシタモノ、神戸港、横濱港、清水港、小松島港、鹿兒島港等デゴザイマシテ、昭和六年度ニ於キマシテ、地方費ノ線上納入ヲ御命ジナリマシタモノハ、鹿兒島港、小名濱港、浦戸港、尾道港、博多港、舞鶴港等デゴザイマス、茲ニ本員ハ治水工事費地方分擔金改修年度別表及ビ港灣改良費、豫算改訂ニ依レル地方費線上表、是ハ持參致シテ居リマス、御必要デゴザイマスレバ御目ニ懸ケマス、併ナガラ今ハ時間ヲ省ク爲ニ省略致シマス、安達内務大臣ハ一月二十七日ノ衆議院ノ本會議ニ於キマシテ、是等ノ地方費ノ線上ハ地方ノ希望ヲ若干デモ満足サウト云フ爲デアッテ、決シテ弱者ヲ宥メル趣旨デハナイ、斯様ニ御答ニ相反シテ居リマス、併ナガラ事實ハ全ク之ヲ極メテ居リマスルコトハ先程申上マシタガ、如何ナル地方ニ於キマシテモ、約束以上ノ金ヲ而カモ起債マデ致シテ、國家ニ納入スルコトヲ喜ンデ致ス者ハゴザイマセヌ、何故之ヲ致スカト言ヘバ、工事費ヲ打切ラレルト云フコトガ怖イノト、安達内務大臣ガ怖イカラ泣ク泣ク之ヲ致シテ居ル、内務大臣ガ斯ノ如キ御答辯ヲ爲サルドラウト云フコトヲ本員ハ豫想致シテ居リマシタカラ、實ハ本員ハ此地方ノ府縣會ノ速記録ヲ悉ク取寄セテ調査致シテ見マシタ、山形縣會ノ速記録ヲ見マスルト云フト、昭和五年度ニ於キマシテ、最上川改修工事ノ納付金十四萬四百二十二圓ヲ新タニ計上スルニ當リマシテ、山形縣知事ハ山形縣會ニ於テ

本件ハ既定計畫上昭和五年度ニ於テハ納付ヲ要セザルモノデハゴザイマシタガ、過般内務大臣ノ訓令ヲ以テ……過般内務大臣ノ訓令ヲ以テ線上納入ヲ命ゼラレマシタノデ、是ガ所要經費ヲ計上致シマシタ、斯様ニ速記録ニゴザイマス、又青森縣會ノ議事録ヲ見マスルト、岩木川ノ改修工事分擔金、十一萬二千圓ヲ議決スルニ當リマシテ、元來昭和五年度ハ既定計畫ニ依レバ、縣ハ分擔金ヲ納入スルヲ要セズ、然ルニ政府ヨリ新タニ納入ヲ命ゼラレタルモノトシテ既ニ議決ヲ經居レリ、起債及ビ償還方法ノ變更ヲ議決スルノ已ムヲ得ザルニ至ッタ、ト云フコトニナッテ居ル、元來此汽船ニハ經濟速力ガアルガ如ク、土木ノ工事ニハ經濟工程ト云フモノガアリマス、餘リニ此工事を急グト云フト、金ハ掛リマスケレドモ……其經濟工程ニ依ッテ工事をヤッテ居リマスル時ニ、突然之ヲ線延マスルト云フト、其爲ニ技師モ遊バセテ置カナケレバナラス、或ハ此機械ニハ鑄止メヲシテ置カナケレバナラスト云フヤウナコトカラ、非常ナ不經濟ニ相成ルノデアアル、技師者ノ言ヲ聽キマスルト、河川改修工事ト云フモノハ七分出來、若クハ八分出來ト云フモノガ一番危ナイ、危險ナ狀態デアリマシテ、其時ニハ堤防ヲ切ッテ仕事ヲシテ居ルコトモゴザイマス、若クハ河川ノ中心ニ於テ機械ヲ据著ケテ掘鑿ヲシテ居ルコトモゴザイマスカラ、其時ニ線延若クハ打切ヤラレタナラバ、沿岸ノ住民ハマダ河川改修ニ著手セザル時ヨリ危ナイ、又港灣改良ニ於キマシテモ同様デゴザイマシテ、例ヘバ防波堤ノ基礎工事ヲ途中デ止メマス、人工ヲ以テ海底ニ此暗礁ヲ造リヤウナモノデゴザイマシテ、出入ノ船舶ト云フモノハ危險極リガナイ、而モ暴風ノ爲ニ基礎工事ノ捨石ト云フモノガ海底ニ散亂イタシマスルカラ、斯ノ如キ時ニ線延ヲ致サレタナラバ、是ハ堪ラナイ、即チ安達内務大臣ガ衆議院デ御答辯ニナリマシ

タ地方ノ希望ト云フノハ、地方費ヲ線土ガ國庫ニ納入シタイト云フ希望ニ非ズ、即チ地方ノ希望トハ、工事を打切り線延ベザルコトヲ希望デゴザル、是ガ即チ地方ノ希望デアリマス、此國庫ガ線延ベマスルコトニ對シテ、地方費ガ線上納付スル金ト云フモノハ、全部トハ申シマセヌガ、殆ド全部ハ起債ニ依ッテ居リマス、是ハ本員確チ證據ヲ有ッテ居リマス、殆ド全部ハ起債ニ依ッテ居リマシタガ故ニ、此地方費カラ線土納付イタシマシタ金ノ起債ニ依ッテ納付金ノ利子ト云フモノハ、是ハ殆ド全部地方費ノ負擔ナルノデアリマス、此道路改良費ニ付テモ同ジヤウナコトガゴザイマスガ、管ミシイカラ、是ハ止メテ置キマス、斯ノ如キ事實アルニ拘ラズ、尙且國費ノ歳出ヲ減ズルガ爲ニ其患ヒヲ地方費ニ轉嫁シ、地方費ノ納付ヲ線上ガタ事實ナシ、斯ウ仰シヤルノデゴザイマス、伺ヒタイ、第二ノ政府ハ米價調節維持ノ爲ニ、即チ米ノ買上ノ費用ニ窮シタカラ、國家ガ府縣ノ罹災救助基金若クハ町村ノ基本財産等ヲ流用セシメタコトガ其例デゴザイマス、昨年ノ秋ニ未曾有ノ豐作ノ爲ニ米價ガ著シク下落イタシマスルヤ、政府ハ米價調節ノ……維持ノ爲ニ米ヲ買上ゲント欲シマシテモ、其米穀特別會計ハ既ニ損失ニ損失ヲ重ネ、買上ノ餘力幾何モナカッタ爲ニ、農林省ヨリ白羽ノ矢ヲ立テタモノハ、即チ府縣及ビ町村ノ積立テマシタ罹災救助基金及ビ町村ノ基本財産デゴザイマス、當時地方長官ニ發シマシタ往復書類ヲ調査イタシマスルニ、十月十七日農務局長依命通牒、十一月八日農林次官依命通牒十一月四日内務次官通牒、十一月二十日農務局長依命通牒、十一月二十九日農務局長依命通牒、十二月十六日農務局長依命通牒、マダ澤山アリマスケレドモ、此中本員ノ質問ニ關係ノ無イコトハ略シテ置キマス、又其中ニ秘通牒ト書イテアリマスモノハ、本員ハ德義上斯ウ云フ公

席ヲ發表イタシマセヌガ、其通牒ノ全部ハ此處ニ持参イタシテ居リマス、唯其中注意イタスベキモノハ十一月二十二日ノ農務局長ノ通牒デゴザリマス、是ハ地方財政ニ對シテ大混亂ヲ與ヘタリトシテ居リマス、農務局長一三七〇一號、昭和五年十一月二十二日、農林省農務局長、各府縣知事殿、米穀對策ニ關スル件、本月二十二日開會致シタル米穀委員會ニ於テ諮問事項ニ付キ別紙ノ通り農林大臣ヨリ説明相成リ候所右ハ米穀對策ニ關スル當局ノ方針ヲ示スモノニ有之候條御參考ノ爲ニ送付ニ及ビ候也」斯ノ如ク書イテアリマス、而シテ此農林大臣ノ御演說ノ第四項ノ中ニ「罹災救助基金其他ノ財源ヲ以テ道府縣及町村ヲシテ全國ニ亙リ若干數量ノ粉又ハ玄米ヲ買入レ、貯藏セシムルコトニ主管省タル内務大藏兩省ト協議ヲ遂ゲマシタ、而シテ其數量ハ農林省トシテハ、道府縣ヲ通ジテ凡ソ五十万石ヲ下ラザル希望ヲ以テ目下交渉中デアリマス、即チ此通牒ノ原因ト相成リマシテ地方財政ニ大混亂ヲ生ジタノデアリマス、元來罹災救助基金ナルモノハ、天災事變ニ際シテ備ムベキ罹災民ヲ救助スベキ目的ヲ以テ、長年月ヲ費シテ府縣ニ於テ積立テタ大事ノ基金デゴザリマス、或ハ夜半警鐘ニ夢ヲ破ラレテ身ヲ以テ燒死ヲ免レ、或ハ濁水洩々軒ヲ洗フ際ニ、一夜屋上ニ立テ救ヒヲ求メ、斯ノ如キ際ニ於キマシテハ、自己ガ貯金ヲ致シテ居ル所ノ郵便局ハ燒ケ出サレ、平素取引シテ居ル所ノ銀行ト云フモノハ共ニ水ニ流サレタト云フ場合ガ少クナイノデアリマス、即チ罹災民ハ斯カル際ニハ、數日間茫然自失爲スコトヲ知ラザルコトガ多イノデゴザリマス、此際ノ處置ト致シマシテハ之ニ對シテ炊出シ米ヲ與ヘ衣類ヲ給シ、小屋掛ケノ材料ヲ與ヘルト云フコトハ、人道上當然ノコトデアアルノミナラス、自治團體ニ對スル恩惠ノ念ヲ養ハシメ、其郷土ヲ愛スルト云フ念ヲ養ハシメル大事ノ機會ト本員

ハ考ヘテ居リマス、從ヒマシテ罹災救助基金ニ對シテハ、之ガ管理運用ニ付テハ、今迄ハ嚴重ナル規定ガアリマシタノガ、之ヲ現内閣ハ忽チ御崩シニナシテ居ル、罹災救助基金法ノ第十七條第一項第二號ニ依リマシテ、豫メ給與品ヲ買入レルコトヲ得」ト云フコトガアリマスルカラ、當局ハ初メ豫メ給與品ヲ買入レルコトヲ得ト云フ規定ニ依テ處置ヲ爲ス、最近即チ二月ノ二十六日ニナシテ其御方針ハ變ジテ居リマス、初メハサウ云フ御方針デアッタ、即チ當局ノ御方針ニ依レバ米價ノ下落ト云フモノハ地方民ヲ甚シク苦シメルモノデアアルガ故ニ、豫メ非常災害ノ場合ノ炊出シ米用トシテ、米穀ヲ買入レ貯藏スルコト云フコトハ、米價維持目的トスルコトト、備荒貯蓄目的トスルコトト、一石二鳥ヲ得ルコト云フコトヲ御考ヘデアラシ、此御考ヘヲ伺ヒマシタカラ、本員ハ過去ニ於ケル所ノ罹災救助基金ノ決算ヲ悉ク調ベテ見マシタ、即チ非常時ノ炊出シ米ハ交通機關ノ完備セザル時代ニ於キマシテハ豫メ買入レルコトガ必要デゴザイマセウガ、過去ノ罹災救助基金ノ食料費支出額ト云フモノノ決算ヲ調ベテ見マシタ、大正十三年度ニ於キマシテハ十一萬圓餘、大正十四年度ニ於キマシテハ十四萬圓餘、大正十五年昭和元年度ニ於キマシテハ二十六萬圓餘、昭和二年度ニ於キマシテハ二十五萬圓ト云フヤウナ決算ト相成リテ居ルノデアリマシテ、即チ炊出シ米トシテ必要ナモノハ一年僅ニ一萬石内外デゴザイマス、今農林省ノ通牒ヲ御發シニナリマシタ此五十万石ヲ買入レルコトニ致シマシタナラバ、一石二十圓ト致シマシテ府縣ノ支出ハ一千万圓、十八圓ト致シテ九百萬圓、十六圓ト致シテ八百萬圓ト相成ルノデアアル、即チ過去ノ罹災救助基金ノ食料費ノ決算カラ見マスルナラバ、斯カル莫大ナル買入レシ米ト云フモノハ約五十年ヲ經過シナケレバ炊出シ米トシテ使用シ盡セナイト云

フコトニ相成ッテ居リマス、御承知ノ通り米ハ長ク貯藏イタシマスレバ品質ヲ損ジマス鼠喰ヒ蟲喰ヒ等ノ爲ニ數量ヲ減ジ、倉庫ノ保管料モ要シ、金利モ食フト云フコトニ相ナル、米穀特別會計ニ於テ一億五六千萬圓ノ損失ヲ生ジテ居ルコト云フコトガ、此原因茲ニ存スルノデゴザイマス、然ルニ本員ノ調査スル所ニ依リマスレバ、岩手縣ニ於キマシテハ右ノ通牒ニ依リマシテ既ニ罹災救助基金ノ中カラ十七萬九千六百七十八圓ト云フモノヲ買上グベク決議ヲ經テ居リマス、青森縣ニ於キマシテモ同様に手續ヲ經タト云フコトヲ兩三日前ニ聞キマシタガ、其金額ハマダ本員ニ報告ガゴザイマセヌ、斯ノ如キコトガ各府縣ニ行ハレマシタナラバ、折角多年苦シメ積立テマシタ罹災救助基金ト云フモノハ、春ノ運雪ノ如ク消エ去ルト云フコトハ當然デアリマス、最近ニ至リマシテ、當局ハ方針ヲ變ゼラレマシテ、罹災救助基金法第十七條第一項第二號ノ規定ニ依ラズ同條第一項第一號ノ規定ニ依リマシテ、一旦罹災救助基金ヲ府縣ニ貸付ケ、一般會計ニ於テ起債セシメ、親又ハ玄米ヲ買入レシムルコトトシテ數日前ニ通牒ヲ御發シナリマシタ、ソレハ本員此處ニ持ッテ居リマス、昭和六年二月二十六日、各地方長官宛、地方公共團體ニ於テ親又ハ玄米購入貯藏ニ關スル件依命通牒、罹災救助基金ヲ以テ親又ハ玄米ヲ購入貯藏スルモ差支ヘナキヤ否ヤニ關シ御問ヒ合セノ向モ有之候處、農村救済ノ爲メ府縣其他ノ公共團體ニ於テ之ヲ購入、貯藏ヲ爲スハ已リ得ザル義ト存ゼラレ候ヘ共ニ云々、追書ト致シテ「追而地方公共團體ニ於テ之ヲ購入貯藏シ爲サムトスル場合ハ罹災救助基金等ヨリ資

金ヲ運用シ一般會計(又ハ特別會計)ニ於テ購入相成リ度ク」云々、斯ウ云フコトニ相成ッテ居ル、右ノ方針ハ前ノ方針ヨリ幾分其弊ヲ少クシテ居リマス、結局罹災救助基金ノ損失ヲ一般地方費ニ轉嫁シタト云フコトニ過ギマセヌ、如之明ニ府縣制ノ第十七條ニ違反イタシテ居リマス、府縣制ノ第十七條ニ曰ク「府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ府縣ノ永久ノ利益トナルベキ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變等ノ爲メ必要アル場合ニ限リ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得」斯ウ云フ規定ニ相成ッテ居ル、即チ府縣ガ罹災救助基金カラ金ヲ借入レテ起債ヲスルコト云フノハ三ツノ場合シカナイ、第一ハ負債ヲ償還スル爲メ、之ニハ該當イタシマセヌ、天災事變等ノ爲メ、之ニモ該當イタシマセヌ、即チ強イテコヂケレバ「府縣ノ永久ノ利益トナルベキ支出ヲ要スル爲メ」之ニ當テ嵌メタモノト考ヘテ居ルデアリマス、從來ノ例ニ依リマスルト、府縣ノ永久ノ利益トナルベキト云フコトハ、或ハ治水事業ヲ致シマシテ之ニ依ッテ沿岸ノ苦痛ヲ除クコトカ、或ハ道路ヲ改修イタシテ之ニ依ッテ産業ノ發展ヲ圖ルコト云フヤウナ場合ニ限ラレテ居ルデアリマシテ、目前ノ米價ノ釣上グノ爲メ、即チ府縣ノ自治團體永久ノ利益ヲ爲メ何等ノ關係ガナイ、米價ノ釣上グノ爲メ、起債ヲ許スト云フ例ハ今日マデゴザイマセヌ、強イテ例ヲ求メマシムト云フコト、或ハ生業資金ノ爲ニ起債ヲ許シタコトモゴザイマス、町村ノ歳入缺陷ノ爲ニ起債ヲ許シタコトモゴザイマス、是ハ何レモ惡例デアアル、而モ現内閣ハ非寡債主義ヲ標榜サレテ、成ルベク府縣ニ起債ヲ許サナイト云フ方針ヲ執リテ居ルニ拘ラズ、米價釣上グト云フ物價政策ヲ、自治團體ノ永久ノ利益ト認メテ、非寡債主義ヲ破綻セシメタト云フコトハ、是ハ如何ナルモノデゴザイマセウカ、斯ノ如キモノニ起債ヲ擴ゲマシタナラバ、府縣ノ行方所ノ有ラニル事業ニ對シテ結局起債ヲ許ス外ハナイト思ヒマス、次ニ農林省ノ通牒ニ依リマシテ、町村ノ基本財産ヲ流用シテ玄米ヲ買上グタ例ハ天下ニ澤山アリマス、是ハ例ガ澤山ゴザイマス、私ハ一例ヲ擧ゲマ

ス、福井縣ニ於キマシテハ昭和五年十一月二十九日、縣令第二十四號ヲ以テ市町村基本財産管理監督規定ヲ改正イタシ、否、改惡ヲ致シ、從來市町村ノ基本財産ハ嚴重ニ保管管理セシメタルニ拘ラズ新タニ玄米買入ノ爲ニ流用ノ途ヲ開キ、町村ノ基本財産ヲ流用シテ米ヲ買上ゲシメタ例ガアルノデアリマス、此處ニ福井縣ノ縣令第二十四號ヲ持參イタシテ居リマス、又福井縣ノ此市町村基本財産管理監督規定ノ改正ノ結果、町村ノ基本財産ヲ流用イタシテ粗ト玄米ヲ買上ゲマシタ實例ハ、此處ニ持參イタシテ居リマス、管シイカラ省キマス、ソコデ本員ハ敢テ此米價調節ヲ

〔議長公尊徳川家達君議長席ニ復ス〕

非ナリト申ス者デハアリマセヌ、何カ本員ガ米價調節維持其モノニ反對スルガ如ク誤解ヲサレタナラバ、本員ハ大イニ迷惑ヲ致ス、本員ノ如キハ長崎縣ノ一農村ノ出身デアリマシテ、農家ノ窮狀ト云フモノハ實ニ外ノ人ヨリモ身ニ染ミテ感ジテ居ル、此農家ノ救済ノ爲ニ農林省ノ事務官ノ諸君ガ能ク御苦心ナサテ居ルト云フコトハ本員陸ナガラ感謝イタシテ居ル、米價調節其モノニ付テ何等不平ハゴザイマセヌガ、併ナガラ米穀法ノ精神ニ照シ、又米穀法立法當時ノ議會ニ於ケル質問應答ノ狀況ヨリ見マシテ、米價ノ調節維持ト云フモノハ專ラ米穀特別會計ノ運用ニ俟ツベキモノニシテ、府縣ノ罹災救助基金、若クハ町村ノ基本財産マデ之ヲ使ヒ込ムト云フ趣旨デハナイト云フコトハ明瞭デゴザイマス、政府當局ハ目的ノ爲ニ手段ヲ選バズ、米穀特別會計運用ノ行詰リテ地方財政ニ轉嫁イタシ、府縣市町村自治團體ニ對シ、其職能ノ範圍ヲ超越セシメ、損失ヲ地方費ニ轉嫁スルト云フコトハ是ハ本員贊成出來ナイノデアル、右ノ如キ問題ニ對シマシテ本員ハ農林大臣ヨリ米價對策ノ御答辯ヲ伺ヒタイトハ思ハナイ、又此土木費ニ對シテ、其事項ソレ自身

ニ對シテ内務大臣ヨリ御答辯ヲ願ハナイ、併ナガラ主務大臣ハ斯ノ如キコトヲ致シナガラ尙且ツ國ノ當然負擔スベキ費用ヲ地方費ニ轉嫁シタル事實ナシト、斯ノ如ク仰シヤル御勇氣アル否ヤ、斯ノ如キ例ヲ舉ゲマシタナラバ澤山ゴザイマス、國ノ當然支出ヲ要スベキ失業救済ノ費用ヲ、主トシテ地方ニ負擔セシメタルガ如キ其一例デアル、救護法ノ施行ハ本員ノ最モ熱望スル所デアリガ、其財源トシテ東京府及大阪府ニ對シテ警察費ノ連帶支辨金ヲ減ジ、國庫下渡金ヲ減ズルト云フヤウナ、地方費ヲ支拂サセルト云フコトノ一例モアル、斯ノ如キ例ヲ舉ゲマシタナラバ枚舉ニ追ナイ、本日ハ之ヲ略シテ置キマス、ソコデ今回御提案ニナリマシタ減稅案モ亦其例ニ漏レズ、其實例ハ之ヲ舉グルニ其數餘リニ多キヲ苦ンデ居ルノデアリマス、併ナガラ此處ニ實例ヲ舉ゲマスレバ國稅徵收法第五條ノ規定ニ依ル所ノ市町村交付金ノ如キモノモ、今回ノ改正ニ依リマシテ昭和六年度ニ於キマシテハ二十三萬九千五百四十七圓ヲ減ジ、平年度ニ於キマシテハ四十一萬七百二十三圓ヲ減少イタスト云フコトニ相成テ居ル、此市町村ノ財源ノ缺陷ニ付テ政府ハ何ノ御考慮モ拂ハレテ居リマセヌ、大正十五年ノ稅制整理案ガ帝國議會ニ提出サレマシタ時ハ、當時ノ政府ハ市町村交付金ノ減少ニ依ル地方費ノ缺陷ヲ補フガ爲ニ、他ノ財源ヲ此市町村ニ與ヘテ市町村財政ノ苦痛ヲ救済シテ居リマス、是ハ市町村ノ財政ニ深切ナル政府トシテ當然執ルベキ方法ト考ヘテ居リマスルガ、今回ノ市町村交付金ノ減少ニ付テハ何等政府ニ於テハ御考ガナイ、更ニ政府ノ言明セラルルガ如キ營業稅ノ、即チ府縣稅ノ營業稅ノ輕減ガ行ハルモノトシマシレバ、府縣制施行令第三十一條ノ規定ニ依リマシテ、此市町村ニ對スル交付金モ亦減少スルモノト見ナケレバナリマセヌガ、之ニ對シテ政府ハ何等ノ御考慮モ拂テ居ラレ

マセヌ、政府ハ尙ホ地方財政ニ付テ深切ト誠意ヲ缺クモノト御認メニナリマセヌカ、本員ハ以上列舉シタル事實ニ付キマシテ各主管大臣ヨリ、即チ内務大臣、農林大臣等ヨリ其事項其モノニ對スル御答辯ヲ要求シテ居ル者デハゴザイマセヌ、併シナガラ主管大臣ハ以上ノ事實ヲ示シ、之ヲ歸納イタシテ尙且ツ政府ハ地方財政ヲ壓迫セル事實ナシト仰シヤルノデアルカ、尙且ツ國家ノ當然負擔スベキモノヲ地方經濟ニ轉嫁セシメタル事實ナシト仰シヤルノデアルカ、尙且ツ政府ハ地方財政ノ指導ト監督トニ誠意ト深切トヲ缺ケル事實ナシト仰シヤルノデアアルカ、ソレトモ主管大臣ハ潔ク前言ヲ御取消シニナリマシテ、從前ノ地方財政壓迫ノ事實ヲ御認メニナリ、將來此方針ヲ改善スル意思アリト卒直ニ仰シヤル御勇氣アリヤ否ヤ、或ハ是ガ方年ノ政府ノ研究ノ末ナリトシテ、相變ラズ前ノ御答辯ヲ御繰返シニナルキ否ヤ、本員ハ只今申上ゲマシタ趣旨ニ依リマシテ第一ノ質問ニ對スル御答辯ニ依リマシテハ第二、第三、第四、第五、第六、第七、第八ノ質問ニ付キマシテモ、更ニ當局ニ調査シタル材料ニ依リマシテ、證據ト事實トヲ舉ゲテ、再質問ヲ致シタイト考ヘテ居ル、之ニ對シテ主管大臣ノ明瞭ナル、而モ明快ナル御答辯ヲ求メタイト考ヘマス

〔國務大臣安達謙藏君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(安達謙藏君) 長岡君ニ御答ヘ致スガ、第一ノ御尋ネハ河川港灣等ノ經費ニ付キマシテ中央國庫デ負擔スベキ所ノモノヲ地方費ニ轉嫁シテシマウ、ソレデ衆議院デ弱者イデメルモノデハナイカト云フ質問ニ對シテ、サウデハナイト云フコトヲ答ヘタト云フ、大體ニ於キマシテハ河川港灣ノ經費ヲ地方ニ轉嫁スル、此質問ニ對シマシテハ、大體財政ノ整理緊縮ヲ致シマスニ付キマシテハ、各方面トモ節約線延ラスルガ當然デアリマス、單リ土木費ノミ線延

ベスル譯ニハ參リマセヌ、殊ニ金額ノ多イノ土木費デアリマス爲ニ、去リナガラ地方ノ希望ヲ申シマスモノハドウカト申シマス、地方ハ河川ニ於キマシテモ、港灣ニ於キマシテモ、非常ニ其竣工ノ速カナラムコトヲ希望シテ居リマス、ソレデ茲ニ中央カラ財政ノ整理緊縮節約ヲスルト云フ大方針ト、地方ノ一日モ速ニ河川ナリ、港灣ナリノ速ニ竣成ヲ欲スルト云フ所ノ要望トハ、茲ニ確カニ矛盾ガアリマス、中央カラ整理節約シタイ、地方ハ一日モ速ニ竣成ヲ希望スル、ソレデ之ヲドウシテ調和スルカト云フコトガ、是ガ問題デアッテ、ソコニ政治ノ妙諦モアルト私ハ考ヘテ居ル、大方針トシテハ整理節約ヲスル、御話ノ通りニソレハ或ル場合ハ技師モ遊バセル、機械ヲ鑄ニスル、成ルベクサウ云フコトノナイヤウニ致シマスケレドモ、極端ニ言ヘバサウ云フコトガアッテモ、茲ニ根本方針トシテ、國家ノ財政ノ整理緊縮ヲスルト云フ以上ハ、御尋ノヤウナコトガアッテモ已ムヲ得ヌ、ソコ迄ノ決心ガナケレバ根本的ノ整理節約ハ出來マセヌ、ソレデ一方ニハ整理節約ヲスルト云フコトト、地方ノ希望ハ非常ナ痛切ナ希望ガアル、其希望ヲ若干滿タスト云フコトノ、即チ相互ノ調和ヲ圖ラネバナリマセヌカラ、ソレデ御尋ノヤウナコトハ、或ハ地方負擔ヲ線上ゲマシテ、サウシテ是マデノ年度ヲ變更イタシテ、先キニ地方費ヲ出スコトヲ許シタ所ガアリマス、是ハ其地方ハ皆起債ノ力ガアリマシテ、此起債ヲ先キデ爲サネバサウヌモノヲ、ソレヲ幾年カ線上ゲテ今日其起債ヲ致シマシテモ、其地方ハ決シテ負擔ニ於テ困ルコトハナイト云フ負擔力ノ確カニアル所デアリマスカラシテ、是ハ此土木行政ニ於テ、私ハサウ云フコトヲスルノモ已ムヲ得ナイト考ヘテ居ル、決シテ、中央ノ負擔ヲ地方ニ轉嫁シテ、中央ハ無責任ナコトヲスルデハナイカト云フ御問ヒデスガ、幾年カノ後ニハ必ズ國庫

カラ之ヲ負擔スルコトハ當然ナコトデアリ  
マスカラ、決シテ無責任ナコトデアリマセ  
ヌ、又地方ハ十分起債スルノ負擔力ガアル  
ト云フコトヲ確メマシテ、又其起債ハ決シ  
テ無用ニナラナイト云フコトガ的確ニ分リ  
マシテ、サウシテ之ヲ許シテ居リマスカラ、  
地方ハ是デ元ノ計畫通りニ參リマセナク  
モ、今日ノヤウナ財政窮乏ノ間ニ於テ、自  
分ノ要望スル所ノ港灣ナリ河川ナリガ速ニ  
出來ルト云フコトハ大變喜ンデ居リマス、  
ソレカラ第二ノ御問ヒデアリマス、罹災救  
助基金ノコトデアリマスガ、是ハ最後ニ御  
讀上ゲニナリマシタ通牒ガ事實デアリマシ  
テ、罹災救助基金ヲ以テ直ニ米及粳ヲ買入  
レルト云フヤウナコトハ致シタコトハア  
リマセヌ、罹災救助基金ノ性質ハ能ク承知  
イタシテ居リマス、唯地方カラサウ云フコ  
トヲシタイト云フヤウナ要望ノアリマ  
ス爲ニ、ソレデ誤ラザルヤウニ注意イタ  
シマシテ通牒ヲ出シテ置キマシタガ、  
ソレハ御朗讀ノ通りノ通牒デアリマシテ、  
罹災救助基金デ米及粳ナドヲ買入レタコ  
トハアリマセヌ、其罹災救助基金ヲ府縣  
會又ハ參事會ナドデ借入ノ決議ヲ致シマシ  
テ、サウシテ農村ノ疲弊困憊ガ其極點ニ達  
シテ居ル、其疲弊困憊ノ極點ニ達シテ居ル  
所ノ萬々已ムヲ得ザル所デ其救済ヲ致シタ  
イト云フ考カラ、低利ノ罹災救助基金ヲ利  
用スルト云フヤウナコトハ、ソレハ差支ハ  
ナイト云フ意味ノコトニナツテ居リマスガ  
ラ、敢テ罹災救助基金ノ其性質ソレガ爲  
ニ壞ハスヤウナコトハアリマセヌ、萬一損  
失ガアツタ場合ハ府縣ガ其損失ハ負擔イタ  
シマスカラ、罹災救助基金ニハ何等ノ損失  
ヲ與ヘルコトハ萬々ナイノデアリマス、福  
井縣其他ノ御尋ノコトニ付キマシテハ、農  
林省ノ方ノ調ガアルト考ヘマスカラ、私ノ方  
ニハ分テ居リマセヌカラ、是ハ後デ取調ベ  
マシテ私カラ御答ヘ致シマスカ、又ハ農林  
大臣カラ御答ヘ致スコトガ相應シイト考ヘ

マス、ソレカラ失業救済ニ關シテ、地方ニ  
事業ヲ起サシメテ、サウシテ國家ハ之ヲ負  
擔セヌト云フヤウナ御尋ガアリマシタガ、  
是モ失業救済ノ爲メ、已ムヲ得ザルト認メ  
マシテ事業ヲ起スコトヲ許シテ居リマス、  
併シ其事業タルヤ、各地方ニ於キマシテ、  
多年其事業ノ起工スルコトヲ要望シテ居ル  
問題デ、決シテ失業救済バカリノ爲デ其事  
業ガ地方ノ用ニ立タナイコトハ、萬々アリ  
マセヌ、皆地方ガ多年要望シテ居ル所ノ事  
業ヲ特ニ選ビマシテ、サウシテ失業救済ノ  
爲ニ起債ヲ許シ、起工スルコトヲ許シテ居  
リマスカラ、此點カラ言ヒマシタラバ一舉  
兩得ト申シテ宜シウゴザイマスカ、其爲ニ  
失業救済サレル、無論失業ノ防止ニハ  
ナリマスカ、殊ニ地方ノ産業ノ發展ニモ其  
事業ハ裨益スル所頗ル大デアリマスカラ、  
決シテ失業救済地方ニ轉嫁シテ、地方ヲ  
壓迫スルヤウナコトハアリマセヌ、是モ各  
町村トモサウ云フ起債ヲ致シマス所ノ其力  
ヲ調ベテ、十分起債ノ力ガアルト云フコト  
ヲ確メテ、又其事業ノ性質、將來ノコトナ  
ドモ考慮ヲ致シマシテ、之ヲ許可シテ居  
リマスカラ、何等ノ不都合モナイト考ヘ  
マス、ソレカラ今度ノ減稅案ニ付キマシテ、市  
町村交付金ノ減少ニ依ル市町村費ノ缺陷ニ  
ハ何故手ヲ著ケナイカト云フコトデアリマ  
スガ、ソレハ國稅府縣稅ノ徵收事務ガ減少  
イタシマス爲ニ、交付金ヲ増加スルノ必要  
ハナイト考ヘテ居リマス、大體御尋ノ意味  
ハ盡セタカト考ヘマスカラ、此段御答ヘ申  
上ゲマス

失禮ナコトヲ申上ゲマスガ、本員ノ質問ノ  
趣旨ヲ御諒解ニナリマス基礎的ノ御知識  
モ亦缺ケタルヤニ拜承イタスノデアリマ  
ス、是ハ他日或機會ヲ得マシテ、御諒解ヲ  
願ヒ易イヤウナ言葉ヲ以テ、他日御質問ヲ  
申上ゲルコトト致シテ、本日ハ當席ニ於キ  
マスル此問題ニ對スル質問ヲ打切りマス、  
尙ホ本員ハ只今質問ヲ致シマシタ八項ノ問  
題ノ中ニ外ノ二三ノ問題ニ付テ、即チ此減  
稅案ノ贊否ヲ決スルニ付テ、濱口總理大臣  
ヨリ御答辯ヲ直接願ヒタイヤウナ問題ヲ  
持テ居ルノデアリマス、是ハ本日申上ゲマ  
セヌ、私ハ同僚花井卓藏君カラ申上ゲマシ  
タヤウニ、強ヒテ此御負傷後ノ、又此御衰  
弱ニナツテ居ル濱口總理大臣ニ對シテ、御登  
院ヲ願フト云フヤウナ考ハ、本員個人トシ  
テハ毛頭持テ居リマセヌ、是ハ花井君ノ御  
考ト同様デゴザイマスカ、併ナガラ幣原  
國務大臣ハ其コトヲ能ク考慮イタシタ上ニ  
近日、三月上旬ニ濱口總理大臣ハ登院セラ  
ル、斯ウ云フ御答辯デゴザイマシタガ故  
ニ、即チ濱口總理大臣ハ貴衆兩院議員ニ對  
スル答辯ハ……、質問應答ニ耐ユルダケノ  
健康ヲ回復サレテ、三月上旬、即チ遅クモ  
三月十日迄ニハ御登院ニナル、斯ウ云フ御  
趣意ト承リマスルガ故ニ、本員ハ此減稅案  
ノ贊否ヲ決スル重要ナ二三ノ問題ニ付キマ  
シテハ、濱口總理大臣ガ三月十日マデニ御  
登院ニナツタ時ニ於キマシテ、或ル機會ヲ得  
マシテ御許シテ得テ更ニ質問ヲ致シマシテ  
之ニ依テ本員ノ贊否ヲ決シタイト考ヘテ  
居リマス、本日ハ之ヲ以テ質問ヲ打切りマ  
ス

ソレヲ以テ減稅ニ充テラレル、斯ウ云フコ  
トデアリマス、故ニ此國防ニ關係致シマス  
ル點ガアリマスルカラ、其點ニ付キマシテ、  
即チ根本ノ問題ニ付キマシテ、聊カ御尋シ  
ナケレバナラヌ法理論デアリマス、他ハ此  
財源、減稅ヲセラレテノ財源ニ關スル問  
題、此二箇ノ問題ヲ以テ御質問シタイト思  
フノデアリマス、濱口内閣成立以來此本議  
會ニ於キマシテ、御演說又ハ御答辯ヲ拜聽  
致シマスルト、甚ダ遺憾ナル點ガ多イノデ  
アリマス、殊ニ法理論的ニ至リマシテハ支  
離滅裂ト申シテモ私ハ差支ナイト思フ位ナ  
御答辯デアアルノデアリマス、昨年ノコトデ  
アリマス、又本年ノ議會ニ於キマシテモ、  
如何ナルコトヲ言ハレタカ、彼ノ對酌ノ問  
題ノ如キ、是ハ最早私ハ論議致シマセヌ、  
諸君ノ御判斷、又ハ國民一般ガ此政府ノ答  
辯ヲ以テ満足スル者ハ一人モナカラウト思  
フノデアリマス、又昨年實行豫算ニ關スル  
法理論ヲ致シマシテ遠慮ナリト云フコトヲ  
申述ベタ、本年ハ亦桑山君ガ此演壇ニ於テ  
同様ノコトヲ述ベラレテ居ル、之ニ對シマ  
シテモ、是ハ桑山君ガ保留サレテ居リマス  
ガ、何レ此御答辯モアル筈ト本員ハ期待シ  
テ居ルノデアリマス、併シ此御答辯ニ對シ  
マシテモ、私ハ今マデノ御答辯ハ誠ニ牽強  
附會ナル御說デアルト私ハ信ジテ居ル、又  
奉答文ニ關スル問題、此問題ニ付キマシテ  
モ當局ノ御辯明ト云フモノハ、誠ニ筋ガ立  
テ居ラヌノデアリマス、是ハ、其起リガ、  
幣原首相代理ニ於カレマシテ、私ハ、過  
ア、云フ御答辯ノアツタモノダト思フ、其結  
果過レルコトヲ訂サヌ、又責任ヲ問ハレル  
ト云フコトノ結果、知ラザルト云フコトヲ  
以テ何處マデモ抑サウトカト考ヘラレテ  
生ズルトノ辯明ガ、是ガ支離滅裂ナルハ當  
然デアリマス、斯様ニ種々ノ此憲法ノ本  
義、又ハ此重要ナル國家政務ノ基本ノ法規  
ニ付テノ御解釋ガ支離滅裂ニ相成リマス事  
柄ハ、政治ヲ行ヒマス上ニ、立憲政治ヲ行  
ヒマス上ニ、政治ノ途筋ヲ立テマス上ニ於



キマシテ、甚ダ遺憾ナコトデアリト思フノ  
 デアリマス、ソコデ本員ハ又別箇ヲ見地  
 ヲ、勸カ此際ニ於テ政府當局ノ意見ヲ質シ  
 夕イト思フコトガアルノデアリマス、併ナ  
 ガラ首相代理ニ於カレマシテモ、亦海軍大  
 臣ニ於カレマシテモ、法理ノ専門家デアラ  
 レルノデアリマセ又故ニ、質問ヲ致ス者モ  
 其點ニ付テハ相當ノ考慮ヲ拂フテ質問セ  
 ケレバナラヌト思フノデアリマス、之ヲ強  
 テ御當人ノ答辯ヲ得ント致シマスルト間  
 違ガソコニ出テ來テ、サウシテ是正セラレ  
 ルト云フコトヨリハ、一旦言フテ取消ス  
 コトガ出來ヌト思フテ、過チハ過チ以テ進  
 シテ行カレト云フ弊害ガ出ルノデアリマ  
 ス、故ニ本員モ亦、反省シテ、是ハ内閣ニ  
 於キマシテハ法制局ナリ立派ナル法理ニ關  
 スル所ノ機關ガアルノデアリマス、又長官  
 毛居ラレノデアリマスルカラ、先ヅ以テ法  
 理上ノ見解ニ付キマシテ、現内閣ガ如何ナ  
 ル法理上ノ解釋ヲ持ッテ居ラレカト云フ  
 コトニ付キマシテハ、法制局長官ノ御意見  
 ヲ徵スルト云フコトガ、最モ適當ダト思フ  
 ノデアリマス、唯ソレヲ如何ニ行ッテ居ラ  
 レルカ、如何ニ之ヲ履行シテ居ラレカト  
 云フ事實問題ニ付キマシテハ、其局ニ當ラ  
 レル所ノ國務大臣ニ質サナケレバナリマセ  
 ス、故ニ先ヅ本員ハ最初ニ法制局長官ニ御  
 尋シヤウト思フノデアリマス、此コトハ去ル  
 豫算總會ニ於キマシテ、本員ガ委員外ノ發  
 言ヲ許可サレテ御尋致シマシタ時ニモ、ド  
 ウカ國務大臣ノ法理ニ關スル御答辯ニ付キ  
 マシテハ法制局長官ノ御答辯ニ付キマシ  
 ラ、能ク御打合せノ上ニ間違ヒノナイ御答  
 辯ヲ願ヒタイ、或ハ積極論、或ハ消極論  
 論、兩論ガアリマシテモ、自カラソコニ筋  
 途ノ立ッタル所ノ御論ヲ承ハラナケレバ政  
 治ガ案レルノデアリマス、故ニ只今茲ニ私  
 ハ法制局長官ニ先ヅ以テ御尋シテ置キタイ  
 ト思フノデアリマス、サウシテ本員ガ此質  
 問ヲ致シマス目標ハ何處ニアルカト云フコ

トヲ一應御參考ニ申上ゲテ置カケレバナ  
 ラヌ、ソレハ此度愈々此兵力量ノ決定御  
 就御事項ニ於キマシテハ確立致シタノデア  
 リマス、是ハ結構デアリマス、併ナガラソ  
 レニ議論ガ走ッテ又政府ノ施設ガ之ニ  
 注意ヲシ過ギタガ爲ニ、總理大臣タル身分  
 ヲ有スル國務大臣ノ權限ガ曖昧ニナリツツ  
 アルノデアリマス、本員ハ一面ニ於テ就御  
 事項ノ確立ヲ要求スル同時ニ輔弼論、總  
 理大臣ノ輔弼ノ責任ニ對スル所ノ責任ノ誠  
 ニ重大ナリト云フコトヲ私ハ考ヘザルヲ得  
 ヌ、其點ニ付テ過日來ノ御答辯ニ依ッテ聊  
 カ本員ハ疑惑ヲ抱ク者デアリマス、此目的  
 ヲ十分、政府ノ答辯ニ依ッテ解決致シテ置  
 キタイノハ、此際ニ於ケル法制局長官ニ御  
 質シ致ス所ノ目的デアアルノデアリマス、ソ  
 コデ本員ガ御尋ネ致シマス事柄ハ抽象的ニ  
 御尋ハ致シマセヌ、先ヅ内閣官制第七條、事  
 ノ軍機命令ニ係リ奏上スルモノハ天皇ノ旨  
 ニ依リ之ヲ内閣ニ下付セラルモノハ、件ヲ除  
 外陸軍大臣海軍大臣ヨリ内閣總理大臣ニ報  
 告スヘシトアリマス、ソコデ此條文ヲ素  
 直ニ解釋イタシマスルナラバ、事ノ軍機軍  
 令ニ關スルモノハ、サウシテ奏イタシタ  
 ルモノハ、内閣總理大臣ニ報告セナケレバ  
 ナラヌノデアリマス、「報告スヘシトアリ  
 マス、然ルニ首相代理其他ヨリ御答辯ニ依  
 リマスルト、國務ニ關セザルモノハ報告シ  
 ナクテモ宜シト云フ慣行ニ相成、テ居ル  
 ト云フコトデアリマス、ソコデ第一ニ伺ヒ  
 タイノハ、此官制第七條ニ於キマシテ、條  
 件ハ附シテナクシテ單ニ事ノ軍機命令ニ係  
 ハルトアリマス、是ハ國務ニ關係アル所ノ  
 軍機命令トハ書イテナイノデアリマス、ソ  
 レヲ慣習上此解釋ヲ國務ニ關係セラルモノ  
 ノトセラレテ居ルト、斯ウ云フ御說明ヲヤ  
 ウニアリマスルガ、其點ニ付テ御說明ヲ  
 煩ハサナケレバナラヌ、次ニハ官制第七條  
 ニ「奏上スル」トアリマス、其奏上ト云フ事  
 柄ハ、海軍大臣陸軍大臣ノ奏上、其事ヲ意  
 味スルノデアリマスルカ否ヤ、此二點ニ付

テ法制局長官ニ於テハ如何ナル解釋ヲ有ッテ居  
 ラレカ、次ニ御尋ネ致シマスル問題ハ、  
 軍事參議院會ノ奉答、軍事參議院會ニ於キ  
 マシテハ諮詢ヲ待ッテ之ニ御答申上ガルノ  
 ガ官制ニアル通りデアリマス、法規ニアル  
 通りデアリマス、此軍事參議院會ニ於ケル  
 所ノ此上奏ハデス、此官制第七條ニ依ルモ  
 ノデアアルヤ否ヤ……

○議長(公爵徳川家達君) 池田男爵……  
 ○男爵池田長康君 只今議長ヨリ本案ニ成  
 ルベク關係ノアルヤウニ、本案ヨリ靴シタ  
 イヤウニト云フ御注意ガアリマシタ、斯様  
 ナ御注意ガアリマセウト云フコトハ存ジ上  
 ゲテ居リマシタノデアリマス、併シ此財源  
 問題ヲ御尋ネ致シマス上ニ於キマシテハ、  
 此法理上ノ關係ヲ私ガ承ッテ置キマセヌト、  
 財源ノ質問ニ至リマシテ質問ガ出來ナイヤ  
 ウニナリマス、之、暫ク時間ヲ開クガ願ヒ  
 タイ、ソコデ此軍事參議院會ノ此上奏ナル  
 モノハ、内閣官制第七條ニハ、無關係デア  
 ルノデアリマスルカ否カ、ト云フコトノ御答  
 辯ヲ先ヅ以テ私ハ伺ヒタイノデアリマス

(政府委員川崎卓吉君) 池田男爵ノ御質  
 問ニ御答イタシマス、官制第七條ハ只今御  
 讀上ガニナリマシタヤウニ、事ノ軍機命令  
 ニ係リ上奏スルモノハ天皇ノ旨ニ依リ之ヲ  
 内閣ニ下付セラル、ノ件ヲ除ク外陸軍大臣  
 海軍大臣ヨリ内閣總理大臣ニ報告スヘシト  
 スウナラシメ居ルノデアリマス、之ヲ文字通り  
 ニ解釋イタシマスルト、池田男爵ノ言ハレ  
 ル如クニ、事ノ軍機命令ニ關スルモノデ、  
 天皇ニ上奏シタモノハ、御下付ニナルカ  
 或ハ軍部大臣カラ報告アルカ、ドチラカデ  
 アル、斯ウ云フ風ニ……文字通りニ讀ミマ  
 スレバサウ云フコトニナラシメ居ルノデア  
 リマス、併シ事實今日迄ノ、解釋、今日迄ノ  
 慣行ニ依リマスルト云フト、此軍機命令ニ  
 關シテ上奏シタモノデアリマシテ、御下付  
 ニモナラヌ、又軍部大臣カラ報告ニモナラ  
 スモノガ澤山アルノデアリマス、簡單ナモ  
 ノヲ申シマスレバ、特命檢閱使ノ檢閲シテ  
 上奏サレル、是ハ、御下付ニモナラズ報告

モナイ、ソレハ簡單デアリマセウガ、又是  
 ヲリ重大ナモノデアッテ、御下付ニモナラズ  
 又報告セラレヌト云フモノガ澤山アルヲデ  
 アリマス、ソレガ今日迄ノ慣行ニナラシメ  
 ルノデアリマスルガ、其慣行ノ生ジタツ  
 ハ、上奏サレタ軍機命令ニ關スルモノデア  
 テモ、國務ニ關係アルモノヲ御下付ニサリ  
 或ハ軍部大臣カラ報告スルモノヲヤウサ風  
 ニ、此條文ヲ解釋シ來、テ居ルノデアリマ  
 ス、ソレデ御問ノ、條件ガ附シテナイ……  
 國務ニ關係アリト云フ條件ガ附シテナイ  
 ガ、何故國務ニ關係アリト云フカ、ト云フ  
 ガ第一點ノ御問デアッタヤウニ思フノデ  
 アリマスルガ、只今申シマシタ如ク、文字  
 通りニ申シマスレバ條件ハ附シテアリマ  
 ス、併シ今日迄ノ解釋、今日迄ノ慣行ハ、  
 國務ニ附シタル……國務ニ關係アルモノト  
 云フ風ニ、之ヲ解釋シ來、テ居ルノデアリマ  
 ス、是ハ恐ラク精神上カラソスウ云フ解釋  
 ニナリ來、テ居ルモノト思フノデアリマス、  
 ソレカラ奏上ハ海軍大臣陸軍大臣カト云フ  
 御話デアリマシタガ、是ハ帷幄機關ノ奏上  
 ハ總テ之ニ違ハ、テ居ルモノト考ヘテ居リ  
 マス、從ッテ今日迄ノ軍事參議院ニ於ケル上  
 奏モ、此七條上奏ノ中ニ入ッテ居ルモノト  
 解釋イタシテ居リマス、左様御承知ヲ願ヒ  
 マス

○議長(公爵徳川家達君) 池田男爵ニ伺ヒ  
 マスガ、池田男爵ノ御質議ハ大分長ク相成  
 リマセウカ

○男爵池田長康君 相當長クナリマス  
 ○議長(公爵徳川家達君) モウ一遍願ヒマ  
 ス

○男爵池田長康君 相當長ク相成リマス  
 ○議長(公爵徳川家達君) 定足數ニ缺ケル  
 處ガゴザイマスルカ、御異議ガナケレバ本  
 日ハ是デ延會イタシタイト考ヘマス  
 (「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(公爵徳川家達君) 次ノ議事日程ハ  
 決定次第御通知ニ及ビマス、本日ハ之ニテ  
 散會

午後三時三十一分散會